平成 21 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2010

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ.平成21年度事業概要 …… 1
調査の理由と工程 …… 2
平成21年度　調査遺跡位置図 …… 4
Ⅱ.遺跡調査の概要 …… 7
大口町　堀尾氏邸宅跡 …… 8
岩倉市　御山寺遺跡 …… 12
下新田遺跡 …… 13
稲沢市　鎌倉街道周辺遺跡 …… 15
塔の越遺跡 …… 17
一色青海遺跡 …… 19
愛西市　日置本郷B遺跡 …… 23
瀬戸市　桑下城跡 …… 25
大府市　別岨古窯・炭焼遺跡 …… 30
東浦町　八巻古窯群 …… 31
豊田・岡崎市　下山田代・蕪木地区研究開発施設用地内遺跡 …… 32
岡崎市　車塚遺跡 …… 35
西牧野遺跡 …… 39
安城市　五反田遺跡 …… 43
下懸遺跡 …… 44
惣作遺跡 …… 46
設楽町　田口シウキ遺跡 …… 48
万瀬遺跡 …… 49
中村遺跡 …… 50
八橋谷合遺跡 …… 51
新城市　吉竹遺跡 …… 52
石座神社遺跡 …… 53
須長10号墳遺跡 …… 57
モリ下遺跡 …… 58
豊橋市　多り畑遺跡・辻川遺跡・辻川1号墳 …… 60
多り畑遺跡 …… 61
東屋敷遺跡 …… 63
キジ山古墳群 …… 64
Ⅲ.刊行報告書抄録 …… 67
第163集　K-G-93号窯跡 …… 68
第166集　羽根遺跡 …… 70
堀尾氏邸宅跡 …… 72
Ⅳ.埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録 …… 75
Ⅴ.発掘調査技術等研修会の記録 …… 81
Ⅵ.埋蔵文化財センターの活動 …… 85
写真資料の貸出・提供 …… 86
ホームページほか …… 88
現地・地元説明会等 …… 89
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導 …… 89
平成21年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 92
朝日遺跡発掘調査報告 …… 93

Ⅰ. 平成 21 年度事業概要

調査の理由と工程

1．発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積(㎡)	調査期間	調査担当者
国土交通省中部地方整備局	設楽ダム工事事務所	設楽ダム	田口シウキ遺跡・万瀬遺跡 中村遺跡・八橋谷合遺跡	300	平成21年11月～12月	鈴木
	愛知国道工事事務所	清須JC内水路切廻し	朝日遺跡	130	平成21年11月	永井宏
中日本高速道路株式会社	豊川工事事務所	第二東海自動車道横浜名古屋線	吉竹遺跡	250	平成21年6月～7月	松田・早野・白井
			石座神社遺跡	4,720	平成21年8月～平成22年3月	松田・早野・白井
			モリ下遺跡	3,500	平成21年6月～11月	松田・亀甲
			須長10号墳	1,200	平成22年1月～2月	松田・早野・亀甲
	豊田工事事務所		西牧野遺跡	13,440	平成21年4月～平成22年3月	酒井・石原・武部
愛知県建設部	都市整備課	都市整備推進事業3･3･14号 稲沢西春線	塔の越遺跡	710	平成21年5月～8月	小澤・宇佐見・伊奈
		緊急地方道路整備事業3･3･8号 一宮春日井線	御山寺遺跡	350	平成21年5月～6月	樋上・蔭山
		街路事業3･3･6号 名古屋半田線	八巻古窯群	50	平成21年5月	宮腰・鵜飼
	下水道課	日光川上流流域下水道事業	一色青海遺跡	5,500	平成21年4月～平成22年3月	樋上・小川・榊原
	道路維持課	自転車歩行道設置工事	日置本郷B遺跡	1,100	平成21年12月～平成22年2月	宮腰
		道路改良工事　国道363号	桑下城跡	2,100	平成21年9月～平成22年1月	小澤・宇佐見・伊奈
		都市再生総合整備事業 (一)名古屋豊山稲沢線	鎌倉街道周辺遺跡	200	平成21年5月･10月	石黒・永井宏
		緊急地方道路整備事業 (主)名古屋江南線	下新田遺跡	2,100	平成21年10月～平成22年2月	樋上・蔭山・榊原
		緊急地方道路整備事業 (一)小口江南線	堀尾氏邸宅跡	1,950	平成21年7月～11月	石黒・永井宏
		道路改築工事 (主)岡崎足助線	車塚遺跡	4,430	平成21年10月～平成22年3月	鈴木・川添
		道路改良工事 (主)東三河環状線	多り畑遺跡	1,440	平成21年10月～平成22年2月	池本・本田
		道路改良工事 (主)東三河環状線	東屋敷遺跡	2,060	平成21年10月～平成22年2月	池本・本田
		道路改良工事 (主)東三河環状線	多り畑遺跡・辻川遺跡・辻川1号墳	100	平成21年5月	松田・早野
	河川課	中小河川改良事業(鹿乗川)	惣作遺跡	900	平成21年9月～11月	池本・永井邦
			五反田遺跡	20	平成21年5月	池本・永井邦
			下懸遺跡	1,850	平成21年11月～平成22年3月	池本・永井邦
愛知県企業庁	東三河水道事務所	愛知県水道用水供給事業	キジ山古墳群	500	平成21年4月～6月	池本・永井邦
		内陸用地造成事業 「大府木の山地区」	別岨古窯群・炭焼遺跡	100	平成21年5月	宮腰・鵜飼
		豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業	下山田代・蕪木地区研究開発施設用地内遺跡	1,450	平成21年10月～12月	鵜飼

計　50,450

2．整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査期間
整理	愛知県建設部	都市整備課	緊急地方道路整備事業3･3･8号 一宮春日井線	御山寺遺跡	14,245	平成16～19 ･21年度
		道路建設課	道路改良工事　国道248号	塚原1号窯跡	970	平成18年度
		河川課	中小河川改良事業（鹿乗川）	姫下遺跡	7,420	平成17～18年度
整理･ 報告書作成	愛知県建設部	道路建設課	道路改良工事　国道363号	桑下東窯跡	4,726	平成17年度
			道路改良工事 （主）東三河環状線	西浦遺跡	6,700	平成18年度
			道路改良工事 （臨交）大代音羽線	羽根遺跡	4,100	平成20年度

3．平成21年度刊行物

・埋蔵文化財報告書（計3冊）

第163集　K-G-93号窯跡

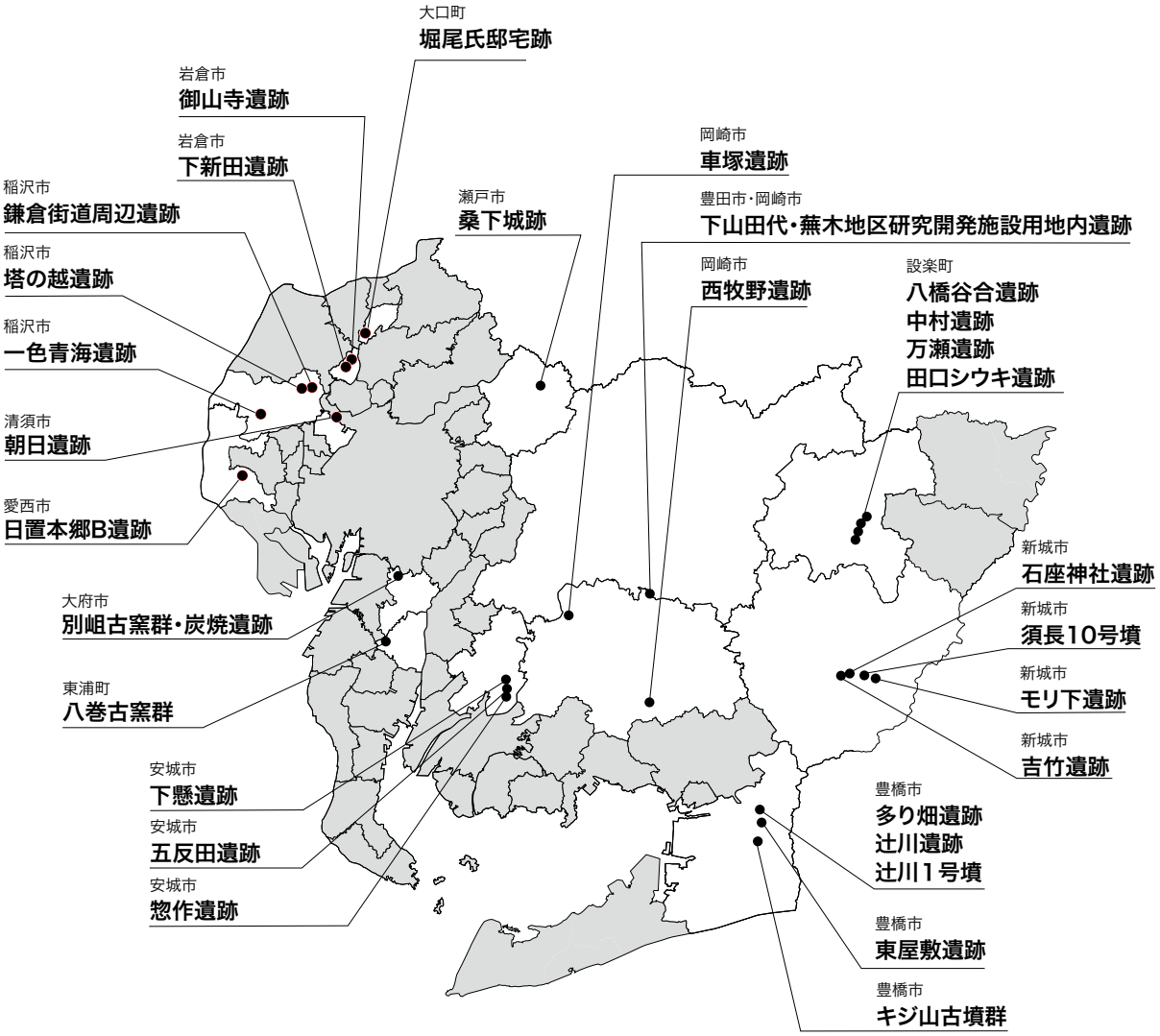
第166集　羽根遺跡

堀尾氏邸宅跡

・平成 21 年度　愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要　第 11 号

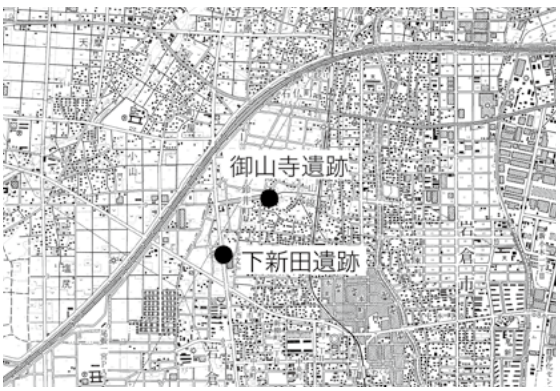
平成21 年度　調査遺跡位置図



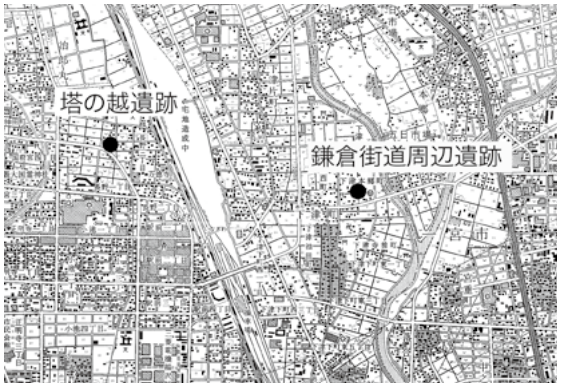
※ 地形図は 50%縮小されています。



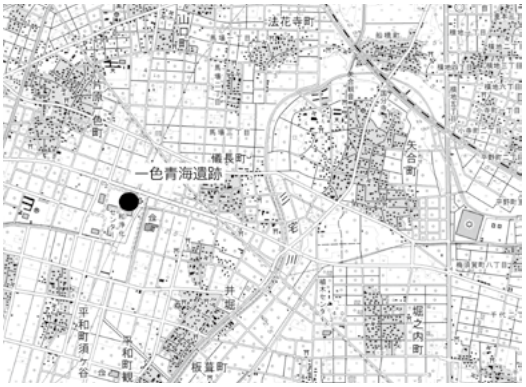
国土地理院 1/2.5 万地形図「小牧」



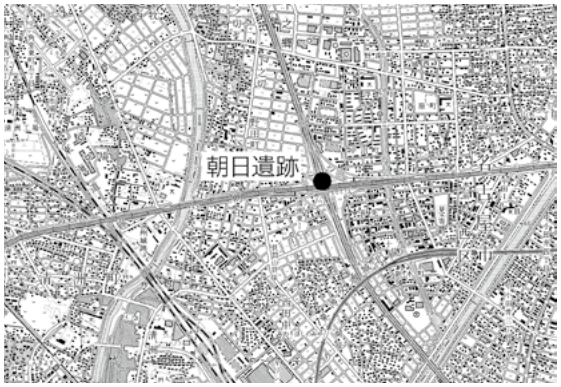
国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・小牧」



国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」



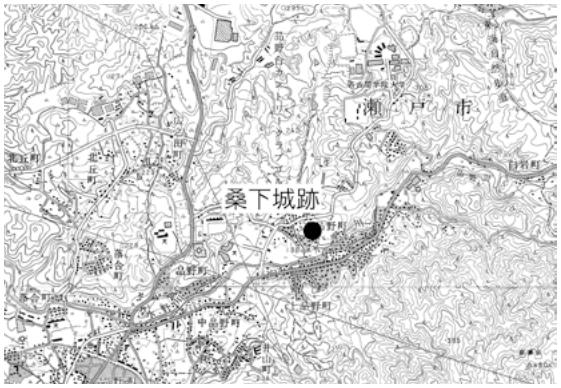
国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



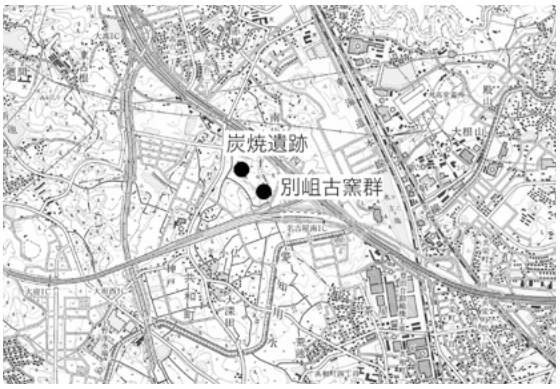
国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「弥富」



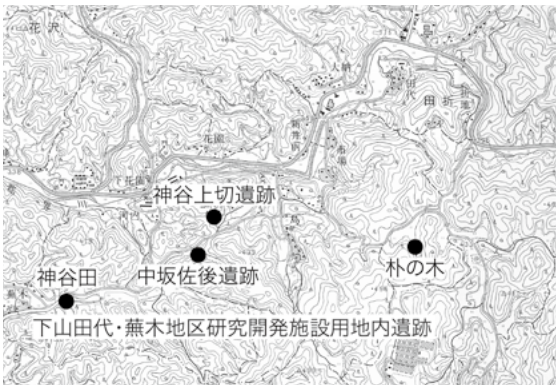
国土地理院 1/2.5 万地形図「多治見・猿投山」



国土地理院 1/2.5 万地形図「鳴海」



国土地理院 1/2.5 万地形図「刈谷」



国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」



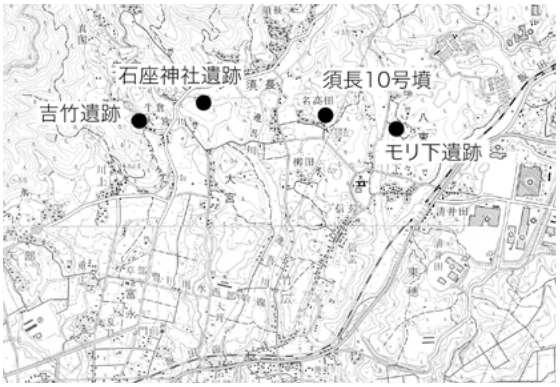
国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田南部」



国土地理院 1/2.5 万地形図「三河宮崎・御油」



国土地理院 1/2.5 万地形図「西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「三河大野・三河富岡」



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」

II. 遺跡調査の概要

堀尾氏邸宅跡（ほりおしていたく）

所　在　地　丹羽郡大口町堀尾跡１丁目
（北緯35度19分4秒 東経136度53分16秒）

調 査 理 由　県道小口岩倉線建設

調 査 期 間　平成21年７月～21年11月

調 査 面 積　1,950㎡

担　当　者　石黒立人・永井宏幸



調査地点（1/2.5万「小牧」）

調査の経過　県道小口岩倉線建設伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会が管理者となり、発掘調査および整理・報告書作成業務は国際文化財株式会社が行った。なお、愛知県埋蔵文化財センターは監督業務として県から委託を受けた。

立地と環境　堀尾氏邸宅跡は大口町南西部、町域の中央を流れる五条川左岸にある。遺跡は木曽川によって形成された扇状地上に立地し、標高は現況19mを測る。戦国武将の堀尾吉晴はじめ堀尾金助の遺跡名に由来する石碑などは、調査地の東側に所在する八剣社境内にある。

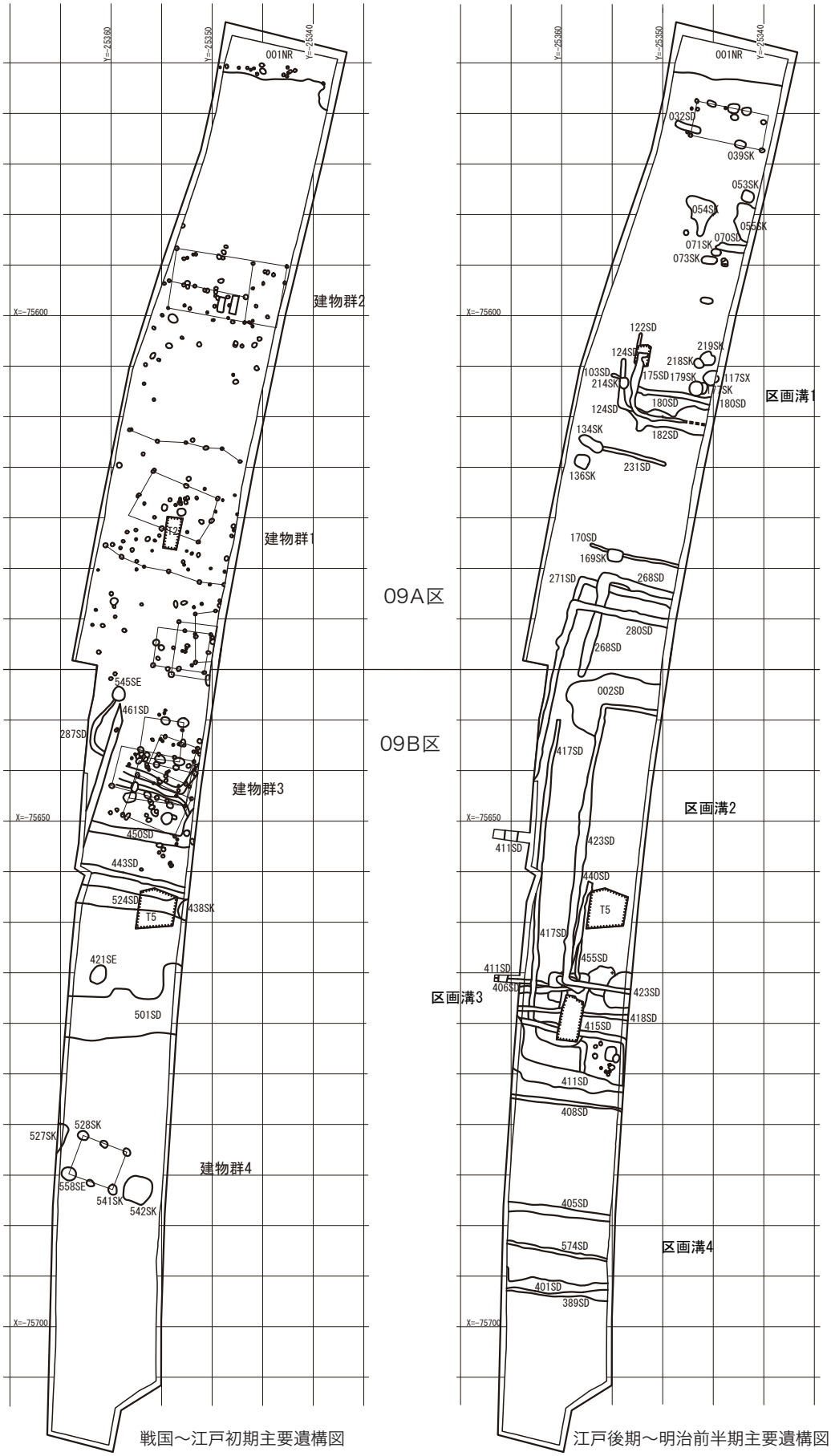
調査の概要　調査は南北に延びた調査区を09Ａ区（北側）と09B区（南側）に分けて行った。道路予定地以前の現況は竹薮を挟んで北寄りに堀尾跡公園の駐車場と南寄りに宅地があった。この竹薮付近は、09B区から南側に東側からのびる宅地であったことが明治17年の地籍図と照らし合わせて確認できた。

調査の成果　調査の結果、縄文時代から近代にいたる遺物を包蔵する遺跡であることがわかった。そのうち遺構が多く確認されたのは２時期ある。以下、これら２時期を中心に調査成果を概観する。

戦国～江戸　遺跡名に由来する戦国時代から江戸時代初期にかけての遺構と遺物は、幅３m前後の大溝501SDを基軸に展開する。501SDは東西方向に延び、調査区東壁で北へ屈曲する、クランク状となる。この北側に小区画の溝が建物群３周辺で重複する。150基におよぶ柱穴と考えられる遺構は、建物群４を除けば450SDより北側に展開する。建物群は４箇所のまとまりが見出せる。柵列と考えられる柱穴列を北と南にもつ建物群１、その北側と東側に庇をもつ建物群２、450SDに北接する建物群３、501SDから南へ少し離れた建物群４がある。建物群１～３はいずれも２回以上の立て替えが確認できる。このように、大溝501SDを基軸に小区画溝と建物群が展開する空間として捉えることが可能である。さらに、大溝の規模から戦国時代の城館を想定することも可能であろう。

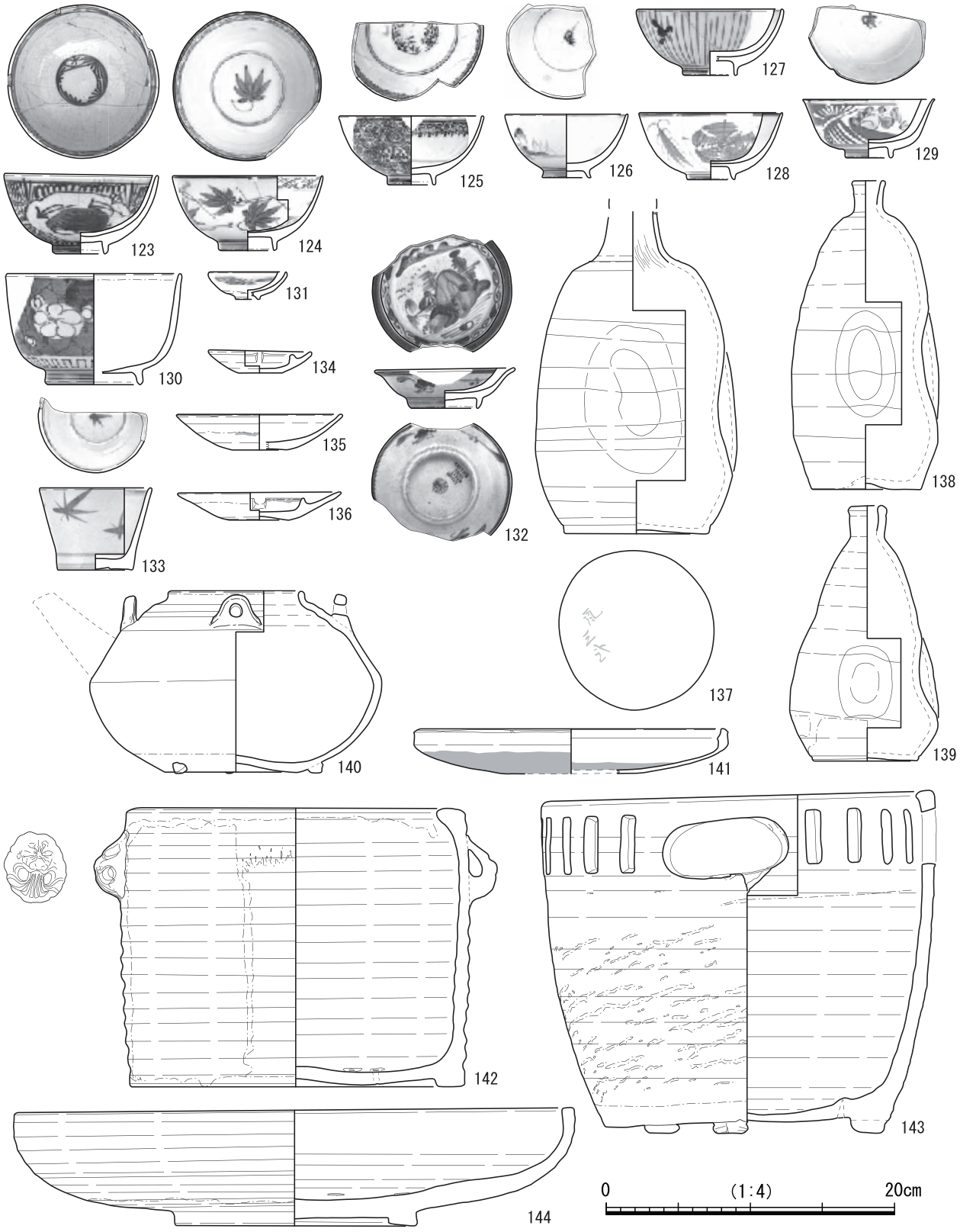
江戸～明治　江戸時代後期から明治時代前半の遺構と遺物は、４箇所認識した区画溝を伴う屋敷地と考えられる。その中でも屋敷地２とした東側に延びる区画は、最低３回の掘削による重複関係が認められる。区画溝３と４は区画溝２より切り合い関係から古いことが確認された。さらに溝の配置から区画溝１と２、区画溝３と４の組合わせが想定できる。注目したいのは、423SD・280SD・411SDからの出土遺物である。円礫、瓦、陶磁器が集積した廃棄場が数箇所にまとまっている。これらの遺物は陶磁器類と瓦の時期比定から、明治時代前半までの資料群と判断した。したがって、明治24年の濃尾地震に被災した直後の廃棄と想定できる。また、区画溝２と３が重複する付近から鍛冶関連遺物がまとまって出土した。時期は限定できないものの、鞴の羽口や鉄滓、鍛造剥片などからこの付近で鍛冶を行っていたことはほぼ間違いないであろう。　（永井宏幸）

濃尾地震
鍛冶関連



戦国～江戸初期主要遺構図　　江戸後期～明治前半期主要遺構図

堀尾氏邸宅跡主要遺構図（1:600）



明治時代前半期に廃棄された溝423SDの資料実測図（遺物番号は報告書掲載と一致する）



戦国時代の大溝501SD



江戸後期から明治前半の屋敷地



瓦と陶磁器類が廃棄された溝423SD



地元説明会2009年10月24日



堀尾氏邸宅跡の調査区と周辺（南西から）

御山寺（ごさんじ）遺跡

所　在　地　岩倉市鈴井町
（北緯34度54分00秒 東経137度5分38秒）

調 査 理 由　緊急地方道路整備事業3・3・8号一宮春日井線

調 査 期 間　平成21年5月～平成21年6月

調 査 面 積　350㎡

担　当　者　樋上　昇・蔭山誠一



調査地点（1/2.5万「一宮・小牧」）

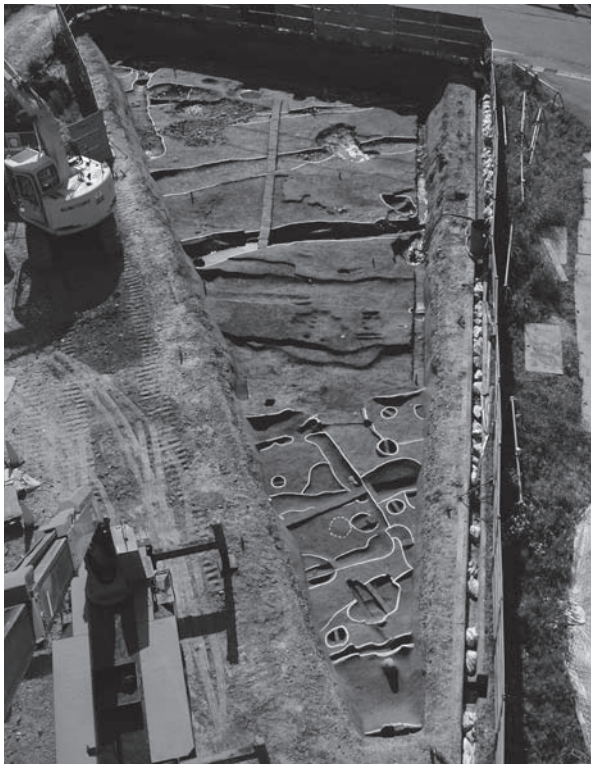
調査の経過　御山寺遺跡の発掘調査は、県道一宮春日井線建設に伴う事前調査として、愛知県建設部都市整備課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。

立地と環境　本遺跡は岩倉市鈴井町に所在する遺跡で、平成16年度より愛知県埋蔵文化財センターにより発掘調査を実施してきた。本年度の調査区は御山寺遺跡の西端に位置する地点で、北に隣接する平成19年度に調査した07D区と07E区において縄文時代晩期前半の集落、古墳時代前期の竪穴住居群からなる集落や溝、古代から中世にかけての自然河道などが確認されている。

調査の概要　今回の調査においても、縄文時代晩期前半の竪穴状遺構4基・土坑多数と古墳時代前期の竪穴住居5棟・溝5条・土坑多数、中世の区画溝2条が確認された。この中で、平成19年度の調査において注目された旧河道に沿って西の微高地上を北から南にはしる溝が、さらに西側の地点に新たに4条確認できた（写真参照）。また縄文時代晩期前半の遺構では、調査区西側には大型土坑が散在する程度であったが、調査区東側には竪穴状遺構や礫が多数廃棄される土坑などが複雑に重複して検出できた。

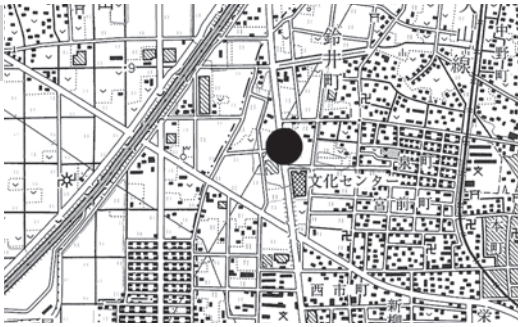
今回みつかった古墳時代前期と縄文時代晩期の遺構群はさらに南に展開する事が明らかになり、盛んな営みとその変遷が存在した事を示すものと考えられるようになった。

（蔭山誠一）


古墳時代前期の遺構（東から）

下新田遺跡（しもしんでん）

所　在　地　岩倉市鈴井町
（北緯35度17分17秒 東経136度51分46秒）
調 査 理 由　緊急地方道路整備事業（主）名古屋江南線
調 査 期 間　平成21年10月～平成22年2月
調 査 面 積　2,100㎡
担　当　者　樋上　昇・蔭山誠一・榊原清人



調査地点（1/2.5万「一宮・小牧」）

調査の経過　発掘調査は、県道名古屋江南線建設工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。県道名古屋江南線が県道浅野羽根岩倉線と立体交差する地点から北に約300mの範囲を調査対象地とした。

立地と環境　遺跡は、名鉄犬山線岩倉駅の北西約１kmに位置し、現五条川右岸の犬山扇状地から沖積平野に移行する地点に立地しており、現地標高は約10～11mを測る。県道名古屋江南線を挟んで東側にA･B･C区、西側にD･E区を設定し、さらA区を北側からAa～Ac区、D区をDa～Dc区、E区をEa～Ed区とし、合計12の調査区を設定した。

調査の概要　遺跡では、もともと水田や畑だったところに近年の土盛り整地が行われている。盛り土は１～1.5m程度である。土盛り整地下の状況は、概して昭和の水田耕作土や旧畑耕作土が確認されており、その下に基盤層である黄褐色粘土質シルト層が見られる。その上面を遺構検出面とした。

検出された遺構は、奈良時代の竪穴住居15棟や掘立柱建物の柱列、多数の土坑、室町・戦国時代の大溝や自然河道、井戸、多数の区画溝等がある。出土遺物の主体は、奈良時代の須恵器・土師器、中世後半の山茶碗、大窯期の瀬戸・美濃産陶器などである。Ea～Ec区は、近年の整地により遺構の残存状況が悪かった。

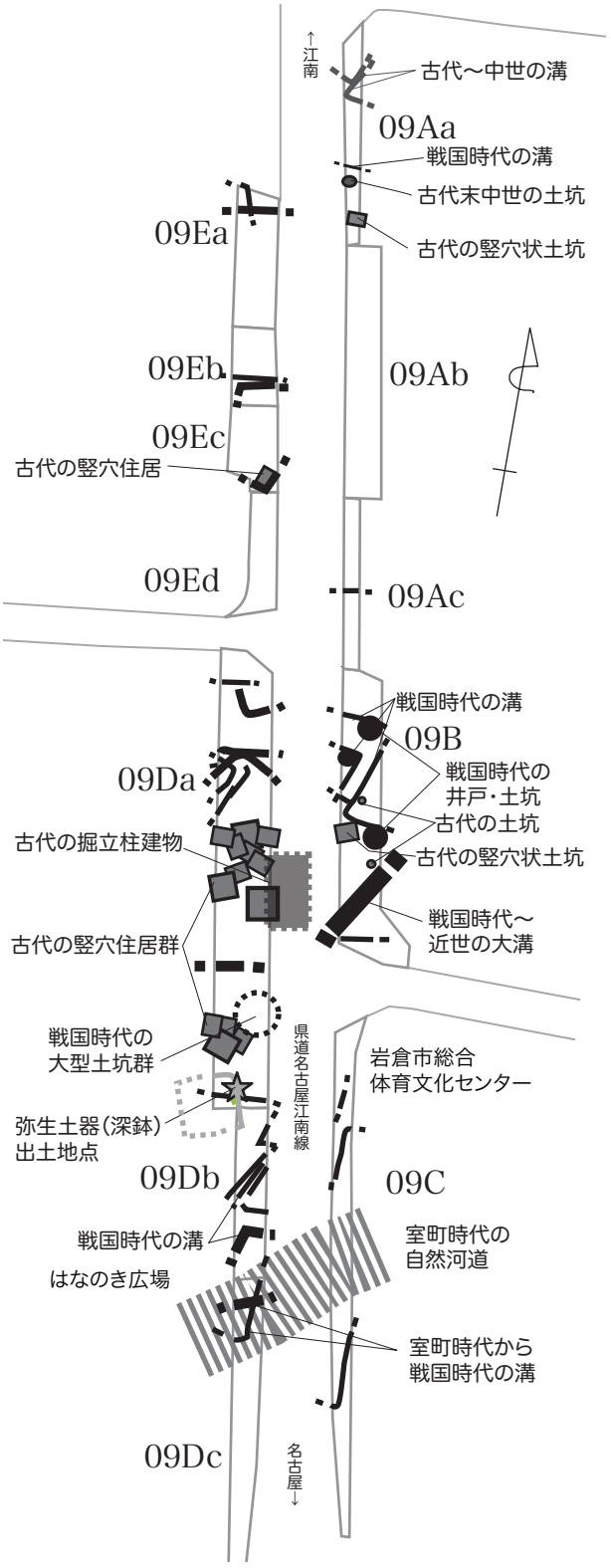
弥生時代　岩倉市総合体育文化センター北西のDa区南端～Db区北端では、西側を「コ」字状に囲む、幅約1.0mの溝が見つかった。底からは櫛状工具で施文された弥生中期後葉の深鉢が出土した。この溝は一辺10m程度の方形周溝墓の周溝である可能性が考えられる。弥生時代の遺構・遺物はDa･Db区より東に位置するB･C区では確認されていないことから、この時代の集落がDa・Db区より西、はなのき広場の方向に広がっており、Da区・Db区が集落の東端に当たると考えられる。

奈良時代　Da区では、竪穴住居13棟や大型土坑群が確認されたほか、掘立柱建物とみられる柱穴が、西壁際でおよそ3.5mの間隔で３間分見つかった。県道名古屋江南線を挟み向かい合うB区でも古代の竪穴状土坑１基と土坑２基が確認されており、古代の遺構の中心がB区よりDa区南側にかけて存在していたと考えられる。

室町～戦国時代　全ての調査区において方形に巡る区画溝が確認された。軸線は南北方向より東にやや振れており（N－13°―E）、どの溝もほぼ同じ方向に巡っている。B区では幅４ｍを超える大溝のほか、戦国時代の井戸・土坑、薬研堀のように断面がV字形に掘られた溝などが見つかった。またDa区ではやや高くなった部分で大型土坑群を確認している。戦国時代と思われる井戸や大型土坑が見つかったことから、B区からDa区の辺りには15世紀後半～16世紀にかけて居住域が広がっていたと考えられる。

まとめ　今回の調査で、下新田遺跡には弥生時代中期以降から戦国時代にかけての複合遺跡であ

ることが明らかになった。弥生時代には当該遺跡の南約1.1kmの大地遺跡、弥生〜戦国時代には北約0.7kmの町屋遺跡、東約0.7kmの新溝遺跡などが所在する。戦国時代には北東約0.6kmの御山寺遺跡、南東約1.8kmの岩倉城址などが所在する。当該遺跡の分析を進め、各時代の周辺各遺跡との比較検討が今後の課題である。　（榊原清人）



主要遺構の配置図


09Da区弥生土器の出土状況


09Da区古代の柱列と竪穴住居跡（北西から）


09Db区上面遺構全景（北から）

かまくらかいどうしゅうへん 鎌倉街道周辺遺跡

所　在　地　稲沢市下津本郷町・下津宮西町
（北緯35度15分19秒 東経136度49分52秒）

調 査 理 由　県道名古屋豊山稲沢線建設

調 査 期 間　平成21年５月・10月

調 査 面 積　200㎡

担　当　者　石黒立人・永井宏幸



調査地点（1/2.5万「一宮」）

調査の経過　調査は愛知県建設部道路建設課による県道名古屋豊山線建設に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年５月と10月に実施した。調査では、県教育委員会の試掘調査の結果を受け、トレンチを22か所設定した。

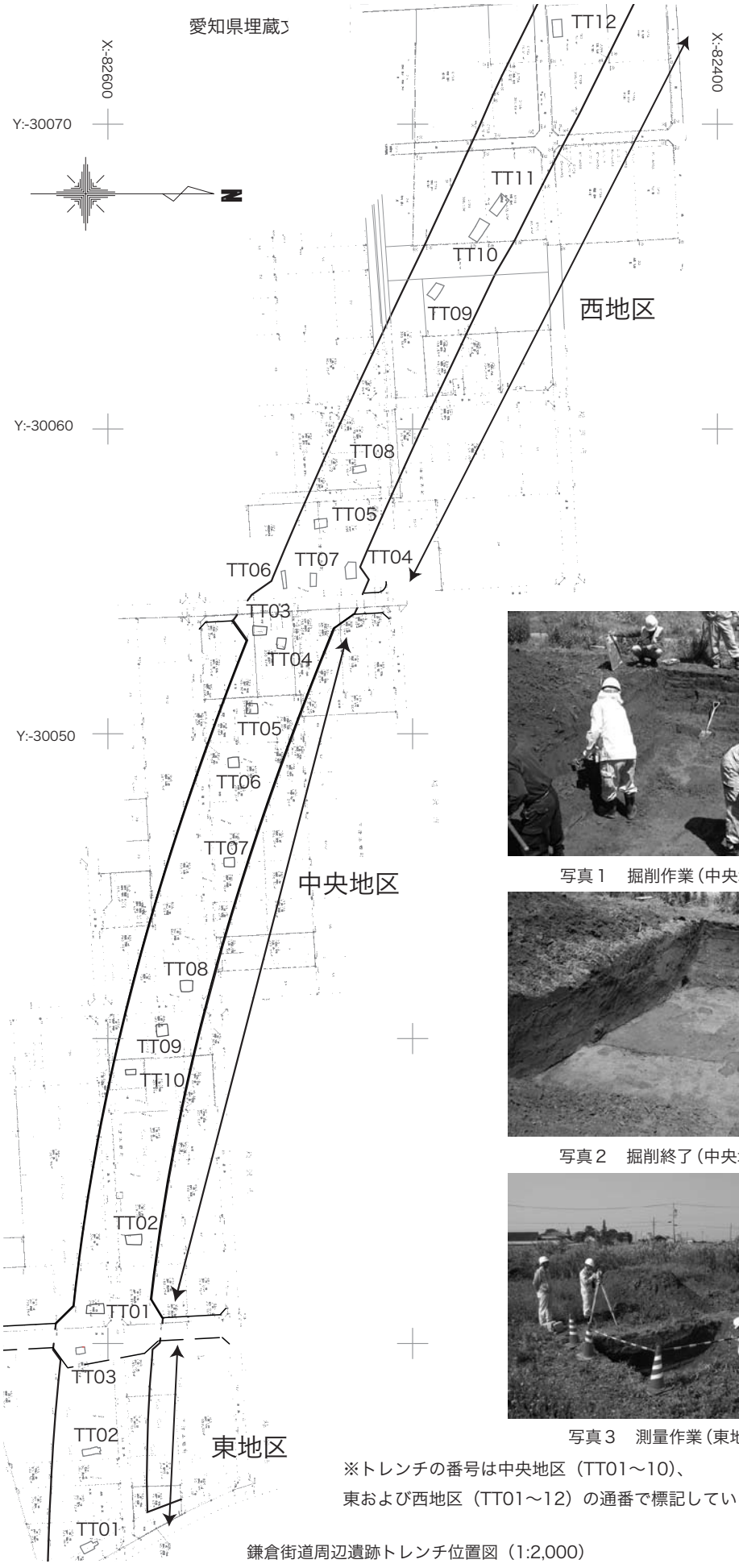
立地と環境　遺跡は青木川の右岸に位置し、現況で標高６mの沖積地に形成された自然堤防上に立地する。本遺跡は、青木川右岸に想定されている鎌倉街道を中心とした南北３km東西500m前後が想定されている。西方に隣接する下津新町遺跡は当初本遺跡に含まれていたが、調査結果から独立した遺跡名がついた。下津新町遺跡の西に下津北山遺跡、今回の調査対象地から北へ500mに下津城がある。

調査の概要　５月の調査（中央地区）は10ケ所トレンチを設定した。対象地東端に設定したT.T.01とT.T.02は全トレンチ中最も遺物量が多く、遺構が重複し展開していた。遺物は室町時代（古瀬戸後期）を中心とした器種豊富な中世陶器類、土師器、青磁など多岐にわたる。一方、調査対象地西端に設定したT.T.03とT.T.04は南北方向に延びる幅約３mの大溝とその下位の溝（T.T.03）を確認した。上位の大溝は遺構の切り合い関係などから判断して戦国期以降と思われる。この下位の溝については、古瀬戸後期を中心とする遺物が出土することからT.T.01とT.T.02と同一時期に比定できる。これら両端地点以外のテストトレンチでは、中世陶器を中心に安定して遺物が出土した。T.T.06とT.T.07以外は遺構が多数展開していた。

10月の調査（東地区・西地区）は中央地区の調査を受けて、前回の東西２地区を対象として12ケ所トレンチを設定した。東地区に設定したT.T.01～T.T.03は遺物量が多く、遺構が重複し展開していた。遺物は室町時代（古瀬戸後期）を中心とした器種豊富な中世陶器類、土師器、青磁など多岐にわたる。一方、西地区に設定したT.T.04～12もT.T.12以外は中世陶器を中心に遺物が出土した。T.T.04～T.T.07を設定した対象地は、中央部分に攪乱が予想される。T.T.05では遺構・遺物を確認したものの、これ以外のトレンチではほぼ攪乱が占め、削平されていた。T.T.08は一部試掘トレンチによる削平があるものの、古代末の遺構・遺物が確認された。T.T.09～11は室町時代を中心とする遺構・遺物が確認された。T.T.10では鎌倉時代の遺構・遺物が確認され、一部に遺構が２面存在すると思われる。T.T.12は、中世期以降の包含層が現況の水田造成時に一部削平されている。下位には谷地形が確認され、T.T.12の東側の公道辺りから地形の落ち込みが予想される。

今回の調査によって、室町時代を中心とした遺跡が確認できた。地点によっては遺構が多数重複する箇所もある。古瀬戸製品は器種が豊富で、一般集落とは様相が異なる。寺院あるいは下津城周辺に推定されている尾張守護所関連施設の可能性が指摘できる。

（永井宏幸）



鎌倉街道周辺遺跡トレンチ位置図（1:2,000）

写真１　掘削作業（中央地区TT02）

写真２　掘削終了（中央地区TT02）

写真３　測量作業（東地区TT02）

※トレンチの番号は中央地区（TT01～10）、
東および西地区（TT01～12）の通番で標記している。

塔の越（とうのこし）遺跡

所　在　地　稲沢市長野町
（北緯35度15分28秒　東経136度48分49秒）
調 査 理 由　都市計画道路稲沢西春線建設
調 査 期 間　平成21年5月～平成21年8月
調 査 面 積　710㎡
担　当　者　小澤一弘・宇佐見守・伊奈和彦



調査地点（1/2.5万「一宮」）

調査の経過　塔の越遺跡の発掘調査は、都市計画道路稲沢西春線の建設に伴う事前調査として、愛知県建設部都市整備課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。

立地と環境　本遺跡は稲沢市の東部、三宅川左岸の自然堤防上に立地する。東には古墳時代から江戸時代までの遺構を検出した長野北浦遺跡が所在する。

調査の概要　本年度の調査区は08A・B区の未調査部分３ヵ所で、東から09A～09C区として実施した。

A　区　近現代の水田造成時に削平されたため、遺構の残りは悪く、古代の掘立柱建物１棟を検出したのみである。掘立柱建物は大部分が調査区外のため全容は不明であるが、南北２間、東西１間以上の建物である。

B　区　近世以降の水田造成により調査区北側４分の３は削平され、残りの大部分も畑耕作により撹乱されており遺構の残りは悪かった。古代の井戸１基と溝５条を検出した。井戸は、直径約3.3m、深さ約0.7mの円形をした素掘りの井戸で、周囲に幅約20cmの溝が巡る。中から飛鳥時代の土師器、須恵器（高杯、杯、瑞など）が出土した。他には土坑から瓦塔の破片が出土した。

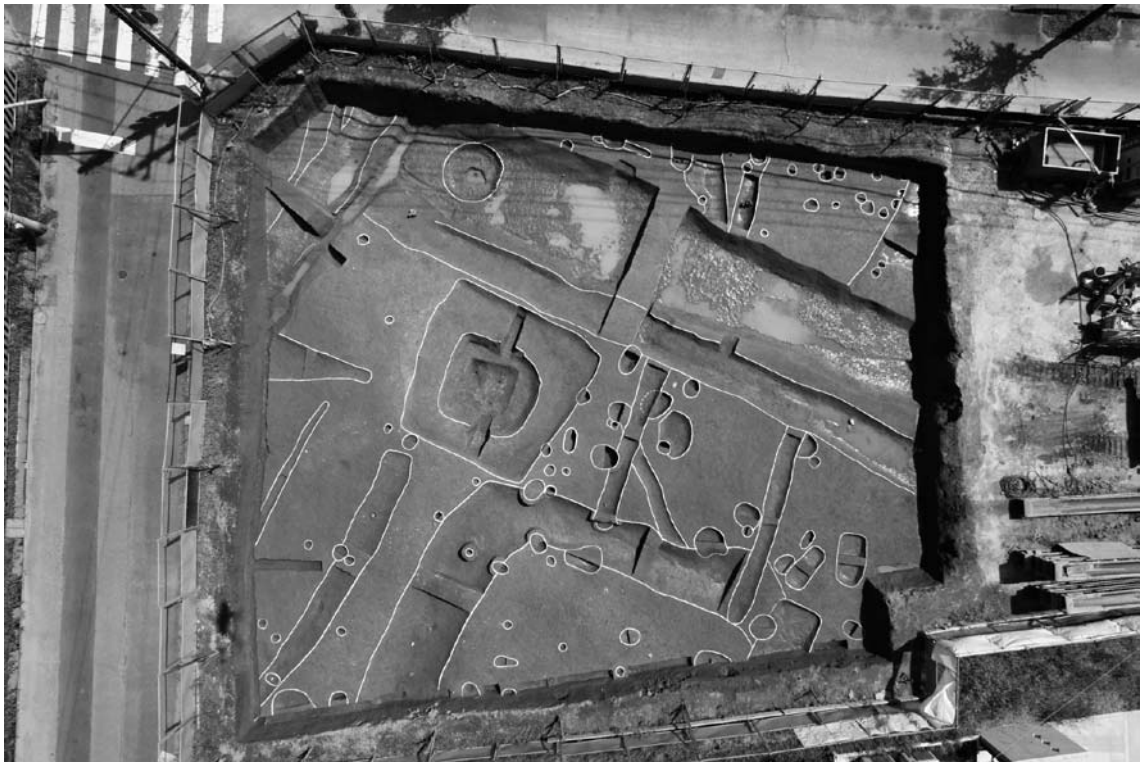
C　区　畑耕作による撹乱が浅かったため、遺構の残りは良好で、遺構面を３面確認した。

第１面では、近世以降に掘削された大溝とそれに直交する溝を検出した。

古代の井戸　第2面では、中世の溝2条、古代の井戸２基、溝・土坑多数、古墳１基を検出した。中世の溝は第１面で検出した大溝と溝にそれぞれ平行しており、中から古瀬戸製品が出土した。古代の井戸のうち、円形をした素掘りの井戸は、大溝で削平されていたが、直径約1.8m、深さ約0.4mを測り、中から須恵器が出土した。方形をした木組みの井戸は、約4.8m四方の掘りかたをもつ大型の井戸で残りが大変良かった。木組みは上下２段に分かれる。下段は、上面の長辺約60cm・短辺約50cm、深さ約90cmを測る。建物の扉と思われる転用材を現地で加工し、箱状に組み立てている。上段は先端を削り細くした直径約20cmの丸太材を四隅に打ち込み、それを支えに、長辺約110cm、短辺約20cmの板材を４段積んでいる。井戸の中からは、灰釉陶器（手付水注、壷）、木製品（櫛、桶）、銅製品（ピンセット）、馬の骨などが出土した。古墳の墳丘は削平されていたが、幅約1.5～2.0m、深さ約0.3mの丸底をした堀が方形に巡っており、中から須恵器杯蓋・杯身が２組と、管玉１個が出土した。北半分が調査区外のため全容は不明であるが、１辺約7.5mの方墳と考えられる。

第３面では、方形の井戸の西側で柵列と思われる柱穴列を検出した。また、明確な遺構を伴はないが、古墳時代前期の土師器（壷・甕・高杯）の集中する場所を検出した。

（宇佐見　守）



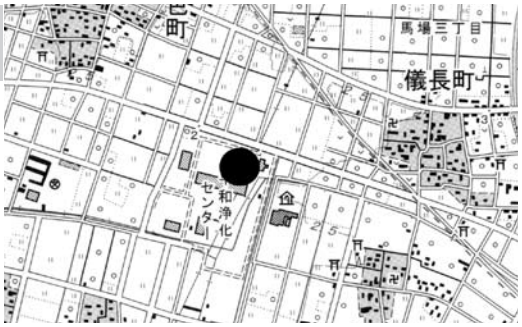
09C 区全景（上空から）



09C 区平安時代の井戸（断ち割り調査時の状況）

一色青海遺跡（いっしきあおかい）

所　在　地　稲沢市一色青海町地内
（北緯35度14分10秒 東経136度45分20秒）
調 査 理 由　日光川上流流域下水道事業
調 査 期 間　平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月
調 査 面 積　5,500 ㎡
担　当　者　樋上昇・小川淳・榊原清人



調査地点（1/2.5万「清洲」）

調査の経過　一色青海遺跡の発掘調査は、日光川上流浄化センター内の施設拡充に伴う事前調査として、愛知県建設部下水道課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境　本遺跡は稲沢市の西部に位置し、地形的には、日光川と三宅川にはさまれた沖積低地に立地している。遺構検出面での標高は約1mである。

調査の概要　調査区は2003年度調査地点の北側で、東がA区、西がB区である。検出した遺構は弥生時代・鎌倉～戦国時代の２時期である。

弥生時代　下面遺構としては、弥生時代中期後葉の竪穴住居約60棟、掘立柱建物７棟、柵列３基、大溝３条、土坑多数を検出した。竪穴住居は、2003年度の調査区で確認されたものに較べて小型の住居が多いが、A区の201SIについては、長辺約11m、短辺約７mをはかる大型のものであり、同じ場所で幾度かの建て替えが認められ、多量の土器が出土している。

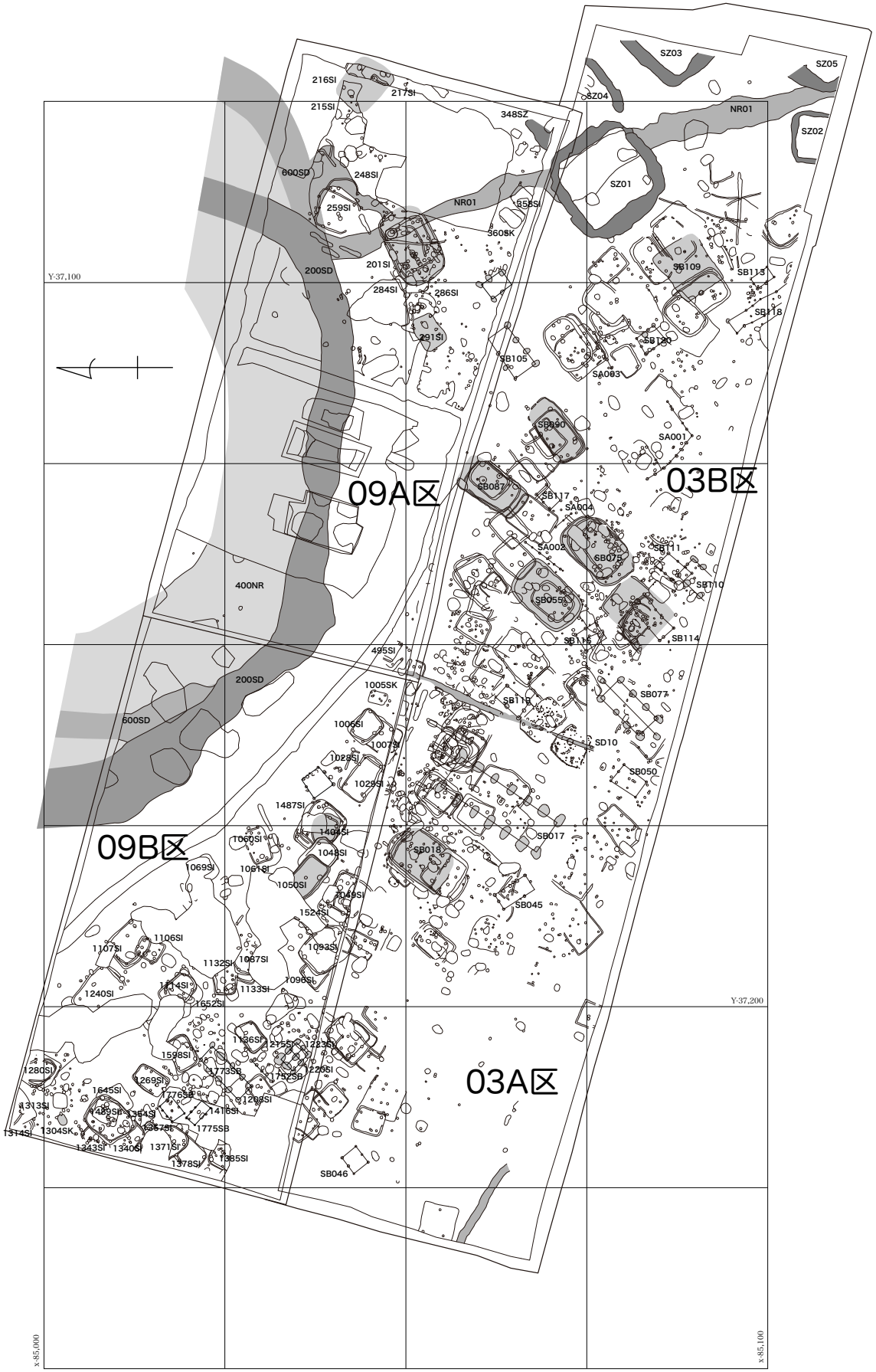
掘立柱建物では、B区の1773SBが最も大型で、桁行４間（約４m）、梁間１間（約2.4m）である。また、その東には2×2間の総柱建物1752SBがあり、その間は柵列で仕切られている。1773SBの西にも小規模な掘立柱建物が2棟あり、これら掘立柱建物群の周辺には、1399SKなど、大型の土坑が集中して掘削されている。

竪穴住居群が密集する居住域の北側では、大きく蛇行して流れる河道400NRと大溝200SD・600SDを確認した。河道400NRは、B区では北西から南東方向に向かい、A区で大きく屈曲して北へと流れる。そして、調査区の北側で再度屈曲して墓域の東側をかすめるように南流していくようである。河道400NRの南辺からは、編みカゴ２点のほか、円窓付土器の完形品などが出土している。編みカゴのうち1点はベンガラによって全面に赤彩をほどこしている。

この河道400NRが洪水層によって埋没したのちに、400NRの南肩に沿うように大溝600SDが掘削される。600SDは幅約５m、深さ約1.5mをはかる。A区東端付近では、南流する大溝NR01が分岐している。このNR01との分岐点付近で、濃尾平野低地部では珍しい二連の直柄平鍬未成品などの木製品が出土した。

この600SDも洪水によるとおもわれる砂層によって埋没し、あらたに同規模の大溝200SDが掘削されている。200SDもやはり屈曲点であるB区東端からA区にかけて遺物が集中している。多量の土器のほか、赤彩弓・竪杵・直柄平鍬未成品・斧柄などの木製品、編みカゴなどが出土している。これら400NR～600SD～200SDへの変遷は、すべてこの一色青海集落が機能していた弥生中期後葉の百数十年間のことであり、濃尾平野低地部の弥生時代集落が、いかに河川の影響を受けやすい立地であったかがわかる。

鎌倉～戦国時代　上面遺構としては、中世の土壙墓と考えられる大型土坑を多数確認している。このほか、数条単位で並行して走る小溝群をB区で検出した。これら小溝群はおおむね大型土坑群に切られており、時期的には中世前期ないしはそれ以前に遡る可能性がある。小溝群が走る一帯は周辺より地形的に若干高く、近・現代には島畠として利用されていた形跡があることから、この小溝群も畠の畝間の溝である可能性が想定できる。（樋上　昇）


09A区
09B区
03A区
03B区
SZ01
SZ02
SZ03
SZ04
SZ05
NR01
348SZ
600SD
200SD
400NR
216SI
217SI
215SI
248SI
259SI
558SI
5608K
201SI
284SI
286SI
291SI
SB109
SB113
SB118
SB120
SB105
SA003
SB090
SA001
SB087
SB117
SA004
SA002
SB111
SB075
SB110
SB055
SB115
SB114
495SI
1005SK
SB077
SB116
1006SI
1007SI
SD10
1029SI
SB050
1487SI
1494SI
1060SI
SB017
SB018
1048SI
1069SI
1061SI
1050SI
1049SI
SB045
1524SI
1106SI
1107SI
1093SI
1132SI
1087SI
1114SI
1096SI
1133SI
1240SI
1652SI
1186SI
1215SI
1223SI
1598SI
1280SI
1773SI
1792SB
1209SI
1269SI
1645SI
1765SB
1208SI
1313SI
1489SI
1384SI
1416SI
1304SK
1775SB
1314SI
1343SI
1340SI
1371SI
1378SI
1385SI
SB046
Y-37,100
Y-37,200
X-85,000
X-85,100

下面遺構図（1:800）


A区上面全景


A区下面全景

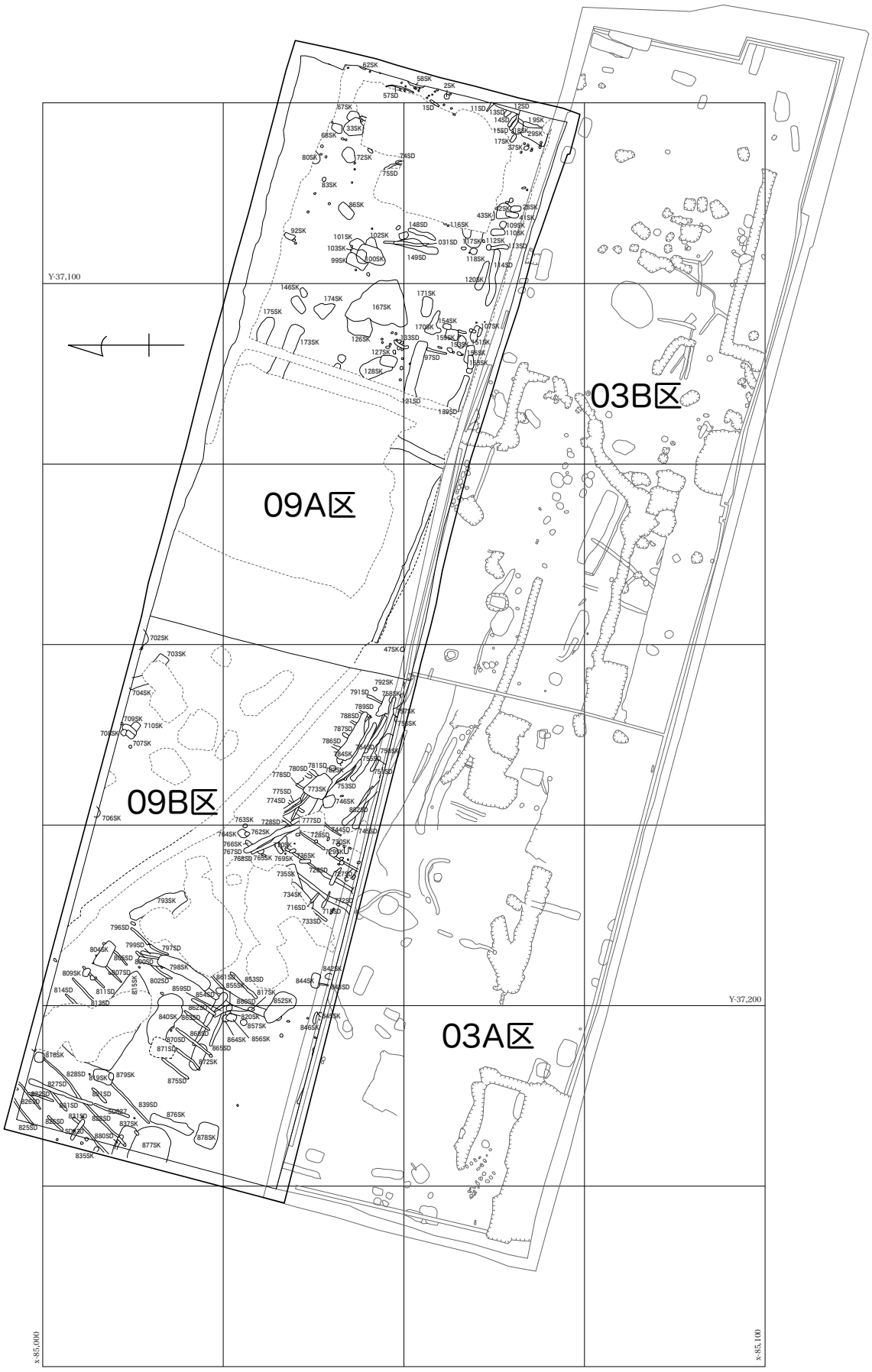

B区上面全景


1773SB（北から）


1752SB（東から）


201SI（西から）


400NR赤彩カゴ出土状況（西から）



上面遺構図（1:800）

日置本郷（へきほんごうびー）B遺跡

所在地　愛西市日置町本郷
（北緯35度9分50秒 東経136度43分4秒）

調査理由　県道富島津島線自転車歩行者道設置

調査期間　平成21年12月～平成22年2月

調査面積　1,100㎡

担当者　宮腰健司



調査地点（1/2.5万「弥富」）

調査の経過　調査は、県建設部海部建設事務所による県道富島津島線自転車歩行者道設置に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年12月から平成22年２月にわたり実施した。調査は、大きく日置八幡宮の西側のＡ区、その南のＢ区・Ｃ区の大きく三ヶ所に分けて行った。

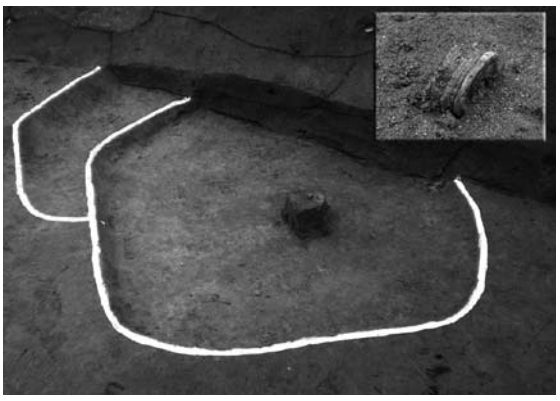
立地と環境　遺跡は木曽川の支流によって形成された砂堆微高地上に立地する。遺構検出面の標高は－２～2.4mを測るが、地盤沈下の影響などを受けていると考えられる。Ａ区で確認された旧地形は、北部では北と西側にゆるやかに落ちる低地部があり、中央部で微高地が西に張り出して延び、南部にもゆるやかに落ち込む低地部が広がる。この南部の低地部はＡ区南端で浅くなって、再び微高地を形成するようで、Ａ区付近では南北に微高地と低地部が入り組んで続く地形が想定された。

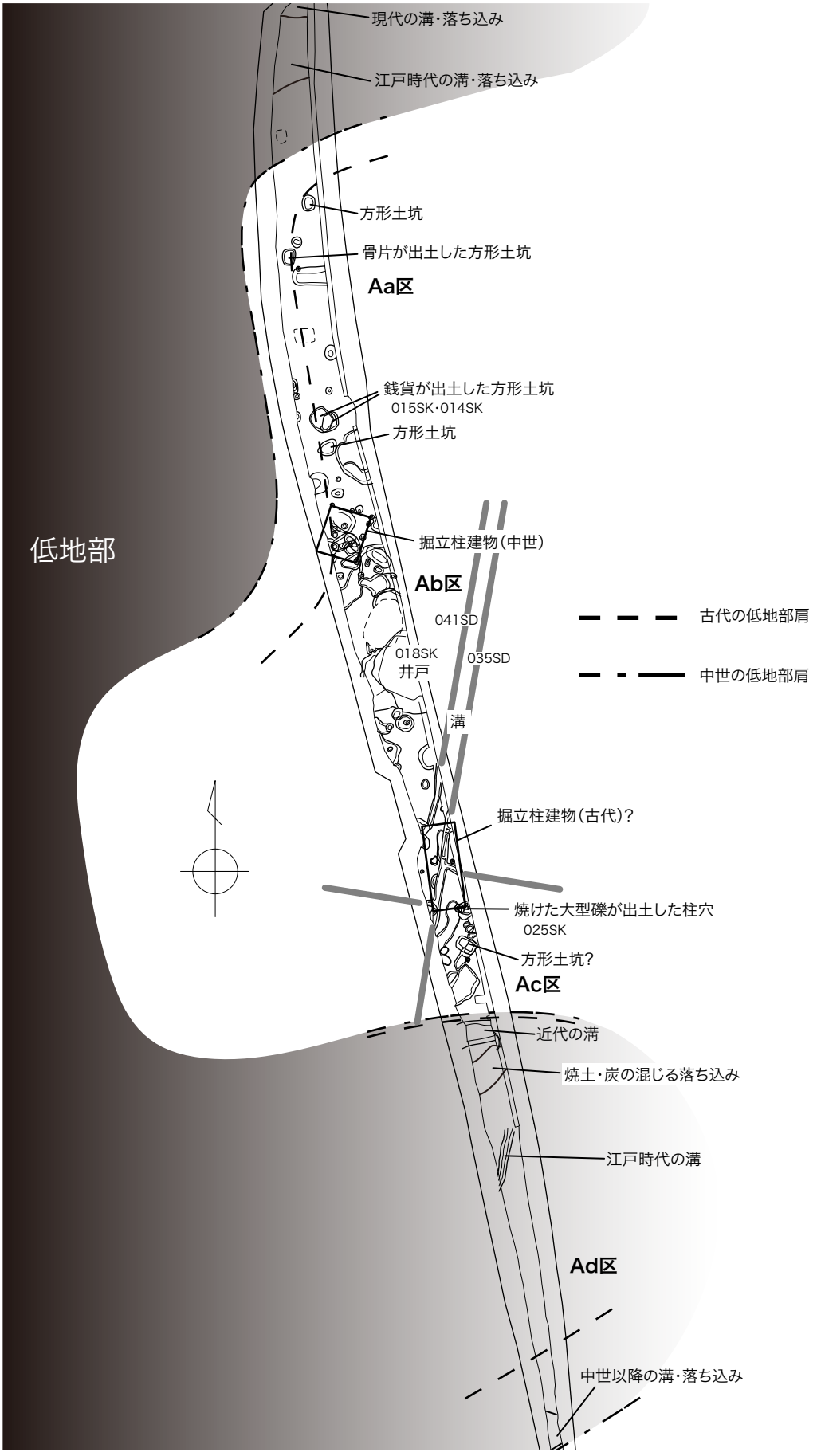
調査の概要　検出した遺構は大きく奈良時代～平安時代と鎌倉時代～室町時代の２時期に分かれる。

奈良～平安時代　遺物はＡ区全域から出土するが、特に微高地南部から南の低地部での出土が顕著である。微高地南部では、南北約500cm、東西約250cmの間隔で直交する、径100～120cmの土坑３基が検出され、掘立柱建物の可能性が考えられた。また南東部の025SK上位では、被熱した径40cmの砂岩礫が出土した。さらにこの南にある低地部の北端では多量の焼土・炭化物を含む落ち込みを確認している。

鎌倉～室町時代　微高地中央やや北で、径約270cmを測る２×２間の総柱掘立柱建物を検出した。柱穴は７基確認され、径は20～30cmを測る。この掘立柱建物の南には南北径4mの井戸018SKがある。またこの建物と方位を合わせるように北東から南西に走る２条の溝を確認した。２条のうち西側の041SDは途中で途切れ、東側の035SDは２ヶ所で直交して分岐する。また建物北側の低い部分では径100～150cmの方形土坑が５基検出された。005SKでは骨片、014SKでは12枚、015SKでは10枚の銭貨が出土しており、墓の可能性がある。（宮腰健司）


区画溝


015SK銭貨出土状況



主要遺構配置図（1:400）

桑下城跡（くわしたじょうあと）

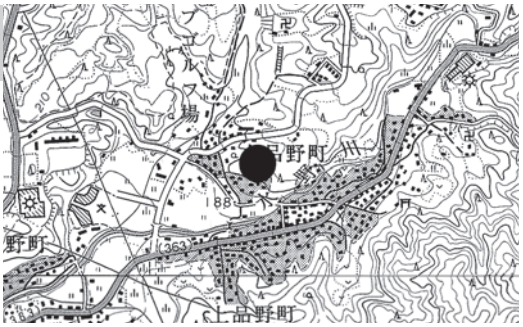
所　在　地　瀬戸市上品野町
（北緯35度15分24秒 東経137度08分19秒）

調 査 理 由　国道363号改良工事

調 査 期 間　平成21年9月～22年1月

調 査 面 積　2,100㎡

担　当　者　小澤一弘・宇佐見守・伊奈和彦



調査地点（1/2.5万「多治見・猿投山」）

調査の経過　調査は、国道363号線の改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。今年度の調査は、平成16年度、同19年度、同20年度に続く４回目の調査である。

立地と環境　桑下城は、瀬戸市北東部にある品野盆地の北東、標高210m前後の丘陵上に立地する平山城で、東西約220m、南北約100mの規模が推定されている。南東の水野川を挟んだ標高約330mの尾根線上には品野城が所在する。江戸時代の地誌類によれば桑下城は品野城主松平内膳（信定）の家老である永井（長江）民部の居城とされているが、昨年度までの調査によって今川氏が城の改築に関与した可能性が高いと考えられる。

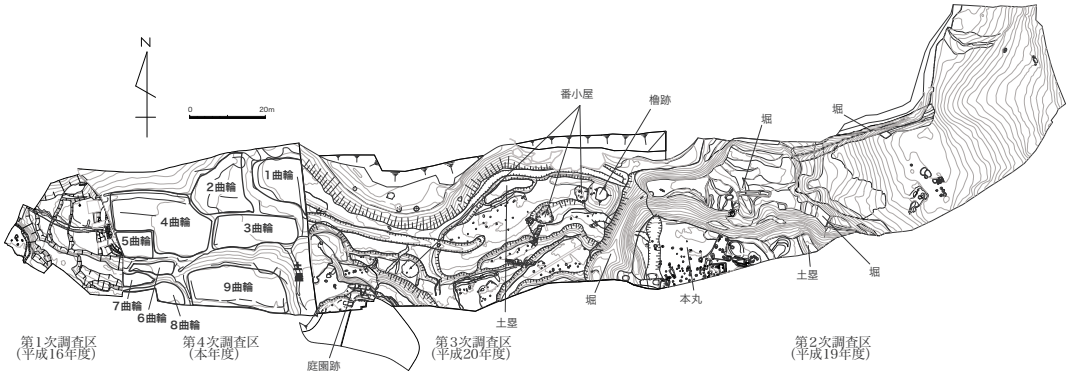
調査の概要　今回は、昨年度調査区の西側、曲輪と考えられる平場を中心とした調査となった。平場は9ヵ所確認でき、1曲輪から9曲輪と仮称して調査を進めた。調査区南に位置し面積約250㎡の広さを測る9曲輪では良好な遺構を検出した。なお、１～７曲輪までは明確な時期差が確認されず１面、８曲輪は２面、９曲輪は３面の調査となった。

１曲輪　1曲輪は、調査区最頂部に位置する。２曲輪・３曲輪との間は明確な段差となっており、曲輪を囲むように西辺から南辺に沿って通路状遺構（630SF）を検出した。

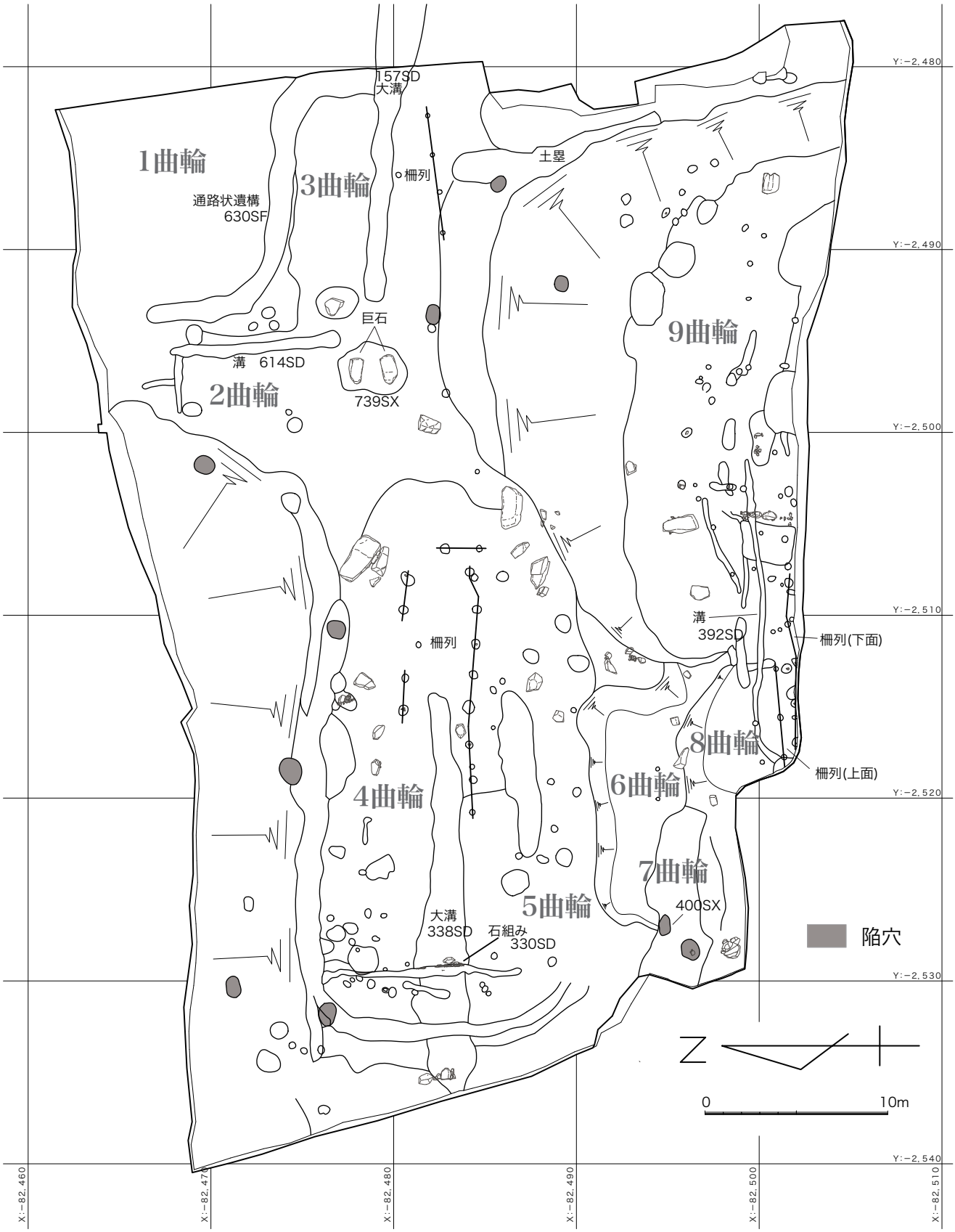
２曲輪　2曲輪は、１曲輪との間の斜面裾に沿って溝（614SD）を検出した。３曲輪との間には明瞭な段差はなく、築城時には３曲輪と一体の曲輪であったと考えられる。

３曲輪　3曲輪は、昨年度調査区から続く大溝（157SD）が曲輪中央まで延びていた。曲輪中央で上面を水平に保つように据えられた巨石（739SX）を２個検出した。石の下から大窯期の灰釉皿などが出土している。曲輪南端の崖際に柵列と考えられるピットを４基検出した。

４曲輪　4曲輪は、中央で平成16年度調査区から続く大溝（338SD）を検出した。溝は最大幅3.10m、最深部までの深さ1.04mの箱堀で、形状から通路とも考えられる。また、曲輪西端でこの溝を埋めた後に掘削された溝（330SD）から土留めと考えられる石組みを検出し



桑下城跡発掘調査区全体図



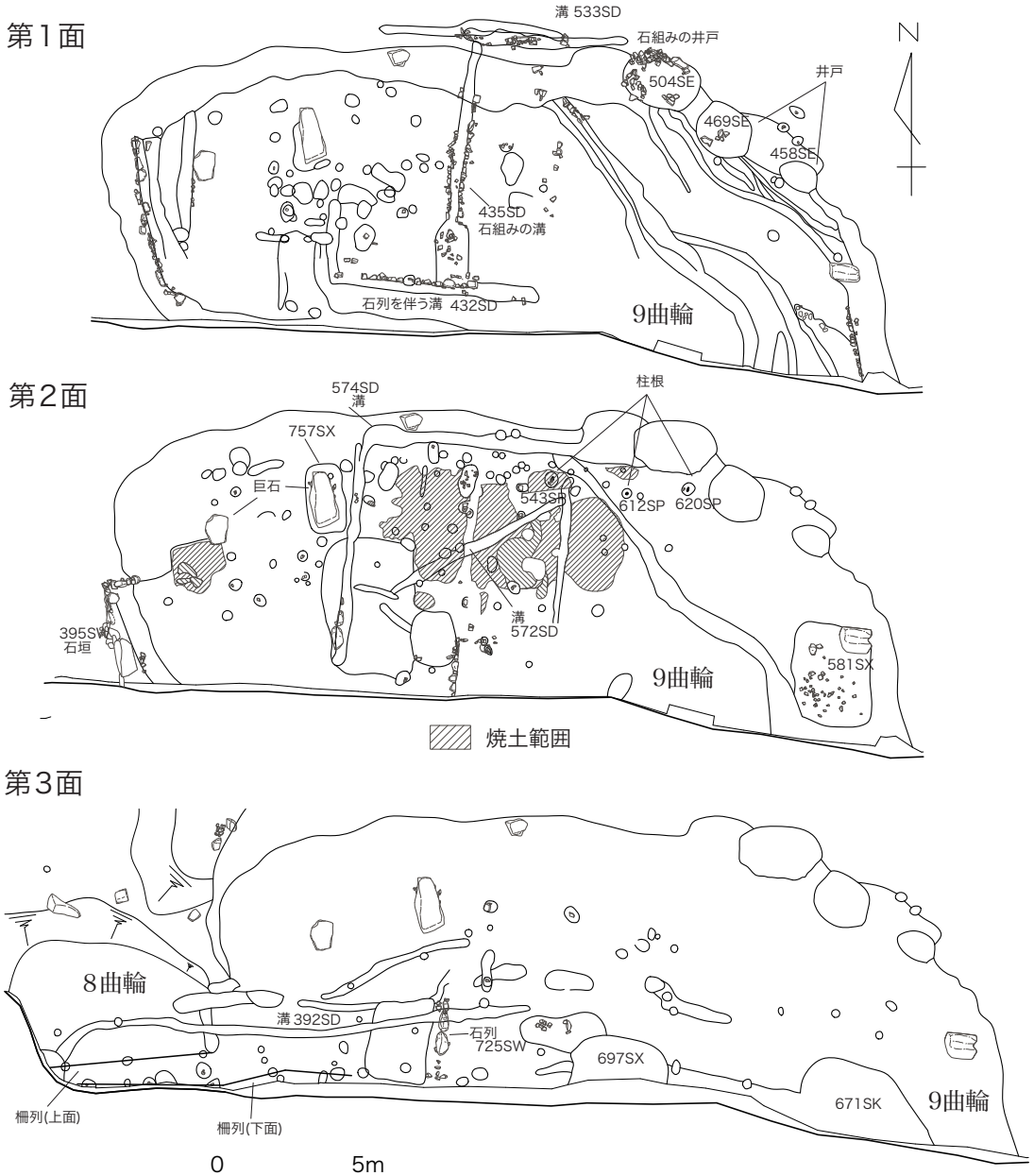
平成21年度調査区遺構平面図(1:300)

た。曲輪東には大溝（338SD）が途切れる辺りから柵列と考えられるピットがコの字状に展開する。

8 曲　輪　8曲輪の南側は盛土されており、盛土の上面と下面で東西方向へ続く柵列を検出した。下面の柵列と溝（392SD）は、9曲輪第3面へ続いており、築城時には9曲輪と一体の曲輪であったと考えられる。

9 曲　輪　9曲輪の中央部分で、火災が起きたと考えられる焼土や被熱した石が出土し、火災後の整地面（第1面）、焼土が広がる面（第2面）、築城当初と考えられる面（第3面）を確認した。

第　1　面　第1面では、曲輪中央で南北方向に走る石組みの溝（435SD）を検出した。石組みに使われている石の中には被熱したものが見られる。溝からは鳥形水滴、猪形水滴、合子などが出土した。南部には東西方向から南北方向へと直角に折れ曲がる溝（432SD）を検出し



9曲輪遺構平面図（1:250）


9曲輪から出土した水滴・豆天目・合子

た。東西方向部の北側部分のみに石が組まれている。溝の中は焼土や炭化物で埋まっており、直接火を受けたと思われる部分もあった。北東部で石組みの井戸（504SE）を検出した。石組みは北側のみに残り、検出面は長径2.75m、短径2.00mの楕円形で、最深部までの深さは0.91mを測る。石組みに大窯期の焼台が使われていた。出土遺物は豆天目、茶入、水滴などの大窯製品の他、茶臼、鉄製刀子、ガラス製数珠玉、中国産染付碗などが出土しているが、土師質の鍋など日常生活用具は少ない。

第　2　面　第2面の南側は１m以上の盛土がされており、曲輪全体で大規模な造成が行われたことが分かる。曲輪中央の焼土が広がる部分で掘立柱建物の柱穴と考えられる複数のピットを検出した。また、焼土の広がりの北西部分には建物を囲むL字状の溝（574SD）を検出した。この溝の西側には上面が平らな巨石が２個出土した。757SXの巨石（上面1.96m×0.81m）は地山を掘り込んで据えられ、上面を水平にするために根元には石が並べられていた。焼土の広がりの中央部分に軸線の異なる溝（572SD）を検出した。溝の中は焼土塊が多数埋まっており、溝の底部から鳥形水滴や匣鉢、銅製金具が出土した。また、この溝の東側の焼土層から豆天目が、南側の炭化物集積部分から毛彫りが施された鍬形台が出土した。南東角に岩盤を隅丸方形に掘り込んだ土坑（581SX）を検出した。検出面は長径3.65m、短径2.76mの長方形で、深さは0.58mを測る。水を溜めるための施設と考えられる。８曲輪との境で幅3.78m、最大高1.48mの石垣（395SW）を検出した。石垣は垂直に立ち上がって平行を意識して石が組まれ、裏込石がなく、古い時期の石垣の特徴を有する。

第　3　面　第3面では、曲輪西端から東へ全体の３分の１程の位置に南端から北方向へ約3mの石列（725SW）が見られる。この石列を境にして西側と東側とでは地山の様相が異なる。東側は南方向へと大きく落ち込んでおり、南端に大型土坑2基（671SK、697SX）を確認した。西側は８曲輪へと岩盤が続いており、一体の平場だったと考えられる。出土遺物は平碗、直縁大皿、耳付水注、卸目付大皿、仏餉具など古瀬戸製品が多い。また他には東濃型山茶碗や中国産染付碗が出土している。

縄文時代の陥穴　その他、桑下城築城以前と考えられる土坑を複数検出した。これらは地山を掘り抜き底面中央に小ピットを伴っており、縄文時代の陥穴と考えられる。なお、７曲輪の土坑（400SK）からは石鏃が、９曲輪からは細石核や石鏃が出土した。

ま　と　め　桑下城跡では、昨年度までの調査により、本丸周辺が侵攻勢力である松平氏や今川氏によって大規模に改造されているのに対して、本丸西側の小曲輪群は築城当初の形状を残し、在地領主である永井（長江）氏の居住域であったと考えられていた。今年度の調査で、築城時の遺構面と考えられる古瀬戸製品が主に出土した９曲輪第３面を確認したことにより、このことが裏付けられるとともに、その後の石垣を伴う大規模な造成や、動物形水滴・豆天目などの特殊な遺物が豊富に出土したことから、９曲輪がその後も重要な場所として利用されていたと考えられる。

（伊奈和彦・宇佐見　守）



調査区全景（上空から）



4曲輪の柵と大溝（338SD）



8曲輪と石垣（395SW）



9曲輪第1面（北から）



9曲輪第2面（東から）



9曲輪第2面の焼土（北から）



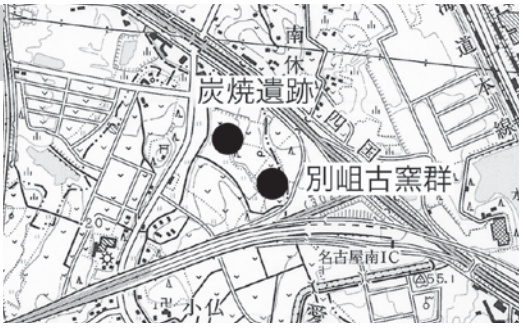
9曲輪第3面（東から）



9曲輪の巨石（北東から）

別峅古窯群（べっそこよう）・炭焼（すみやき）遺跡

所　在　地　大府市共和町地内
（北緯35度3分2秒 東経136度56分27秒）
調 査 理 由　内陸用地造成事業大府木の山地区
調 査 期 間　平成21年5月
調 査 面 積　100㎡
担　当　者　宮腰健司・鵜飼雅弘



調査地点（1/2.5万「鳴海」）

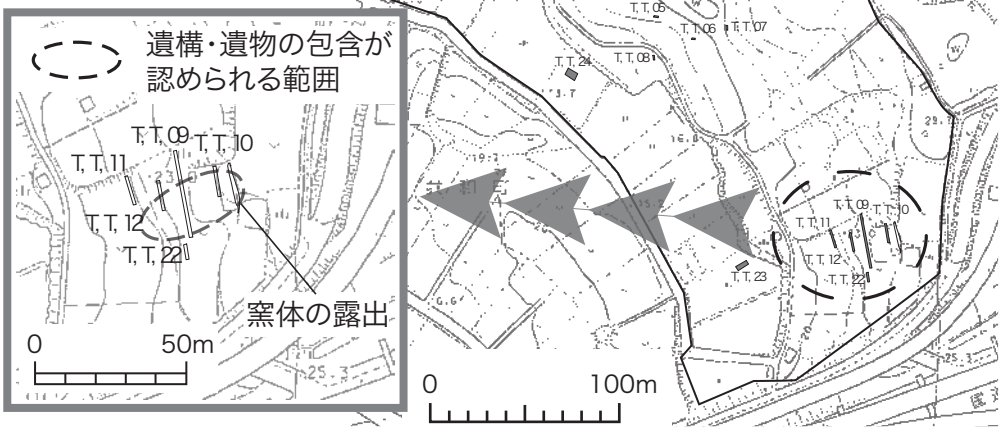
調査の経過　調査は、愛知県企業庁による内陸造成事業大府木の山地区に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受け、平成21年5月に実施された。調査面積は100㎡である。

立地と環境　遺跡は大府市の北東部、大高川東岸標高20mの丘陵に立地し、名古屋市に隣接する。遺跡の西250mには子安神社遺跡、南西500mには円通寺古墓が所在する。

調査の概要　別峅古窯群の現況は南西方向に区画を持つ畑であり、窯体の位置と灰層の範囲を確認するため、南北方向に５本のトレンチ（T.T.09～T.T.12、T.T.22）を設定し、谷部分に包含層の有無を確認するためT.T.23を設定した。

炭焼遺跡では木の山処理場北東の畑に、遺物の散布が報告されている。このため竹林（T.T.01～T.T.08）および旧耕作地（T.T.13～T.T.21）にトレンチを設定した。

ま　と　め　別峅古窯群では、窯体は少なくとも２基が遺存することを確認した。またT.T.09・T.T.12では灰層と見られる遺物包含層を確認し、山茶碗や小碗、焼台などが出土した。一方炭焼遺跡では遺構及び遺物包含層を確認することができなかった。（鵜飼雅弘）



試掘トレンチ配置図（1:400、拡大部は1:250）

八巻古窯群（はちまきこよう）

所　在　地　知多郡東浦町緒川字八巻
（北緯34度58分18秒 東経136度55分3秒）

調 査 理 由　街路事業3・3・6名古屋半田線

調 査 期 間　平成21年5月

調 査 面 積　50㎡

担　当　者　宮腰健司・鵜飼雅弘

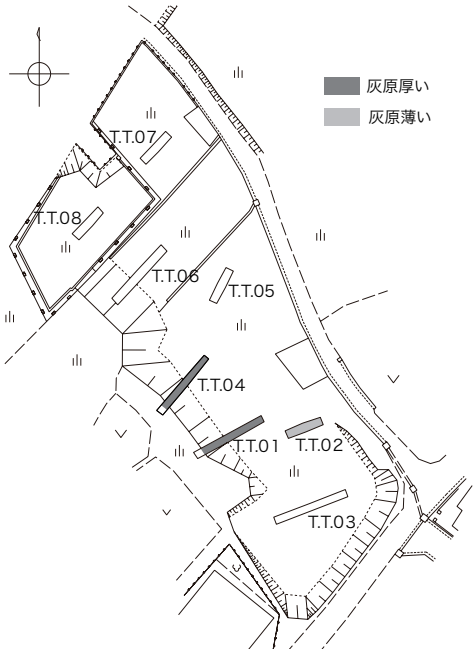


調査地点（1/2.5万「刈谷」）

調査の経過　調査は県建設部都市整備課知多建設事務所による街路事業３・３・６名古屋半田線建設に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年５月に実施した。調査では、南西斜面部に幅0.8m、長さ10mのテストトレンチを３ヶ所（T.T.01・04・06）と幅１m、長さ５mのテストトレンチを１ヶ所（T.T.08）、東側の谷部分に幅0.8m、長さ５mのテストトレンチを２ヶ所（T.T.02・05）と幅１m、長さ５mのテストトレンチを１ヶ所（T.T.07）、南側の谷最奥部に幅0.8m、長さ10mのテストトレンチを１ヶ所（T.T.03）設定した。

立地と環境　八巻古窯群は丘陵頂部から北西に向かって開口する小支谷の南西側斜面に所在し、昭和36年の調査では平安時代末～鎌倉時代に属する３基の窯体と灰原が確認されている。

調査の概要　調査の結果、窯体は確認できなかったが、T.T.01・02・04で灰原が検出された。南西斜面部に設定したT.T.01・04とも谷側７～８mにわたって灰原の広がりが確認され、厚さはT.T.01が50～85cm、T.T.04が25cmを測る。両テストトレンチとも、灰原は山側において削平を受けたように途切れており、上方には延びていない。T.T.02は谷の最奥部付近にあたる地点と考えられ、厚さ17cmの灰原がほぼ平行堆積する。灰原が検出されなかったT.T.03は谷地形の最奥部にあたり、T.T.05～08にかけては現地表面下250～300cmを越える深い谷部となる。（宮腰健司）



八巻古窯群テストトレンチ配置図（1/500）


八巻古窯群範囲確認調査地（北から）


T.T.01

下山田代・蕪木地区研究開発
施設用地内遺跡範囲確認調査

神谷上切遺跡・中坂佐後遺跡・朴の木・神谷田

所　在　地　豊田市下山田代町神谷上切・中坂佐後・朴の木、蕪木町神谷田（北緯35度9分50秒 東経136度43分4秒）

調 査 理 由　豊田・岡崎地区内陸用地造成事業

調 査 期 間　平成21年10月～12月

調 査 面 積　1,450㎡

担　当　者　鵜飼雅弘

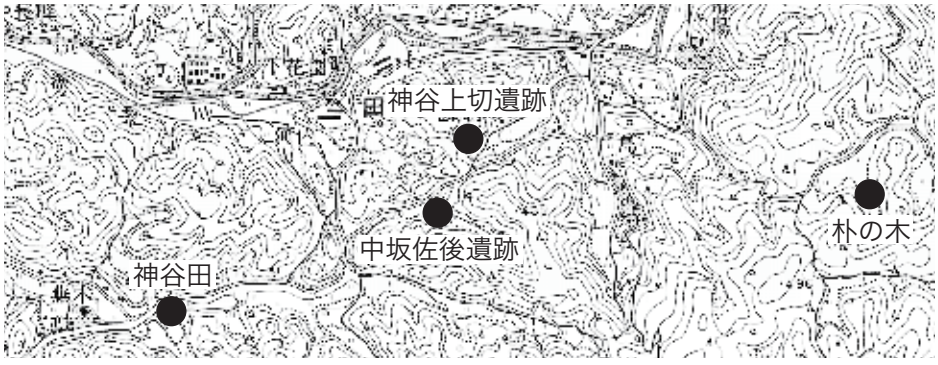
調査の経過　調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区内陸用地造成事業に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて実施した。今年度は周知の遺跡である神谷上切遺跡・中坂佐後遺跡、県教育委員会の分布調査により遺物散布地と認められた朴の木・神谷田の計４地点について実施した。期間は平成21年10月から12月である。

立地と環境　調査地点はいずれも郡界川の南に展開する、標高400m前後の沢および丘陵裾部の緩斜面である。各地点の成果については、以下の通りである。

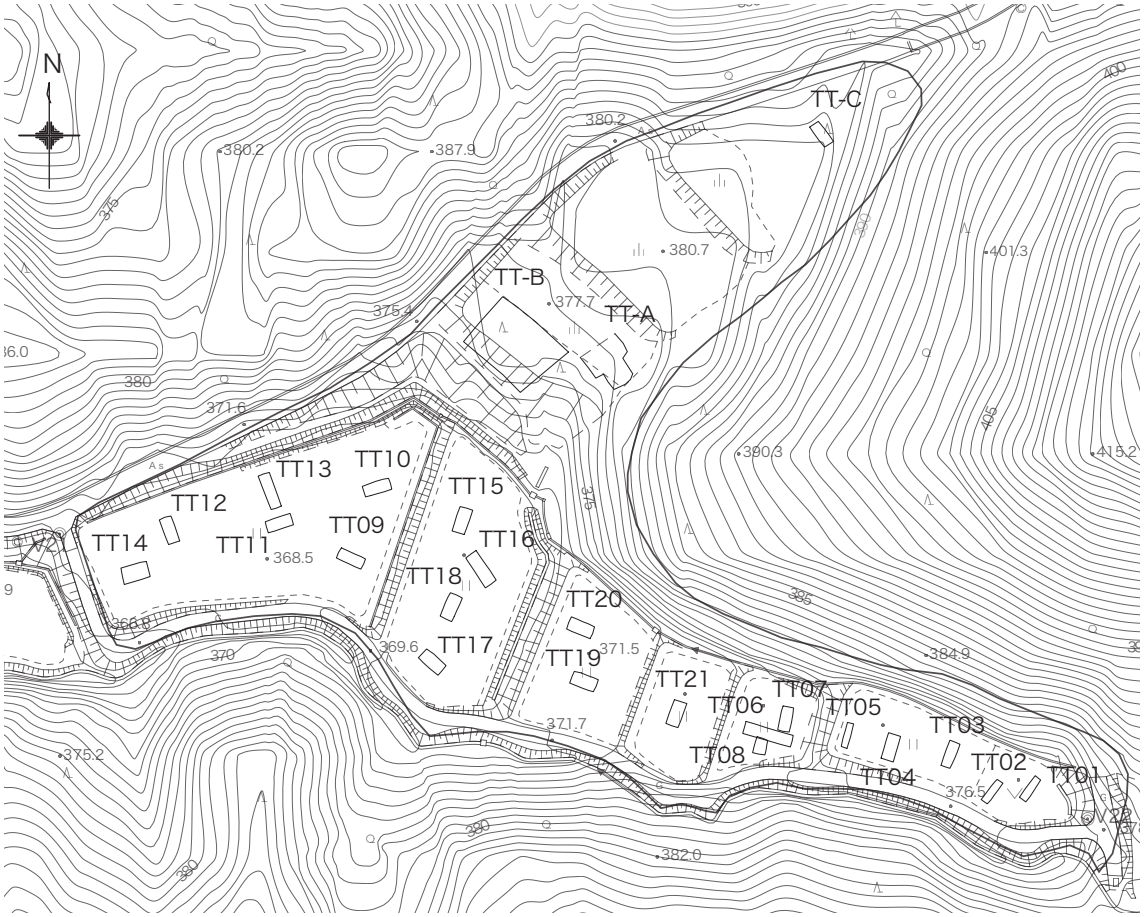
調査の概要　朴の木は標高450mに源流を発する２本の沢と下流の水田、丘陵裾部の緩斜面を調査範囲に66ヶ所の試掘坑（TTと略記）を設定した。うち19カ所で遺物が出土したが、東側の丘陵奥部TT22では溝１条を検出し、灰釉段皿・土師器が出土した。また東側丘陵裾TT35・TT39の褐色土中から弥生前期とみられる条痕文系土器が出土した。水田部分に設定したTT52の黒褐色土からは常滑系甕の胴部、灰釉広口壺の破片などが出土したが、遺構は確認できなかった。

ま　と　め　神谷上切遺跡・中坂佐後遺跡・神谷田については、遺物の包含は認められたものの細片が大半を占め、遺構は確認できなかった。耕作土に中世以降の陶磁器が混じることから、耕作による改変を受けていることが想定される。（鵜飼雅弘）

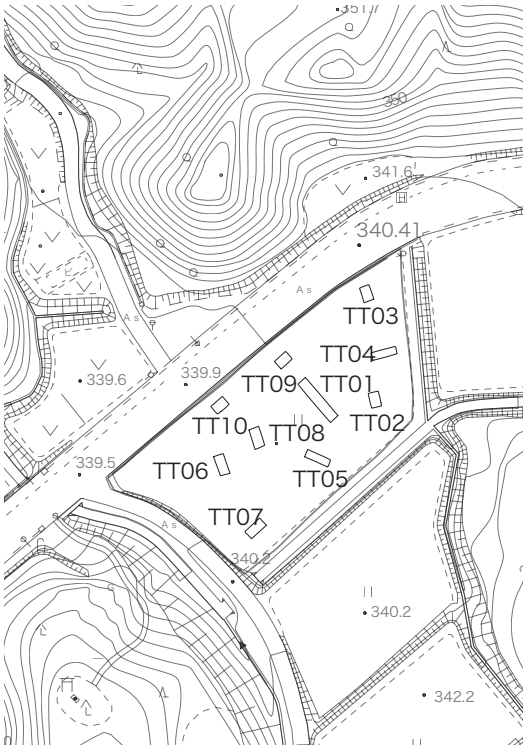
調査地点	標　高	トレンチ	遺構	主　な　遺　物
神谷上切	370m ～ 380m	13 ヶ所	なし	山茶碗、土師質鍋、施釉陶器（中世・近世）
中坂佐後	368m ～ 380m	24 ヶ所	なし	山茶碗、土師質鍋、施釉陶器（中世・近世）
朴の木	430m ～ 460m	66 ヶ所	溝１条	条痕文系土器 (弥生前期)、灰釉陶器、山茶碗、施釉陶器（中世・近世）
神谷田	339m	10 ヶ所	なし	土師質鍋、山茶碗、施釉陶器（近世）



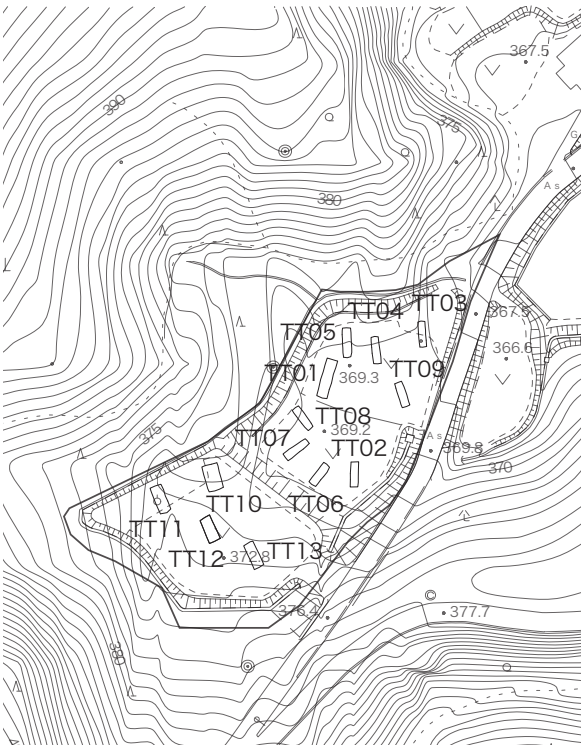
調査地点（1/2.5万「東大沼」）



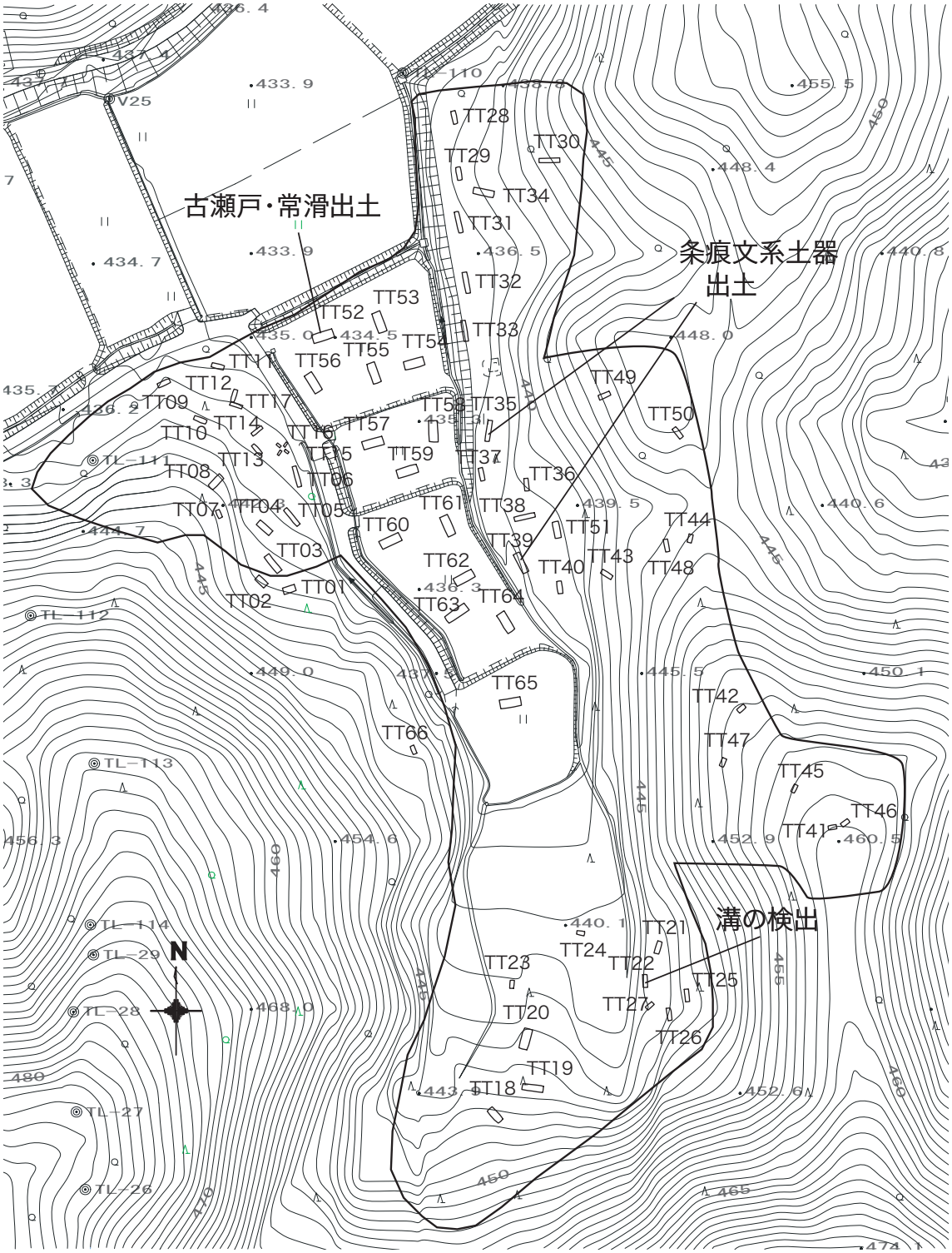
中坂佐後遺跡トレンチ配置図（1:1500）



神谷田トレンチ配置図（1:1500）



神谷上切遺跡トレンチ配置図（1:1500）



朴の木トレンチ配置図（1:1500）

車塚（くるまづか）遺跡

所　在　地　岡崎市岩津町車塚地内
（北緯35度0分46秒　東経137度10分23秒）

調査理由　道路改良工事（主）岡崎足助線

調査期間　平成21年10月～平成22年3月

調査面積　4,430㎡

担　当　者　鈴木正貴・川添和暁



調査地点（1/2.5万「豊田南部」）

調査の経過　調査は、県道岡崎足助線道路改築工事に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて実施した。

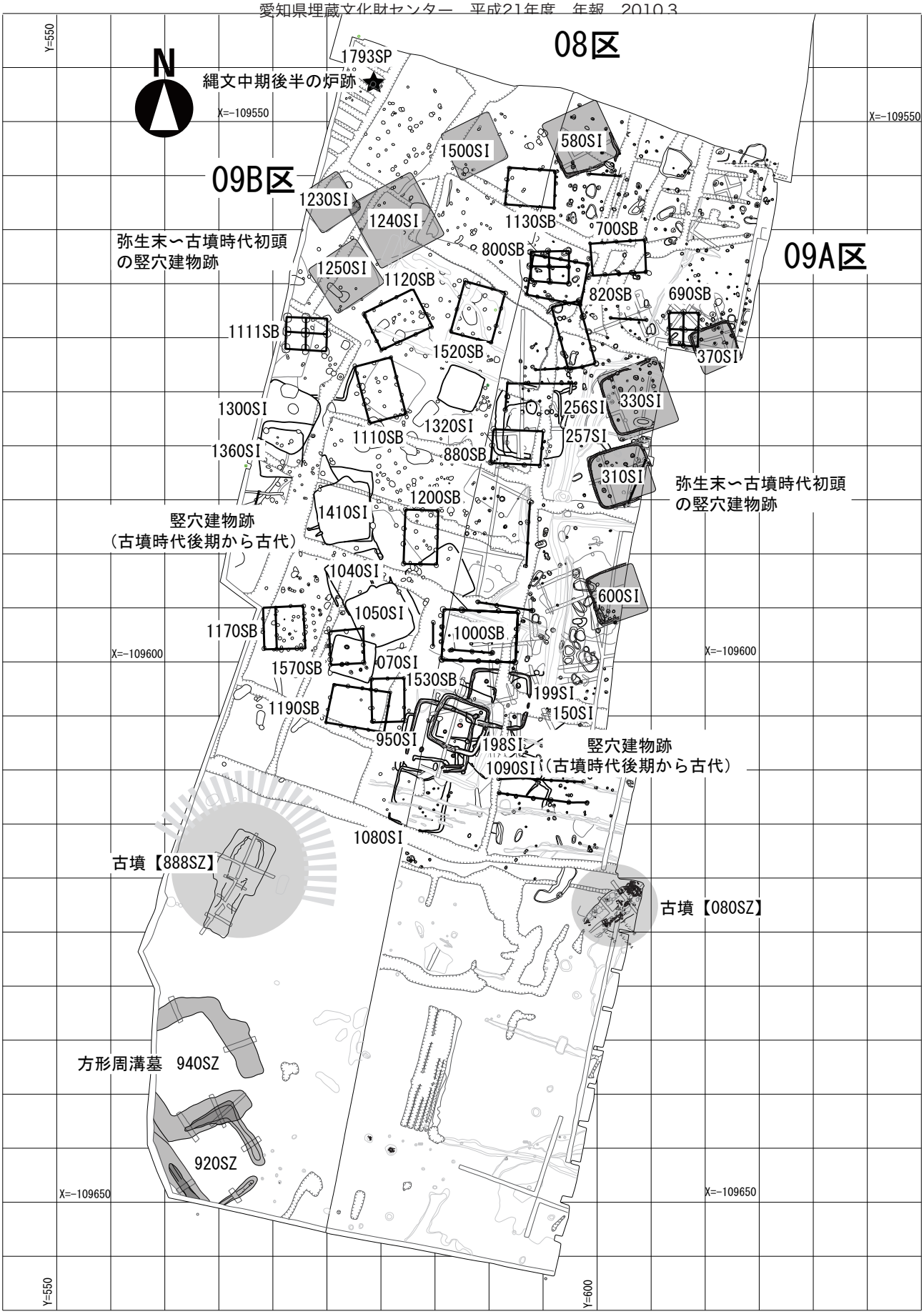
立地と環境　車塚遺跡は、矢作川東側の天神山から伸びる丘陵末端が、さらに西から南方向へと展開する舌状の台地上に立地する。台地上の標高は40～50mを測る。台地西側には矢作川に流れる於御所川が巡り、川を挟んで西側には、於御所遺跡・東郷遺跡が存在する。この丘陵から台地にかけては、車塚第１号墳～３号墳の存在が知られており、さらに岩津天満宮周辺の丘陵上には岩津第１号墳～６号墳と天神山第１号墳～９号墳が、さらに沢を挟んで北東側には八ツ木古墳が存在するなど、周囲は６世紀から７世紀代の古墳が群をなして確認されている区域である。

調査の概要　今年度の調査区は、08区に南接した区域であり、東側から伸びる丘陵端部の台地上に位置する。調査対象区を南北方向に２分して、東側をA区・西側をB区と呼称し、A区・B区の順に調査を行なった。調査の結果、縄文時代・弥生時代末～古墳時代初頭・古墳後期～古代の遺構・遺物が確認できた。

縄文時代　縄文時代中期後半の土器片を包含する炉跡（1793SP）が１基検出できた。検出時で径30cm程度の円形を呈する。B区北端に位置しており、付近では昨年度の調査で炉跡が１基調査されている（08区535SK）。その他、09A・09B区では、石鏃・石匙・剥片・打欠石錘など石器が散発的に出土しており、遺構の形成は認められないものの活動エリアであったことが示唆される。

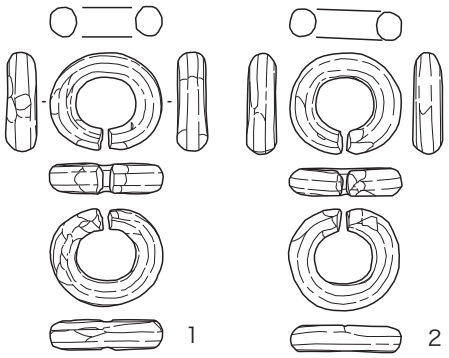
弥生時代末～古墳時代初頭　遺構としては、竪穴建物跡と方形周溝墓が調査された。竪穴建物跡は少なくとも９棟検出できた。調査区北半分の台地平坦部上に立地しており、いずれも約20度西に振れた状態で軸線が認められるようである。平面形態は、大きいもので一辺６mほど、小さいもので一辺４mの方形プランを呈し、いずれも壁溝が認められ、検出レベルから掘り方で深さ20m以上を測るものもある。床面には、炉跡とした被熱部分が中央付近に広がって検出されているものもある。出土遺物は、散発的ではあるが、竪穴建物跡ピット内（330SIの887SP）で台付甕脚部を、建物跡埋土で高杯をまとめて確認した事例もある（600SI）。方形周溝墓は現状で２基検出できた（920SZ・940SZ）。09B区南端の傾斜地に存在しており、溝で区切られた空間は一辺が10mを測る。溝は検出時で幅２m程度を測るもので、いずれも南東角部分で途切れており、ここが陸橋部であったと考えられる。方形周溝墓の溝には再掘削を行なった痕跡が確認でき、溝の重複関係から940SZの後920SZが造られたことが明らかとなった。溝の中からは、局所的に壷などがまとまって出土する区域が認められた。

古墳と横穴式石室　調査区南側の区域で、古墳が09A区で1基（080SZ）、09B区で１基（888SZ）の計２基が検出できた。080SZは墳丘部分が径７m程度の円墳になると考えられる。石室は長さ6m・



車塚遺跡遺構全体図（1:500）

幅2.5mを測り、平面形状は側壁が直線的になる。最も良好に残存しているのは奥壁部分であり、床の敷石も確認できた。側壁は基底部のみが残存しており、一部後世の抜き取り痕が確認できた。側壁に使用された礫には工具痕が明瞭に残されているものもあった。出土遺物には、台付壷などの須恵器・鉄器がある。888SZは墳丘部分が径13m、北側を中心に墳丘外には周溝と考えられる最大幅4mを測る浅い溝が認められる。石室は、全長9m・最大幅3mを測り、玄室・羨道・前庭部分が確認できた。888SZは後世の撹乱が著しく、奥壁・側壁・床石などが激しく抜き取られており、羨道部から前庭部にかけて、側壁の石積みがごくわずかに確認できた程度である。抜き取り痕が確認できたために、玄室部分は胴張りになると推定できた。出土遺物には、坏身・高坏などの須恵器、耳環（金環1・銀環1）、鉄器がある。



出土耳環実測図

古墳時代後期～古代

この時期からそれ以降と考えられる竪穴建物跡も確認できている。調査区全体の中央付近に10棟程度の重複が著しい形で確認できた（198SI・950SIなど）。カマドと考えられる焼土塊が掘り方端の北側に確認できている。また、09A区東端などの区域では、遺物の廃棄による土坑群が集中して認められた。

昨年度の調査でも多数のピットが確認できているが、これらピットが掘立柱建物跡など古代のものと推定できたのは、今年度の成果である。今回、ピット群から掘立柱建物跡16棟や柵列が確認できた。掘立柱建物跡は現在の方位に近いラインを軸線としており、16棟のうち3棟（690SB・810SB・1111SB）は総柱型建物跡である。

総括

今年度の成果としては、弥生末から古墳時代初頭と古墳時代後期から古代の集落跡の様相が明らかになったことで、台地の平坦部と南側の緩斜面では、土地利用の様相が異なることが判明した。弥生時代から古墳時代初頭では、台地の平坦部に居住域、南側の緩傾斜面に墓域が形成されている。一方、古代の集落跡は台地の平坦部に集中して築かれており、南側の緩斜面には集落はつくられなかったようである。また、南側の緩斜面頂部に新規の古墳２基が確認できたことも大きな成果である。

（川添和暁）


A区古墳080SZ石室　（南から）


B区古墳888SZ石室（南から）


A区古墳080SZ須恵器出土状況　（北西から）


B区古墳888SZ耳環出土状況

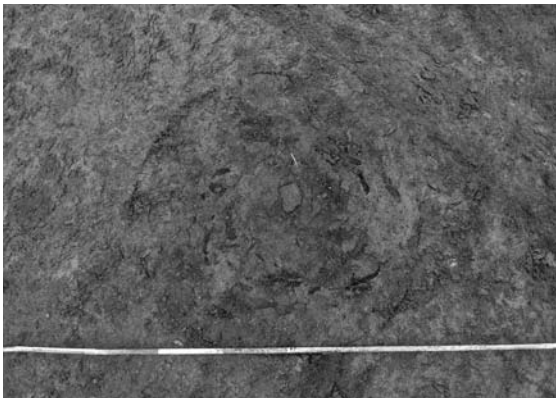

A区弥生末～古墳時代初頭の竪穴建物跡310SI　（北西から）


B区方形周溝墓920SZ・940SZ（北から）


A区掘立柱建物跡810SBほか（西から）

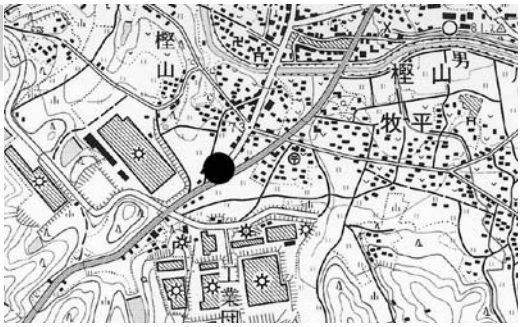

A区掘立柱建物跡ピット507SP須恵器出土状況（西から）


A区古代竪穴建物跡198SIほか（西から）


B区縄文時代炉跡検出状況1793SP

西牧野（にしまきの）遺跡

所　在　地　岡崎市樫山町・牧平町
（北緯34度54分53秒　東経137度17分8秒）
調 査 理 由　第二東海自動車道横浜名古屋線
調 査 期 間　平成21年4月～平成22年3月
調 査 面 積　13,440㎡
担　当　者　酒井俊彦・石原真吾・武部真木



調査地点（1/2.5万「御油」）

調査の経過　第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、中日本高速道路株式会社より県教育委員会を通じて委託を受けた愛知県埋蔵文化財センターが調査を行った。平成21年度はA～F区の6調査区に分割し、計13,440㎡の面積について行った。

立地と環境　西牧野遺跡は岡崎市東部の丘陵部、樫山・牧平町（旧額田郡額田町）に所在する。一帯は南北約1km、東西約4kmの規模をもつ標高約70～80mの谷底平野であり、ほぼ中央を男川が西流する盆地状地形をなす。遺跡は男川左岸の河岸段丘下位面に立地している。周辺では以前から石鏃や土器が採取されており、旧額田町教育委員会の調査によって牧平遺跡、下堺津遺跡など縄文後期～弥生前期の集落の存在が明らかとなっている。

調査の概要　今回の調査地点は、遺跡東端に位置するA区と西端側のB～F区があり、両端の距離は約550m、西側へ緩やかに傾斜しており標高差は約9mを測る。広範に多数の旧石器が検出されたほか、縄文、弥生、平安時代、中世～近世にわたる複合遺跡であることが判明した。

基本層序は、上から表土（耕作土）、暗灰色（黒色）シルト、灰黄色シルト（～砂質シルト）の順でみられ、黒色土はC区およびB区の北東部で層厚30cm前後の堆積が部分的に認められた。遺構検出は主に灰黄色シルト層上位で行った。

旧石器については、遺構検出面での石器の分布状況をもとに掘削範囲を設定し、下位約80～120cmの深さまで精査を行った。

旧石器時代　旧石器は特にC、D区において多数出土しており、C区で716点、D区では500点を超えると思われる。整理途中であるが、器種は石核（33点）、ナイフ形石器（20点）、掻器・削器（12点）、角錐状石器（3点）、槍先形尖頭器（2点）を確認しており、そのほか剥片石器およびチップが全体の9割近くを占めると思われる。

石材についてみると、点数の多い順から溶結凝灰岩（流紋岩を含む）、黒曜石、チャート、安山岩、下呂石、水晶があり、石核の大半およびチップはすべて溶結凝灰岩である。本遺跡以西の岡崎市、豊田市域の旧石器資料が矢作川流域で採取が可能なチャートが主体であるのとは異なり、また黒曜石が一定量を占める点などが本遺跡の特徴として挙げられよう。それぞれの石材産地として、溶結凝灰岩は本遺跡から東へ約50km離れた鳳来寺山周辺から豊川流域が考えられる。黒曜石資料は球果が少なく透明感があるものが多くみられる。おそらくは信州系の黒曜石が多くを占めているのではと思われる。

旧石器の出土状況は大きく2パターンに分けられる。一つは平面で径約２ｍ程度の範囲内にチップを含む70～100点前後が集中し、これらの検出レベルは高低差10～40cmの幅に収まる。同様の出土状況は計2ヶ所（C区TP.14、D区TP.13）で確認されている。もう一つは広範囲に亘って平面的にも立体的にも散漫に分布する状態である。Cb区南部では明確な集中箇所がみられず、東から西にかけて緩やかに傾斜しつつ疎らに検出された。これ

らは河川性の堆積作用により移動したとみられ、周辺堆積層の検討から集中出土地点の南側にかけて、概ね南東から北西方向に流れた数次の流路跡が想定される。なお、石材別の分布の傾向では、多くの地点において溶結凝灰岩を主体としてその他の石材が僅かに混在するという状況の中で、Cb区南部の地点は溶結凝灰岩を主体としながらも黒曜石の比率が高いという違いが認められた。

分析を行った結果、灰黄色シルト上位から鬼界アカホヤ火山灰が、これより下の大礫層までの間で姶良Tn火山灰（AT）が検出された。本遺跡の旧石器は、これまでAT含有層より下では検出されていないことなどから、約２万5千年前を遡らない資料と考えられる。

A　区　A区は南側丘陵の末端付近にあたり、調査区南側は連続して近世段階に大型の土坑群が掘削され、その後整地が行われるなど大きく改変されている。中央より北側では中世の土壙墓と考えられる土坑２基、山茶碗や土師器皿を含む蛇行する溝などが検出されたが、遺物は全般的に希薄であり、中世段階には一部は墓域であったと考えられる。このうち土壙墓(011ST)は南北方向に長い楕円形を呈し、長軸1.92m、短軸0.6m、深さ約20cm、北側寄りの部分で径14cmの土師器皿(ロクロ成形)と刀子各1点が出土した。

B　区　調査区の中央を南から北へ流れる幅約9m規模の旧河道(220NR)が検出された。近世段階には機能しておらず、水田など耕作地であったとみられる。遺構は黒色土の堆積がみられた旧河道の右岸に集中しており、このうち掘立柱建物跡2棟、方形の竪穴状遺構2基は検出状況等により中世の遺構と考えられる。また、調査区北部では一辺が約10m規模の方形周溝墓1基（011、018、270SD）を確認した。なお、近代の遺構ではあるが、軸線の方向を同じくする一辺3m弱、深さ90cm前後の人力掘削による方形土坑26基が集中して見つかった。灰黄色土層が大きく掘り込まれ、直後に黒色土で短期間に埋められている。用途は不明である。

C　区　縄文時代と思われる直径2.8m規模の円形竪穴建物（291SI）、中世から戦国期の溝、掘立柱建物、方形土坑がある。このうち土坑（368ST）は地下式壙と考えられる。長軸がほぼ南北方向を向く隅丸長方形を呈する。長軸3.4m、短軸1.7m、深さ1.1mの空間からなり、側壁上部には天井の痕跡が認められる。南端に直径約80cmの円筒状の出入口があり、途中に段が設けられている。埋土中～上層でやや大型の板状の礫と常滑産甕片が出土した。

D　区　北東部を除き全体に遺構は希薄であった。縄文時代中期の深鉢を伴う土坑1基（090SK）が単独で検出されたほか、包含層中より無茎石鏃2点が出土した。中世の溝、掘立柱建物、近世の溝、時期不明の土坑などを検出した。溝は耕地を区画したものと思われるが、近世までに方向が変化している。B区の河川流路の変更との関連がうかがわれる。

E　区　E区の西縁に沿って現在の岩田川が流れており、現況の地形は旧河道の痕跡をよく留めていた。検出された旧河道（003、015、023SD）からは少量ながら灰釉陶器碗、皿、長頸瓶のほか完形に近い山茶碗、小皿等が出土した。

F　区　E区と同じく西縁に沿って山茶碗、中世土師質鍋、皿が混じる旧河道が検出された。東側の上段は削平を受け、明確な遺構は検出されなかった。

ま と め　今年度は、遺跡の西部及び東端の調査を行い、旧石器時代から江戸時代までの遺構・遺物が検出された。旧石器時代の遺物は、県内では規模、内容とも他にあまり類例のない貴重な成果である。来年度の遺跡東半の調査において、今回の調査結果の検討と調査内容を充実させることが課題である。

（酒井俊彦・石原真吾・武部真木）



遺跡遠景
（西から、手前の調査区がE区）

09B･C･D･E区主要遺構配置図（1:1000）


Cb区南部　旧石器出土状況

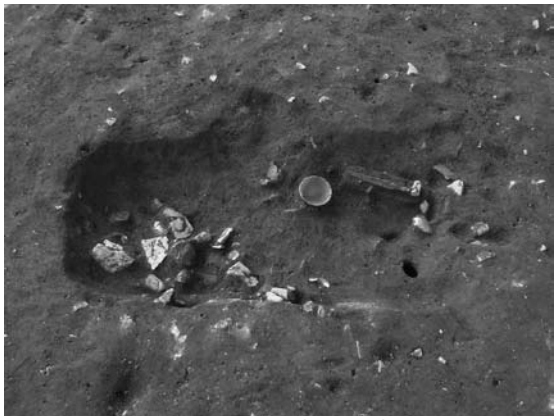

Cb区旧石器出土状況（TP.14）

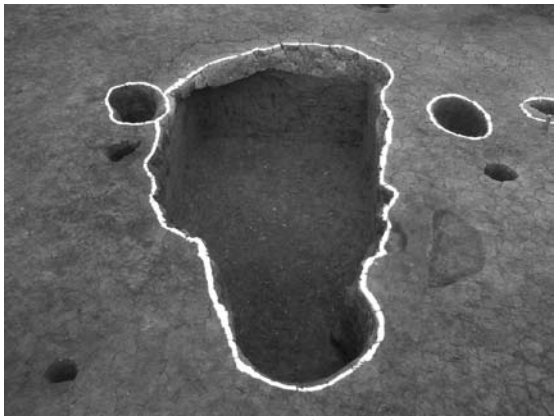

石核とナイフ形石器


Cb区円形竪穴建物（291SI）


Da区縄文土器出土状況（090SK）


Ba区方形周溝墓と現代の撹乱


Aa区土壙墓（011ST）


Cb区地下式壙（368ST）

五反田（ごたんだ）遺跡

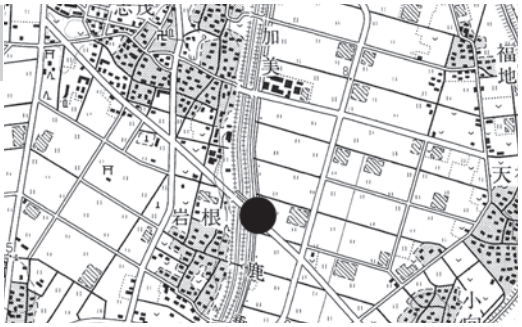
所　在　地　安城市小川町五反田・三反田
（北緯34度54分13秒 東経137度5分43秒）

調 査 理 由　中小河川改良事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成21年5月

調 査 面 積　20㎡

担　当　者　池本正明・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は県建設部河川整備課による中小河川改良事業（鹿乗川）に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年5月に実施した。

テストトレンチ（T.T.）は県道幸田・石井線を挟んで南北に１か所ずつ設定した。

立地と環境　安城市域の鹿乗川と矢作川に挟まれた平野部周辺には、微高地上や碧海台地縁辺部に多数の遺跡が確認されている。五反田遺跡はこのうちの１つで、北側に下懸遺跡、南側に惣作遺跡が所在している。

調査の概要　調査区はいずれも遺構が希薄となるが、２面の遺構面を確認した。

上面では、T.T.1で土坑が確認できた。検出面が暗灰黄色細砂上部となり、微高地となる可能性が高い。北側に近接する下懸遺跡の南側では谷地形が確認されており、確認された微高地は狭い範囲に限られたものであろう。T.T.2では湿地状の地形が確認できた。不鮮明ながらも畦畔状の高まりが確認でき、水田である可能性も考えられる。

下面ではT.T.1で小土坑を検出したが、T.T.2では当該期の遺構は未確認となる。

出土遺物は、T.T.2から平安時代頃の須恵器・灰釉陶器が採集された。

（池本正明）


T.T.-001


T.T.-002

下懸（しもかけ）遺跡

所　在　地　安城市小川町
（北緯34度54分20秒 東経137度5分43秒）

調 査 理 由　中小河川改良事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成21年11月～平成22年3月

調 査 面 積　1,850㎡

担　当　者　池本正明・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は、愛知県建設部河川課による鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会を通じた委託事業である。本遺跡では平成12年度にも調査を実施しており、今年度の調査区は00A区の南側（09A・B）と西側市道部分（09C・D区）である。

立地と環境　下懸遺跡は鹿乗川の左岸に位置する。標高7m前後の微高地上に弥生時代後期～古代の集落が展開し、その西側に自然流路が南北にのびる。集落は弥生時代末～古墳時代初頭の遺構・遺物が最も多く、流路内からもそれに伴う木製品が多数出土している。加えて前回の調査時には、流路から古代の習書木簡が出土し、三河地域で初の成果として注目された。

自 然 流 路　09A区から09C区では、北西から南東方向に向かって若干カーブする自然流路とその右岸が検出された。流路は、比較的流速のあった段階の規模は不明であるが、水流が澱んで粘土や植物質が多く堆積する範囲は、幅約30mである。この粘土堆積層は大きく上下2層に分かれ、下層は褐色系の極めて植物質の多い粘土で弥生時代後期～古墳時代後期の遺物が出土し、上層は黒色系の粘土で植物質は下層に比べて減少し奈良時代～平安時代の遺物が出土する。

流 路 下 層　下層から出土した土器は、弥生時代末～古墳時代初頭のものが中心であるが量はさほど多くない。それに対して木製品は多量で、梯子や柱・板材のような建築部材や、製作途中の掘削具が出土した。それ以外には槽や杭が目立つものの、食器類は少ないようである。また種実ではクリが多く見られた。下層に関しては、古墳時代を通じて顕著な掘削が認められず、そのような状況は出土須恵器からI-17号窯期まで続いたとみられる。

上層と木簡　上層は、下層最上部に対して人為的な掘削がなされたものである。その幅は約5mで大溝のようでもある。この掘削は複数次なされており、09B区では大溝の合流地点が確認された。出土遺物は少ないが、上層上部からは平安時代前期とみられる須恵器甕が出土しており、概ね8～9世紀代の堆積と考えられる。また合流地点付近では木簡が出土し、「・・米物受被・・」などの文字が判読できた。木簡に共伴する土器はなかったが、上層でも底部近くで出土したことから、奈良時代木簡の可能性がきわめて高いと考えられる。

水 田 畦 畔　流路は、平安時代後期には周囲の微高地と同じレベルにまで堆積が進んでほぼ埋没したようである。この上面では水田畦畔が検出され、若干の灰釉陶器が出土した。畦畔は惣作遺跡で検出されたものと同じく北西～南東方向を軸線に展開する。

微 高 地 上　流路右岸の微高地上の遺構は少ない。しかし、土器や木製品のほとんどが流路の右岸近くで出土したことを考えると、集落域の一部であった可能性がある。一方左岸の微高地は09D区で確認され、弥生時代末～古墳時代初頭の竪穴建物跡や溝などが検出された。

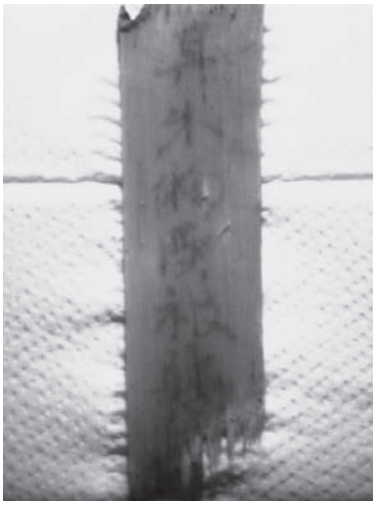
ま　と　め　今年度の調査では、流路を中心に遺跡の解明を進め、木簡出土層位を特定することができた。木簡の評価についてはさらに検討が必要であるが、習書木簡に近い地点で出土した

ことは両者が単なる流れ込み以上の意義を示していることは確かである。官衙に出入り可能な階層の集落が近隣に存在した可能性が高い。また部分的ではあったが畦畔が検出された意義も大きい。古代末期から中世前半にかけて、条里制のような統一的基準で耕作地化が進められたことを想定できよう。

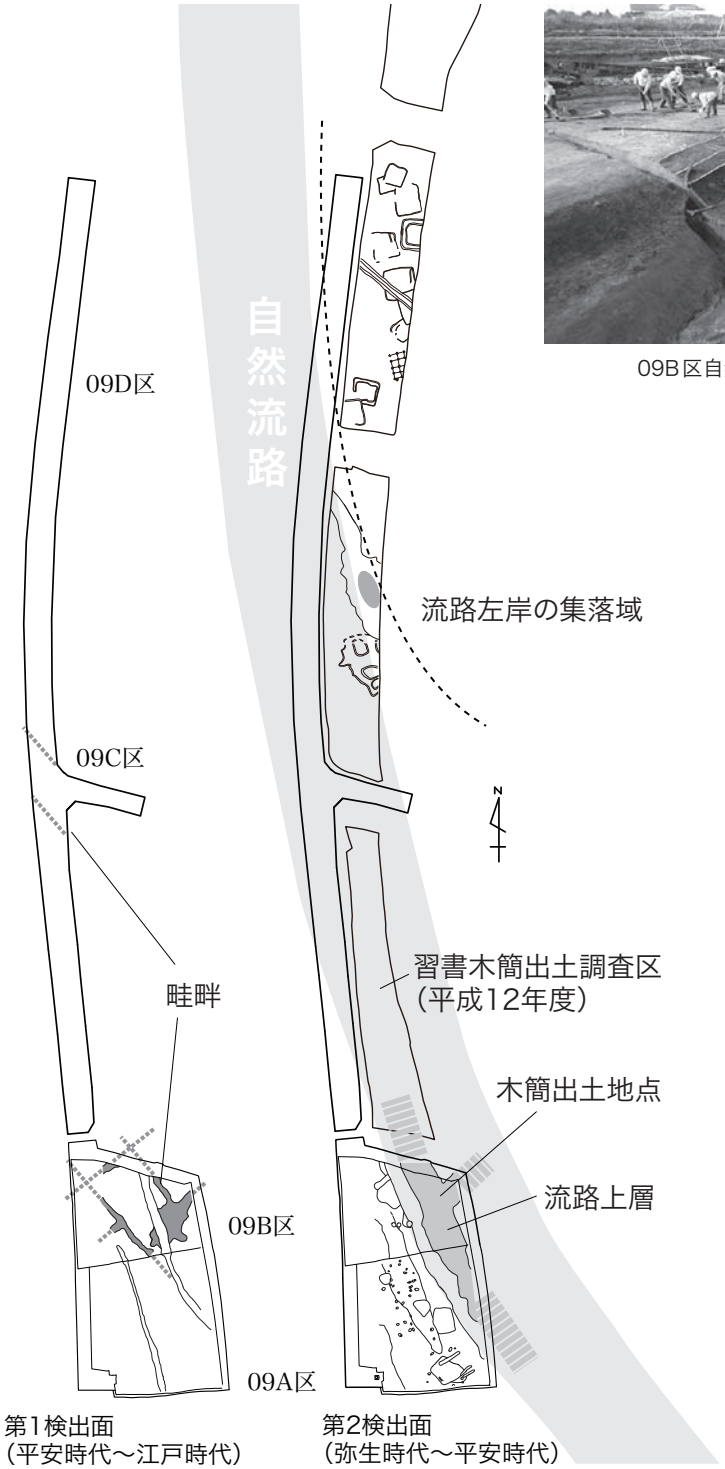
（永井邦仁）



09B区自然流路上層完掘状況（南東から）



09B区自然流路出土木簡（赤外線画像）



下懸遺跡09A・B区の主要遺構配置図（1:800）

惣作（そうさく）遺跡



調査地点（1/2.5万「西尾」）

所在地　安城市木戸町
（北緯34度54分00秒 東経137度5分38秒）

調査理由　中小河川改良事業（鹿乗川）

調査期間　平成21年9月～平成21年11月

調査面積　900㎡

担当者　池本正明・永井邦仁

調査の経過　調査は、愛知県建設部河川課による鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会を通じた委託事業である。平成16・20年度に次ぐ調査で、県道築堤下（09A・B区）および08A区の北隣（09C区）である。

立地と環境　惣作遺跡は鹿乗川の左岸に位置し、標高7m前後の自然堤防および後背湿地上に展開する。弥生時代後期～平安時代は遺跡中央を流路が斜めに貫流し、08A区～09C区では流路西側の自然堤防→後背湿地→自然堤防の順に展開する。

調査の概要　09A区は撹乱が激しく近世の流路を一部検出するにとどまった。09B区では弥生時代後期の竪穴住居跡、奈良～平安時代の溝を、09C区では古墳時代初頭の遺物の他、7世紀後半～8世紀前半の竪穴住居跡、9～10世紀代の柱列、そして上位検出面にて12～13世紀代の水田畦畔を確認した。

弥生時代後期　09B区は流路東側の微高地に該当する。竪穴住居2～3棟が重複して検出された。竪穴住居跡からは弥生時代後期の土器、それに掘り込まれた土坑からは古墳時代前期末の土器が出土した。当該期集落の一端とみられ、これまでの調査成果から集落域は80～100m四方の範囲におさまると推測される。

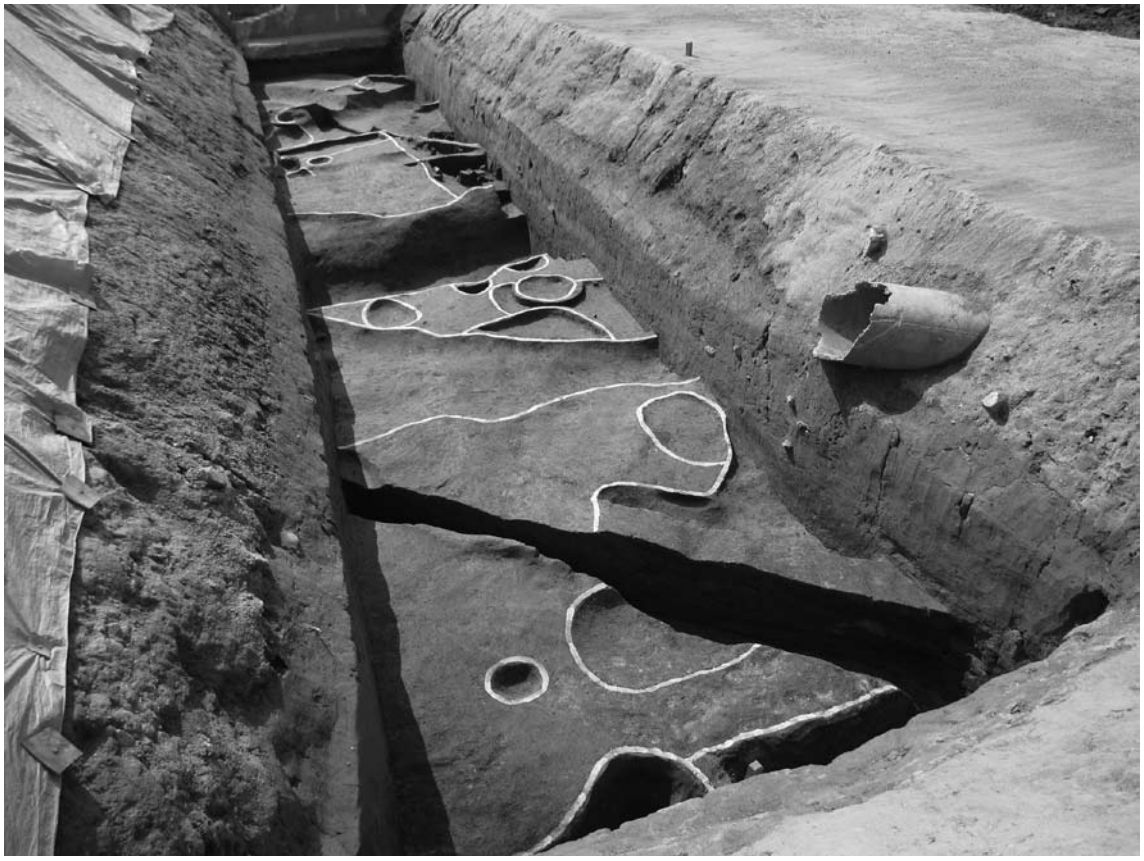
「寺」墨書　09B区019SDは東西方向にのびる溝で、下層からは8世紀後半～9世紀前半の須恵器が出土した。「寺」と墨書されたものもあり、南西方向に位置する寺領廃寺との関連が注目される。09C区では、自然堤防頂部の竪穴住居跡1棟が検出され、その周辺で7世紀後半～8世紀前半の須恵器が出土した。

09C区で検出された柱列は柵または塀とみられ、北西から南東方向にのびる。この方向は上面で検出した水田畦畔の方向と合う。またこれと同じ方向にのびる複数の溝も検出した。平行する溝は道路側溝の可能性がある。溝からは10～11世紀の灰釉陶器が出土した。

水田遺構　09C区の後背湿地部分を中心に、水田畦畔を検出した。畦畔で囲まれた水田は5～6m四方で、08A区の水田と方向や規模が同じである。畦畔は自然堤防上でも一部確認でき、当該期に一帯の耕作地化が進んだとみられる。

自然堤防と集落　09C区では、周囲を後背湿地で囲まれた幅が20～30m程度の小さな自然堤防上において、遅くとも7世紀以降には集落が展開していたことが判明した。このような小規模集落は見落とされがちであり、今後は微地形の復元とそこに存在する遺跡への注意が必要となろう。

（永井邦仁）



惣作遺跡09B区弥生時代後期から平安時代前期の遺構全景（北から）



惣作遺跡09C区水田遺構全景（北から）

田口シウキ遺跡（たぐちしうき）

所　在　地　北設楽郡設楽町田口字シウキ
（北緯35度5分30秒 東経137度33分46秒）

調 査 理 由　設楽ダム

調 査 期 間　平成21年12月

調 査 面 積　60㎡

担　当　者　鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　調査は国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年12月に実施された。県教育委員会の分布調査の結果、平安～室町時代の遺物散布地として新たに周知された遺跡であり、調査ではこれを受け1m×2mのテストトレンチを30ヵ所設定した。

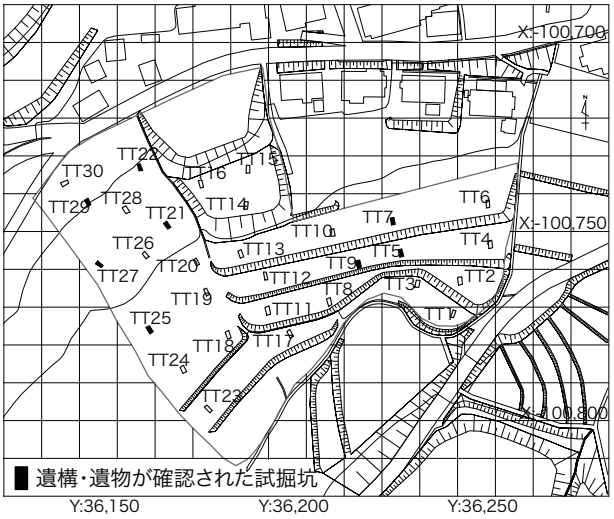
立地と環境　田口シウキ遺跡は田口盆地の南西側丘陵地の裾近くの南東向き緩斜面に立地し、江ク沢川に面している。標高は440～460mを測る。

調査の概要　調査は設楽町道町浦シウキ線よりも南側の部分で、住宅地を除く休耕田および植林帯を範囲とする。中央部のテストトレンチTT-5とTT-7 とTT-9では、褐色粘土または礫の安定した地山上に土坑が検出された。また、西部のテストトレンチTT-22とTT-27と TT-29でも、地山となる礫の上面などで溝や土坑が検出され、TT-21で17世紀の陶器片、TT-25で19世紀の陶器片が出土した。これ以外のテストトレンチでは遺構や遺物は確認されず、激しく湧水する地点も認められた。

この結果、江ク沢川に流れる沢（谷地形）が調査区域の東端部と中央部と西端部にあり、その間に挟まれた舌状の微高地に遺構や遺物が展開していることが判明した。

ま　と　め　今回の調査では、江ク沢川に近い低地部に相当し、湧水が激しく居住には適さない区域が多かったといえる。その中でも微高地上にのみ遺構が拡がっていることからみて、遺跡は町道町浦シウキ線よりも北側に広く分布するものと考えられる。

（鈴木正貴）



テストトレンチ配置（1:2000）


遺跡遠景

万瀬（まんぜ）遺跡

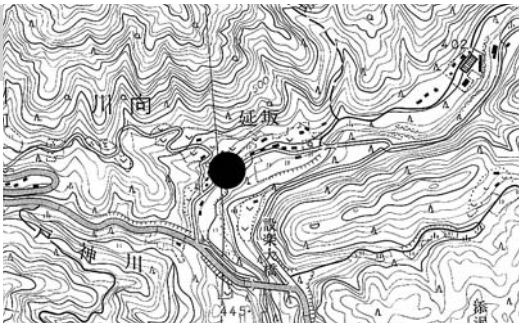
所　在　地　北設楽郡設楽町川向字マンゼ
（北緯35度6分49秒 東経137度33分58秒）

調 査 理 由　設楽ダム

調 査 期 間　平成21年11月～平成21年12月

調 査 面 積　40㎡

担　当　者　鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　調査は、国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年12月に実施された。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、1m×2mのテストトレンチを20ヵ所設定した。

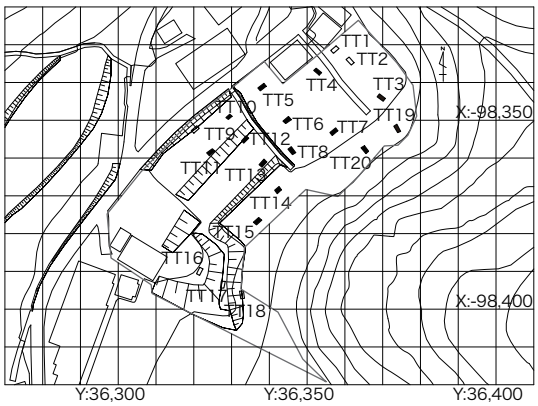
立地と環境　万瀬遺跡は標高約395～420mの境川右岸の東向き山麓斜面に立地している。

調査の概要　県道小松・田口線よりも南東側の北端部で、住宅地を除く畑、茶畑および果樹林を範囲とする。北東端部の畑部分（TT-1～TT-3）と南部の盛土部分（TT-16～TT-18）では遺構と遺物は確認されなかったが、その他のテストトレンチではおおむね褐色粘土の安定した地山が確認され、土坑などの遺構が検出された。

TT-1とTT-2では旧耕作土を除去すると岩盤が露出し、TT-3とTT-19では岩盤を切り出して平坦面を造成した状態が認められた。これらの地点では、岩盤を削り出して平坦面を造成したと思われる。TT-4～TT-15では地山の上位には黒ボクと思われる黒色土が堆積する場合が多く、遺物は中世後期から近世までの陶磁器類が若干量出土した。TT-10・TT-11・TT-13などの現況で崖の端部となる部分では、黒色土が1m以上盛土された部分がある。TT-20は境川に面する急斜面に近い緩斜面の端部に設定したが、遺構は濃密に展開している。本来は境川の方に遺構が拡がっていた可能性が推測される。

ま　と　め　今回の調査では、褐色粘土の安定した地山と黒ボクが拡がり、そこに中世後期以降の遺跡が良好に展開していると思われる。ただし、南西部の状況については不確定な状況である。

（鈴木正貴）



■ 遺構・遺物が確認された試掘坑

テストトレンチ配置（1:2000）


遺跡遠景

中村（なかむら）遺跡

所　在　地　北設楽郡設楽町八橋字道下・西路
（北緯35度7分41秒 東経137度35分16秒）

調 査 理 由　設楽ダム

調 査 期 間　平成21年11月～平成21年12月

調 査 面 積　156㎡

担　当　者　鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　調査は、国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年11月から平成21年12月にかけて実施された。調査は1m×2mのテストトレンチを76ヵ所と2m×2mのテストトレンチを1ヵ所の、合計77ヶ所を設定して行った。

立地と環境　中村遺跡は境川右岸の長い河岸段丘上から山麓にかけて立地する、縄文時代・平安～室町時代の遺物散布地として周知される遺跡で、標高は約440～470mに分布している。

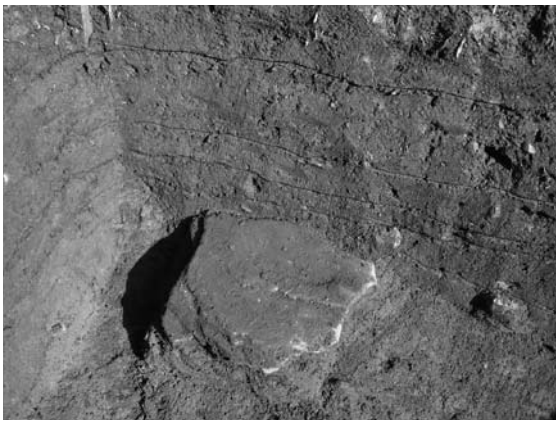
調査の概要　調査は県道設楽根羽線よりも南側の部分で、建物や道路用地などを除く広大な区域を範囲とする。

北東端部の畑部分（TT-1～TT-9）では、区画整理の影響を受けて遺構が良好に確認されない部分が多い。東部の水田部分（TT-10～TT-39）では、ほぼ全ての試掘坑で河川性堆積物による安定した遺構面が確認され、多くの試掘坑で土坑などの遺構が検出された。TT-15・18のように礫石が確認される地点もある。遺物は平安時代から江戸時代までの遺物が若干量出土し、TT-32などでは加工痕が残る木材も出土した。中央部の水田部分（TT-40～TT-45）では、褐色粘土や礫などの地山に達しないテストトレンチが多く、これが境川旧流路に相当しているかも知れない。

一方、中央部の畑部分（TT-46～TT-63）では、多くのテストトレンチで土石流に起因すると思われる厚い堆積が確認されたが、TT-52やTT-54では遺構状の落ち込みなどが確認されたことから、中世まで遡る遺構が展開する可能性がある。西部地区（TT-64～TT-77）では、多くの試掘坑で造成と思われる厚い堆積物があり、地山が確認されなかった。

ま　と　め　本遺跡は、東部水田地区で古代～中世の遺跡が良好に残存していること、および中央部畑地区の一部で中世の遺跡が一部残存している可能性があることが判明した。（鈴木正貴）


遺跡遠景


礫石出土状況（TT-15）

八橋谷合（やつはしやわせ）遺跡

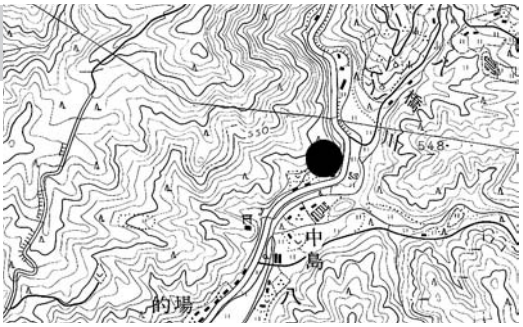
所　在　地　北設楽郡設楽町八橋字谷合
（北緯35度7分58秒 東経137度35分35秒）

調 査 理 由　設楽ダム

調 査 期 間　平成21年11月

調 査 面 積　44㎡

担　当　者　鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「田口」）

調査の経過　調査は、国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年11月に実施された。県教育委員会の詳細分布調査の結果、平安時代の遺物散布地として新たに周知された遺跡である。調査では、この分布調査の結果を受け、1m×2mのテストトレンチを22ヵ所設定した。

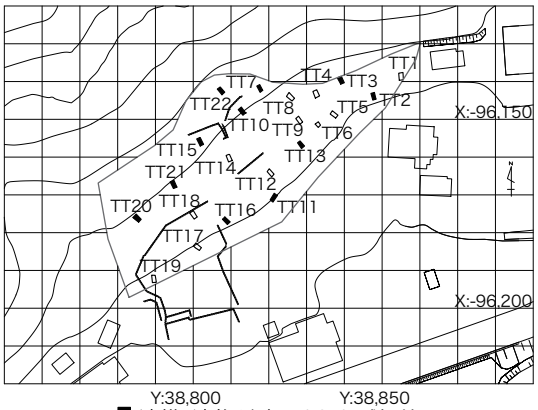
立地と環境　境川が大きく彎曲する内側、右岸の河岸段丘上に立地する。標高は約460～475mを測る。

調査の概要　調査は植林帯に相当する北西部のみを範囲とした。東端部（TT-1～TT-3）では、厚い堆積物と19世紀の陶磁器類が確認された。ここで検出された造成土や遺構は最近までの屋敷（隠居所）に伴うものである可能性が高い。この他の全てのテストトレンチでは緩斜面となる地山の礫が確認されている。東部の墓道付近（TT-4～TT-9）ではやや谷状地形となっており、遺構は全く確認されなかった。

一方、西部の平坦面を成す部分（TT-10～TT-21）では多くのテストトレンチで遺構が検出され、建物跡の根石を持つもの（TT-13）も存在する。しかし、遺物はほとんどなくわずかに江戸時代のものが認められる程度であった。この地区は石積列の区画施設を伴う平坦面が全面に広がっており、少なくとも近代には居住域などのために開発されており、確認された遺構はこれに関連するものかもしれない。

ま　と　め　本遺跡は、平安時代の遺物が出土したことから発見された遺跡であるが、今回の調査ではその存在は全く確認されなかった。山林部分までは遺跡が拡がっていないものと思われる。

（鈴木正貴）

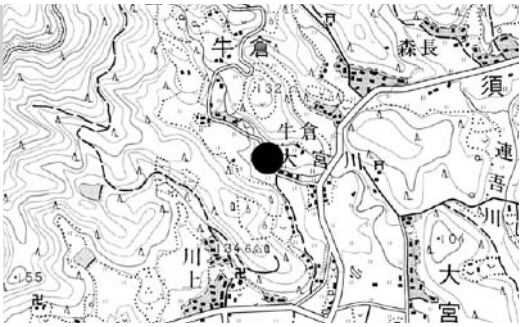


テストトレンチ配置（1:2000）


遺跡遠景

吉竹（よしたけ）遺跡

所在地　新城市牛倉字吉竹
（北緯35度55分37秒 東経137度30分54秒）
調査理由　第二東海自動車道横浜名古屋線
調査期間　平成21年6月～7月
調査面積　250㎡
担当者　松田　訓・早野浩二・白井克尚



調査地点（1/2.5万「三河大野」）

調査の経過　本調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線にかかる事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成21年６月～７月、調査面積は250㎡である。

立地と環境　吉竹遺跡は、豊川中流域右岸の段丘面上に立地し、段丘下には大宮川が流下する。遺跡周囲の標高は、約98～99mである。なお、谷を隔てた高位段丘上には石座神社遺跡が立地する。

調査の概要　今年度の発掘調査は、大宮川に面した西向きの緩斜面を対象とした。調査の結果、弥生時代後期の遺構、大宮川に面した谷地形などを確認した。

弥生時代後期　弥生時代後期の遺構としては、竪穴住居２棟を確認した。竪穴住居209SIは、2008年度調査区においてすでに確認された遺構（047SI）で、今年度の調査区においてその西辺を確認した。これによって竪穴住居の長辺が約４mであることが判明した。209SIからは、弥生時代後期の台付甕、高杯等がややまとまって出土した。203SIは大部分が削剥され、その北東隅部分を確認したのみであるが、周辺には弥生時代後期の土器が散在していた。

流路　大宮川に面した谷地形201NRは、上層は褐色シルト、中層は黒色粘質シルト層、下層は礫層で埋積される。中・上層からは、弥生土器・土師器に加えて、有袋鉄斧１点が出土した。また、最上層からは中世の土師器皿、下層からは縄文時代の磨製石斧が出土した。なお、段丘面上の遺構検出面付近から、縄文時代後期の深鉢も出土した。

まとめ　昨年度と今年度の発掘調査の結果、吉竹遺跡は、大宮川左岸の段丘上の狭小な緩斜面に立地する弥生時代後期～古墳時代前期を主体とする比較的小規模な集落であることが明らかとなった。今後、近隣の石座神社遺跡など、同時期に展開する周辺の遺跡との関係を具体的に考察する必要がある。

（早野浩二）


調査区全景


谷地形201NRの断面

石座神社遺跡（いわくらじんじゃ）

所　在　地　新城市大宮
（北緯34度55分38秒 東経137度31分10秒）

調 査 理 由　第二東海自動車道横浜名古屋線

調 査 期 間　平成21年8月～平成22年３月

調 査 面 積　4,720㎡

担　当　者　松田　訓・早野浩二・白井克尚



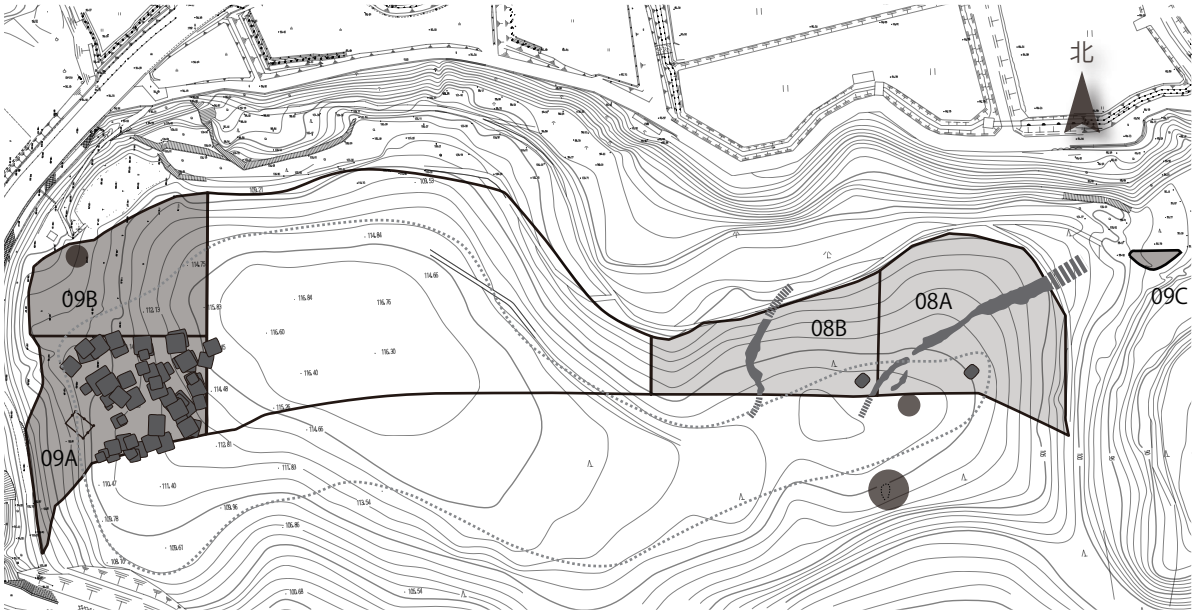
調査地点（1/2.5万「三河大野」）

調査の経過　本調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線にかかる事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川支社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成21年8月～平成22年3月、調査面積は4,720㎡である。

立地と環境　石座神社遺跡は、豊川中流域右岸の上位断丘上に立地する。段丘下の東西には連吾川と大宮川が流下し、段丘面上は舌状の平坦地を呈する。遺跡周囲の標高は約110mで、段丘下との比高は約30mである。同じ段丘面上の南端付近には、弥生時代後期から古墳時代に継続する南貝津遺跡、前方後方墳の断上10号墳（全長約50m）が立地する。連吾川に面した段丘下には、平安時代・鎌倉時代を中心とする加原遺跡、大宮川に面した段丘下には、弥生時代後期・古墳時代前期の遺跡である吉竹遺跡が立地する。

調査の概要　今年度の調査は、段丘面西端の北斜面（09AB区）と、一部、段丘面東端の斜面（09C区）を対象とした。調査の結果、縄文時代、弥生時代後期・古墳時代前期、奈良時代、中世・戦国時代、近世以降の遺構と遺物が確認された。

縄 文 時 代　包含層を中心に、縄文土器、尖頭器、石匙、石斧、石鏃等の石器に加えて、縄文時代前期と推定される滑石製玦状耳飾２点が出土した。確実に縄文時代と判断される遺構は検出されていないが、深さ１～２mの筒状・袋状の大型土坑が縄文時代に帰属する可能性がある。いずれの土坑も底面において小土坑が検出される点が特徴である。



調査区配置図（1:2500）

弥生時代後期・古墳時代前期

弥生時代後期・古墳時代前期は、本遺跡において最も遺構・遺物が濃密な時期で、09A区の丘陵緩斜面においては、約70棟もの多数の竪穴住居が重複した状態で確認された。竪穴住居の多くは、地床炉、貼床、周溝を伴っており、平面形は長辺４～５mの方形を呈する。また、特徴的な住居として、長辺６～７mのやや大型の住居（1181SI・1253SI・1277SI・1464SI等）、長辺約３mの小型の住居（1270SI・1402SI等）、地床炉に支柱石を埋設した住居（1180SI・1181SI・1200SI・1330SI・1349SI等）、いわゆる馬蹄形遺構を伴う住居（1349SI等）、竪穴住居の一隅の床面上に粘土塊（20cm程度）が残されている住居（1180SI・1331SI等多数）、焼土・炭化材と大量の土器が廃棄された焼失住居（1331SI・1454SI等）も確認できた。さらに、西向き斜面縁辺にはやや大型の掘立柱建物も確認された。

出土遺物は、竪穴住居や黒褐色を呈する包含層中から多く検出された。土器は、台付甕、高杯、（加飾）広口壷、瓢形壷、小型壷の各器種が出土し、1218SI上層からは底部穿孔壷、1181SIからは紐孔付蓋も出土した。1454SIは、住居北東隅を中心に土器が密集して検出され、土器群には１個体分の叩き甕も含まれていた。その他、土製紡錘車、土玉等の土製品、小型の板状鉄斧、鉄剣等の鉄製品も出土している。

奈良時代

09C区は、古代の遺構と遺物が確認された段丘面東端緩斜面（08A区）の下位に設定した調査区で、調査区の遺構検出面付近からは、須恵器がわずかに出土した。なお、09C区では、溝状の遺構も確認されたが、遺構の帰属時期は不明である。

戦国時代

09A区の遺構検出面付近において、銭貨（永楽通寶）１点、09B区の遺構検出面付近において、鉛製鉄砲玉1点が出土したが、同時期の遺構は確認されていない。

近世以降

09A区の丘陵緩斜面において、窯体1001SYが確認された。煙道、焼成室、焚口、前庭部灰層等の残存状態は良好である。焼成室は半地下式の構造で、径約1.5mの円筒形を呈する。



遺跡全景（北から）

焼成室からは、近世以降の瓦数点、鉄板、鉄釘、前庭部灰層からは、近世以降の陶器が出土した。1001SYは、窯体構造、灰層の産状から、近世以降に構築・使用された炭焼窯と考えられる。

ま と め　本遺跡は、旧設楽郡域において、弥生時代後期・古墳時代前期の大規模な集落として位置づけられ、丘陵斜面に立地する集落の良好な調査事例として評価される。今後、集落の立地や規模、継続性、遺構・出土遺物の構成等の観点から、吉竹遺跡や、モリ下遺跡等の近隣集落との関係性についてのより詳細な検討が必要と考えられる。

また、縄文時代の遺物は、草創期～前期に帰属するものが多いとみられ、当地域の具体的な様相を知るための良好な資料となるものと思われる。

（早野浩二・白井克尚）



09A区主要遺構配置図（1:500）



焼失竪穴住居跡（1454SI）



支柱石を埋設した地床炉（1330SI）



台付甕と粘土塊（1331SI）



高杯と加飾広口壺（1200SI）



紐孔付蓋（1181SI）

須長（すなが）10号墳

所　在　地　新城市須長
（北緯34度55分36秒 東経137度31分45秒）
調 査 理 由　第二東海自動車道横浜名古屋線
調 査 期 間　平成22年1月～平成22年2月
調 査 面 積　1,200㎡
担　当　者　松田　訓・早野浩二・亀甲真史



調査地点（1/2.5万「三河大野」）

調査の経過　発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境　本遺跡は新城市のほぼ中央部に位置し、雁峰山の南麓、長篠・設楽原の合戦で有名な設楽原決戦場の北端やや東側に所在している。周囲の丘陵には、断上山古墳群、茶臼山古墳群が分布する。遺構検出面での標高は約110mである。

調査の概要　等高線の状況より、古墳は直径約10mの円墳ではないかと思われる。墳丘北部および東部に外護列石と思われる花崗岩礫を確認した。墳丘北側と西側に周溝を検出した。周溝の北側は、幅2m、深さは0.3m程を測り、西側では幅1m、深さ0.5～0.6mを測る。また、墳丘の西側平坦面には、竪穴建物跡３棟を確認し、そのうちの1棟から、6世紀末から７世紀初頭と思われる須恵器高杯が出土した。

古墳の埋葬施設は、全長約７m、幅約0.8m～１mの横穴式石室で、天井石は奥壁部を除き、原状を留めていなかった。横穴式石室に使用された石材は付近に産出する花崗岩である。羨門付近からは須恵器が出土した。（亀甲真史）


調査前全景（南から）


竪穴建物跡出土須恵器高杯


墳丘南側裾部


周溝北西側

モリ下（もりした）遺跡

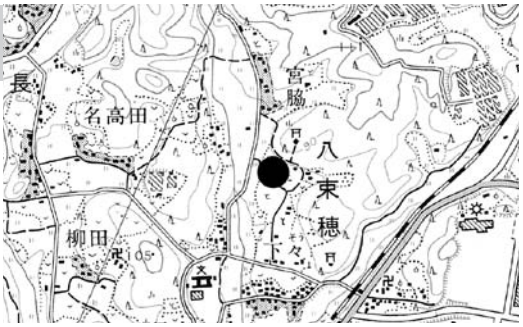
所　在　地　新城市八束穂
（北緯34度55分33秒 東経137度32分4秒）

調 査 理 由　第二東海自動車道横浜名古屋線

調 査 期 間　平成 21 年 6 月～平成 21 年 11 月

調 査 面 積　3,500㎡

担　当　者　松田　訓・亀甲真史



調査地点（1/2.5万「三河大野」）

調査の経過　発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境　本遺跡は新城市のほぼ中央部に位置し、地形的には、雁峰山から派生する尾根筋の南西側緩斜面に立地している。遺構検出面での標高は約80mである。

調査の概要　検出した遺構は、弥生～古墳時代・鎌倉～戦国時代の2時期である。

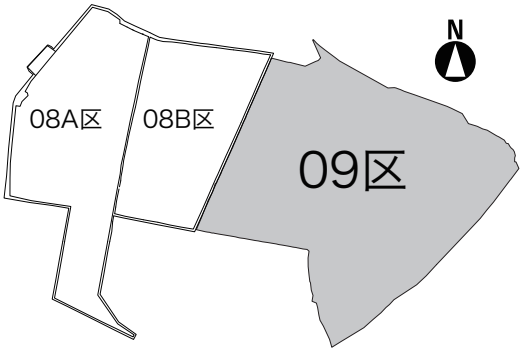
弥生～古墳時代　前年度08A・08B区と同様に、東隣の今年度09区でも竪穴建物跡が検出された。密度は前年度調査区より薄く、この時期のものと判断できるものは2棟である。このうち6548SIは5.1m×5.1mで、本遺跡の中では最も規模の大きな建物跡であり、土器片がまとまって出土している。その西隣に位置する6792SIは、6548SIと主軸を平行にとり、3.4m×2.8mを測る。6792SIからは、欠山式の高杯等が出土している。また調査区東部では、掘立柱建物の柱列を確認した。

鎌倉～戦国時代　北東から南西に延びる溝状遺構5077SD、土坑等を確認した。全体的に遺物は少ないが、調査区南端の5113SKから土器内耳鍋片が確認された。

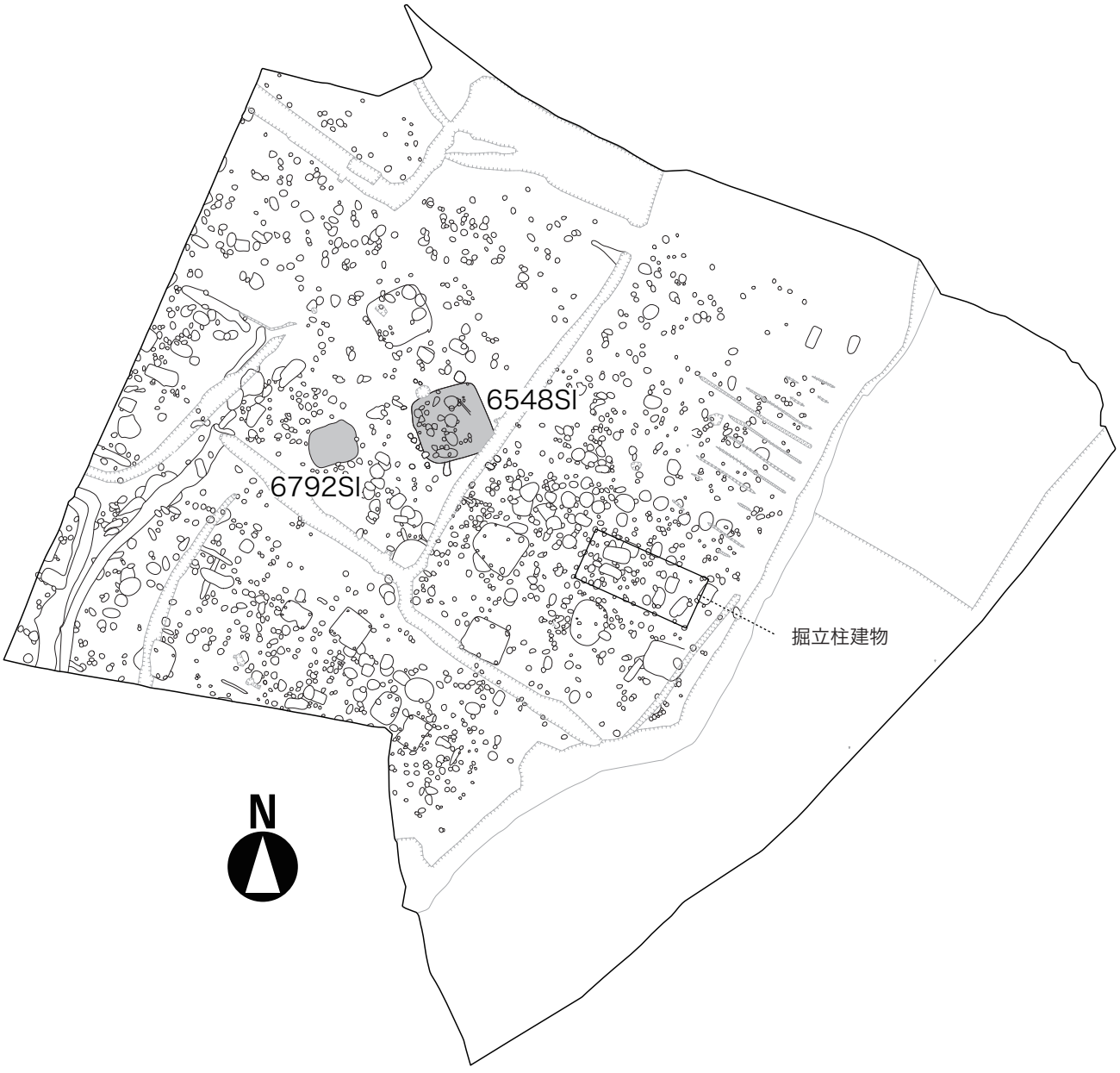
（亀甲 真史）



調査区全景（下面遺構、右下は上面遺構の一部：上空から）



08・09調査区配置（1:2000）



09区遺構全体図（1:500）

多り畑遺跡・辻川1号墳・辻川遺跡



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

所在地　豊橋市石巻町字札辻、石巻本町字太田前・辻川
（北緯34度47分43秒 東経137度26分19秒）

調査理由　主要地方道東三河環状線道路改良事業

調査期間　平成21年5月

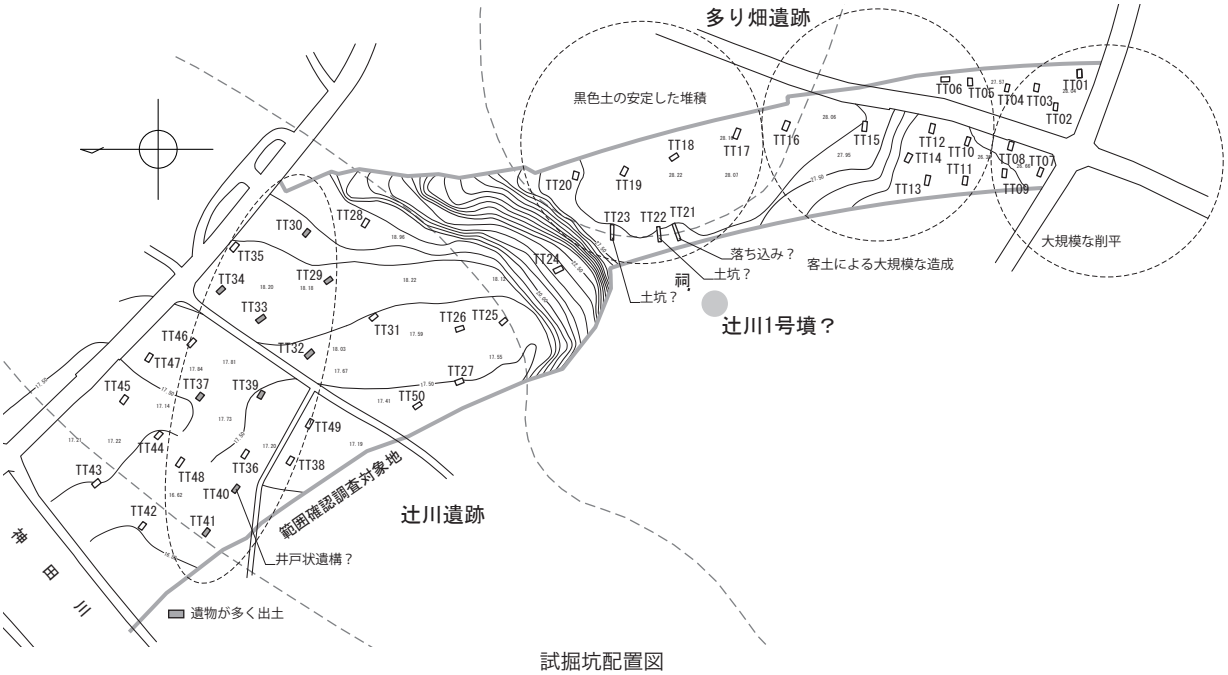
調査面積　100㎡

担当者　松田　訓・早野浩二

調査の経過　範囲確認調査は、主要地方道東三河環状線道路改良事業にかかる事前調査で、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成21年5月、調査面積は100㎡である。

立地と環境　多り畑遺跡は、神田川左岸の段丘上、辻川遺跡は神田川に面した低地に立地する。段丘端には辻川1号墳（径7m、高さ1mの円墳）が立地するとされるが、現在、その確認は難しい。多り畑遺跡は、石巻神郷地区圃場整備事業に伴い、神郷地区遺跡調査会によって、A地点60㎡、B地点195㎡の発掘調査が実施され、A地点においては縄文時代後期、B地点においては古墳時代後期の遺構と遺物が確認されている。また、辻川遺跡は古代・中世・近世の遺物散布地とされている。

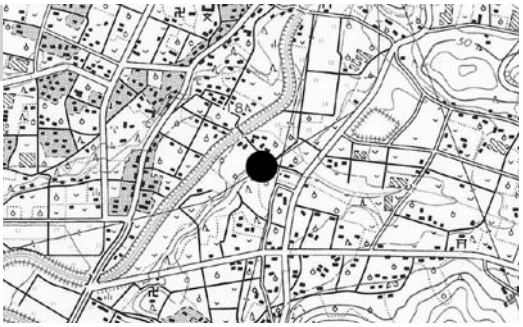
調査の概要　試掘坑は、多り畑遺跡と辻川1号墳が立地する段丘上にTT01～TT23、辻川遺跡が立地する段丘下にTT24～TT50をそれぞれ設定し、遺構・遺物の有無等を確認した。多り畑遺跡については、TT17以北に黒色土の安定した堆積と土坑状の落ち込み等を確認したが、黒色土中に遺物は包含されていなかった。TT16以南、TT05・TT10・TT11以北は、谷地形が客土によって造成され、TT04・TT09以南は、微高地が削平されていた。辻川遺跡については、井戸状遺構が確認されたTT40を中心として、各時代、一定量の遺物が出土したが、河川の氾濫、近年の造成によって、良好な包含状況を保ってはいなかった。　（早野浩二）



試掘坑配置図

多り畑（たりはた）遺跡

所　在　地　豊橋市石巻町字札辻
（北緯34度47分43秒 東経137度26分19秒）
調 査 理 由　道路改良事業（主）東三河環状線
調 査 期 間　平成 21 年 10 月～平成 22 年 2 月
調 査 面 積　1,440㎡
担　当　者　池本正明・本田英貴



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　調査は主要地方道東三河環状線道路改良事業にかかる事前調査で、本年度５月に実施した範囲確認調査（本書60頁）の成果により、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成21年10月～平成22年１月、調査面積は1440㎡である。

立地と環境　多り畑遺跡は石巻山の西麓、神田川と三輪川に挟まれた丘陵の北側、神田川左岸側に立地している。豊川左岸の段丘縁部は遺跡の集中域として知られ、多り畑遺跡の立地する丘陵の南側には東屋敷遺跡、神田川対岸の丘陵上には高井遺跡群などが分布している。

調査の概要　調査区は段丘の北端部に位置する。中央部がほぼ平坦で、検出面の標高は27.6m。北東に向けて緩やかに傾斜し、北端部ではこれが26.4mとなる。ほぼ全面を黒色土（いわゆる黒ボク）に覆われるが、北部～北東部に厚い堆積が観察できる。なお、遺構検出は主として黒色土の上面で行った。

縄文時代早期　調査区北側の比較的狭い範囲で押型文土器が出土し、当該期に属する可能性を持つ土坑が数基確認されている。このうち建物の可能性を持つ219SIは、直径2.4m程度のやや歪む円形を呈する。周囲には垂木坑の可能性を持つ小土坑が巡るが、いずれも明瞭に内傾しない。

弥生～古墳時代　調査区北部で弥生時代後期の土器棺１基、調査区中央で古墳時代の竪穴建物1棟を確認しているが、遺構・遺物ともに乏しい。

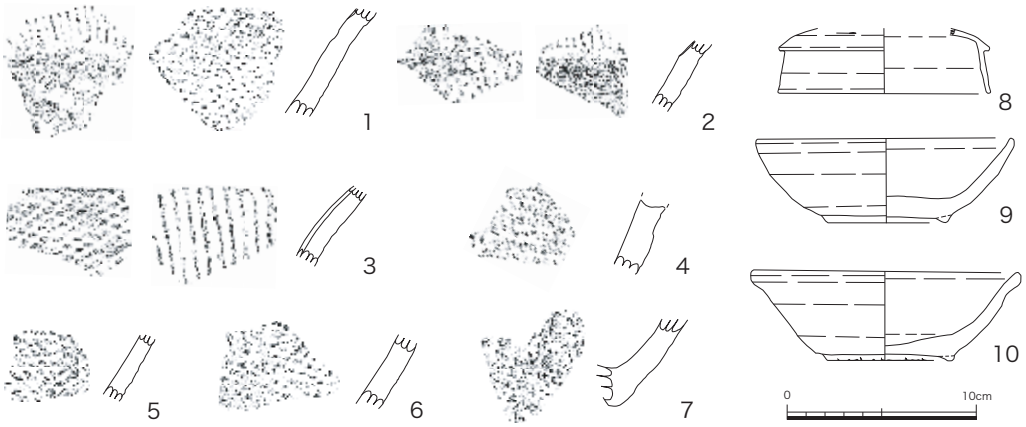
中・近世　調査区中央から南側に幅0.4m程度の蛇行する小規模な溝が掘削され、周辺には掘立柱建物も確認できる。出土遺物が乏しいが、ほとんどが中世後期～近世に属するものと考えられる。また、中世前期に属する土坑も散在しており、埋土中から山茶椀などが出土している。

ま と め　今回の調査では、複数の時期に渡る遺構群が確認できた。中でも注目したいのは縄文時代早期である。検出された遺構は乏しく不明確な部分も多いが、押型文土器の出土量はまとまったものとなっている。これらは外面に楕円押型文、内面の一部には斜行沈線を施すものがほとんどで、時期幅の狭い一群となる可能性を持つ。

（池本正明）



219SI



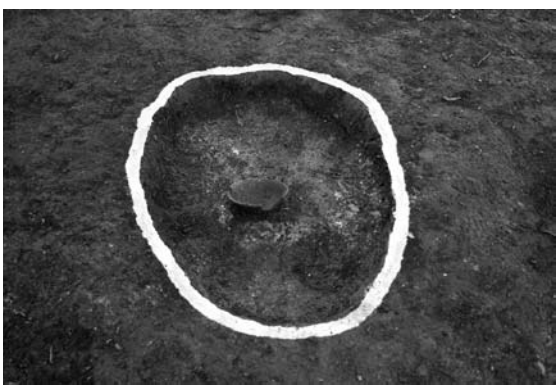
出土遺物実測図（1～7 押型文土器、8 須恵器、9・10 山茶碗）



調査区全景（上空から）



土器棺



中世前半の土坑

東屋敷遺跡（ひがしやしき）

所　在　地　豊橋市石巻町
（北緯34度47分22秒 東経137度26分15秒）

調 査 理 由　道路改良工事（主）東三河環状線

調 査 期 間　平成21年10月～平成22年2月

調 査 面 積　2,060㎡

担　当　者　池本正明・本田英貴



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　調査は愛知県建設部道路建設課による県道東三河環状線の建設工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年11月から同22年3月にかけて実施された。調査面積は2,060㎡である。

立地と環境　東屋敷遺跡は、石巻山の西麓に広がり、三輪川右岸の河岸段丘南縁部に立地する。石巻山から連なる尾根の先端部に当たり、付近には石巻山登山口がある。周辺の台地端部には多くの遺跡が存在しており、西浦遺跡や高井遺跡群など、とくに弥生時代から古代にかけての遺跡が多い。

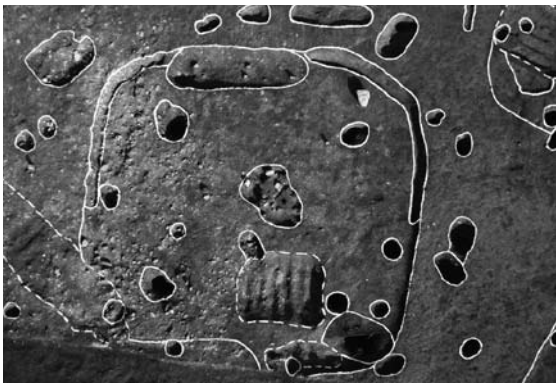
調査の概要　平成20年度に続き第2次調査となる今回の調査区は、平成20年度の調査区の北に隣接する範囲であり、平成20年度から連続する部分をA区、道路をはさんでA区の北に位置する部分をB区、さらに小道をはさんで北に位置する部分をC区として調査を行った。

弥生時代後期　A区南端部中心付近にやや大型の竪穴建物跡が確認された。隅丸方形を呈し、四隅に支柱穴が確認された。住居の南側から台付甕等が出土している。また南東隅に貯蔵穴を想起させる土坑がある。他にも竪穴建物跡と考えられる遺構が3棟検出されているが、いずれも基底部は確認できるものの出土遺物はなく時期は特定できない。

近 世 初 頭　A区東北部に中世後期から近世初頭のものと思われる柱穴群が検出されており、掘立柱建物群が想定される。001SK、002SK、020SKは径、深さから大型の建造物の柱穴である可能性があるが、大部分が調査区外になるため確認はできない。

（本田英貴）


A区全景（南から）


弥生時代後期の竪穴住居跡183SI

キジ山古墳群（きじやま）

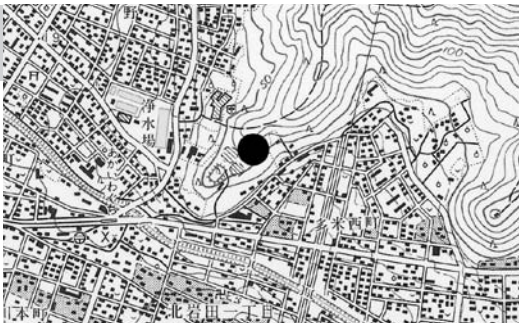
所在地　豊橋市多米町
（北緯34度47分22秒 東経137度26分15秒）

調査理由　愛知県水道用水供給事業

調査期間　平成21年4月～6月

調査面積　500㎡

担当者　池本正明・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　調査は、愛知県水道用水供給事業にかかる範囲確認調査として、愛知県企業庁東三河水道事務所から愛知県教育委員会を通じて委託を受けたものである。キジ山古墳群の規模と分布範囲を確認することを目的として、テストトレンチ(以下T.T.と略)を総計105箇所に設定した。

立地と環境　遺跡は豊橋市市街地の東方に位置する。遺跡の立地する丘陵部は石巻山系の尾根のひとつで、標高35～76mである。尾根の末端には豊橋市水道局の上水道タンクがあり、その北側が範囲確認調査の対象となった。

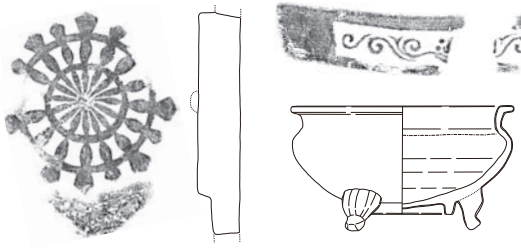
調査の概要　調査では、既知の古墳の周溝を含めた大きさを確認した他、新たに4基の古墳の存在が明らかにすることができた。また尾根筋頂部では古墳時代後期の土坑、尾根筋西側斜面では江戸時代の寺院跡を確認した。

キジ山古墳群　キジ山古墳群は横穴式石室の古墳時代後期の群集墳である。石室の損壊が激しく、石材が認められたのも1・5・11号墳と少ない。墳丘直径は6.0～15.5mで、周溝幅は約1.5～3.0mである。周溝からは須恵器が出土した。T.T.018（34号墳）では甕、T.T.025（13号墳）では7世紀後半代の杯身、T.T.044・045（15号墳）では瓶類、T.T.075（7号墳）では7世紀代のフラスコ瓶が出土した。新たに確認された古墳4基のうち調査対象地西側の2基（未確認古墳A・B）は現況で墳丘が視認できる。東側の未確認古墳Cは墳丘の一部とみられる直径3mの高まりのみ、同Dも同様であるが墳丘盛土とみられる版築状の堆積が確認できた。

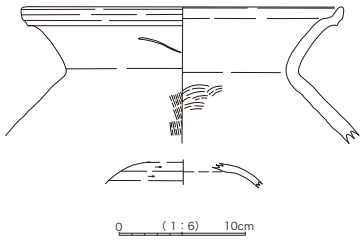
古墳時代後期の土坑　T.T.029では、幅1.6m深さ0.3mの土坑を確認した。多数の10～15cm大に破砕された石の他に須恵器甕・杯が出土した。須恵器は6世紀後半～7世紀前半とみられ古墳群にやや先行する時期である。土坑の性格は不明である。

晴雲寺跡　西側斜面から突き出す巨岩（通称屏風岩）付近には平場がある。T.T.006では北東～南西方向に伸びる溝状の瓦敷遺構や土坑が確認された。瓦は18世紀代で軒平瓦や輪宝文の棟板瓦も出土した。土坑からは青磁鉢が出土した。瓦敷遺構は建物雨落ち溝の可能性があり、青磁鉢の存在も考え合わせると仏教施設であったと想定される。『多米郷土誌』などによると、18世紀前半に「屏風山晴雲寺」という寺院の存在が知られ、今回確認された遺構・遺物が該当する可能性がある。

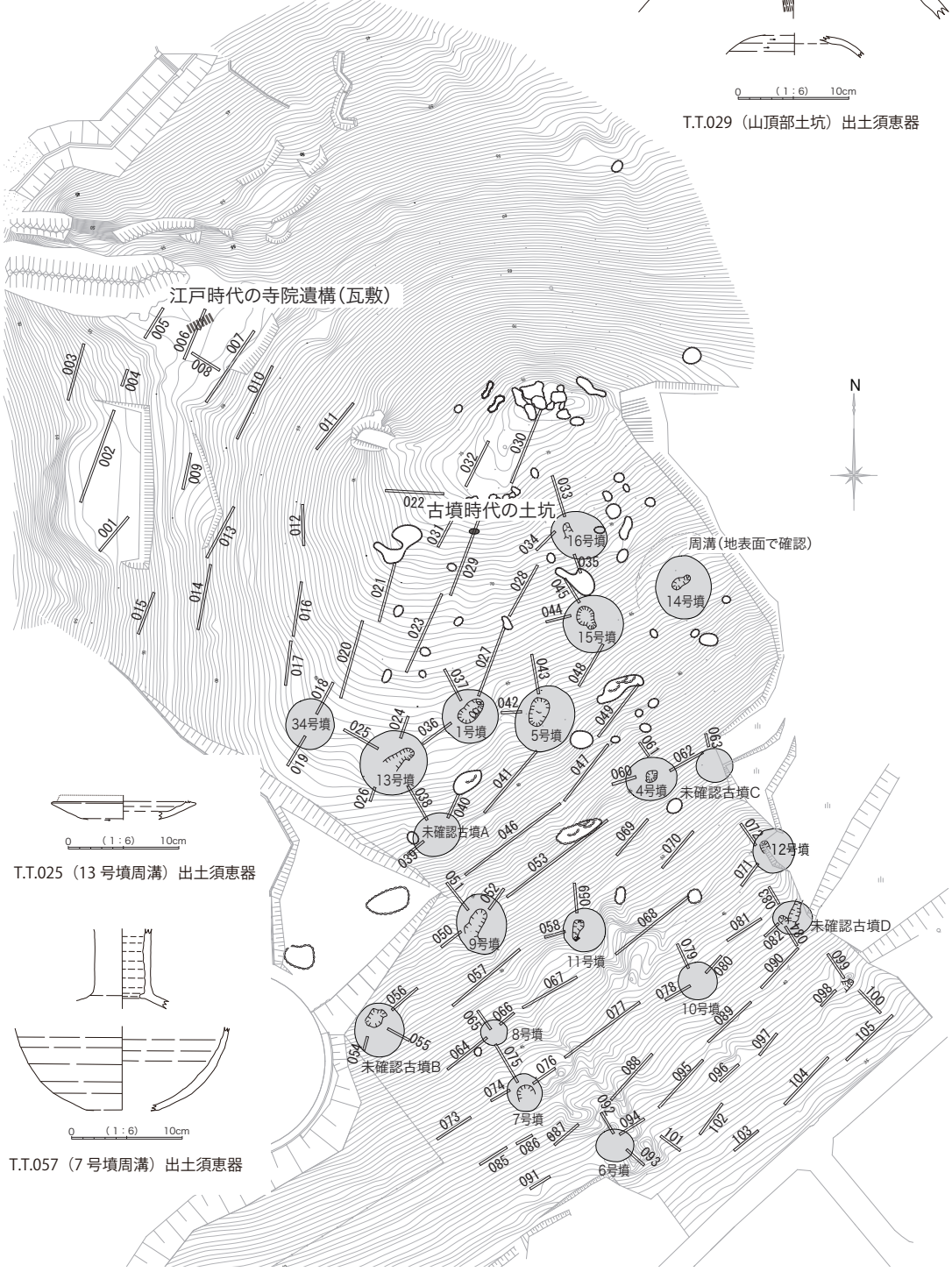
（永井邦仁）



T.T.006（晴雲寺跡）出土瓦・青磁香炉



T.T.029（山頂部土坑）出土須恵器



テストトレンチ配置（1:1500）と主な出土遺物

T.T.025（13 号墳周溝）出土須恵器

T.T.057（7 号墳周溝）出土須恵器

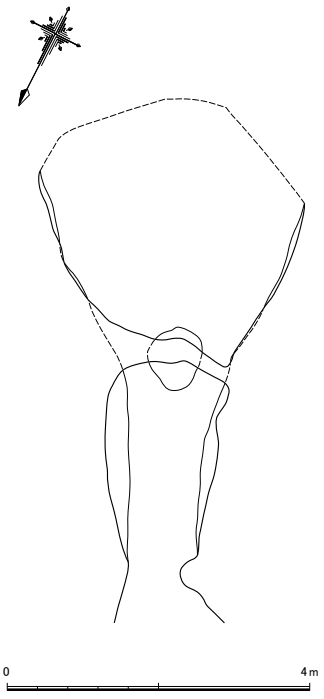
III. 刊行報告書抄録

第163集　K-G-93号窯跡

K-G-93号窯跡は、みよし市の北部、福谷町に位置し、境川とその支流である小石川に挟まれた標高88mの丘陵上に立地している。発掘調査は県道豊田知立線の建設にともなう事前調査として、750㎡を平成18年9月から12月にかけて実施した。また、本書作成にかかる整理作業は、1次整理を平成18年度に、2次整理を平成20年度に実施した。調査の結果、窯体（SY01）は焼成室の上半分を削平されていたが、焚口から分焔柱にかけての残存状況は良好で、窯内及び前庭部から、焼成後の選別作業で廃棄された山茶碗や小皿の破片が22,000点以上出土した。これらはすべて第6型式の尾張型山茶碗であり、その中で底部が1/2以上残存するものは、山茶碗734点、小皿422点を数え、小皿の割合が高いのが特徴である。他に頂部に摘みが付く蓋が4個体分出土した。

また、当初SY01の灰原を想定していた谷状地形からは、山茶碗・小皿・羽釜・鍋に混ざって近現代の磁器が出土し、SY01の灰原でないことが判明した。ここから出土した山茶碗と小皿の中には第5型式の特徴を残すものがあり、SY01の焼成回数は2回程度と考えられることから、付近にこれらを焼成した別の窯体が存在した可能性が高い。さらに、羽釜や鍋も赤褐色の焼台が出土していることから、付近で焼成されたと考えられるが、主に知多窯で焼成された羽釜・鍋が猿投窯で出土したことは、猿投窯と知多窯との技術交流を考える上で参考になる資料を一つ加えることとなった。

（宇佐見　守）



窯（SY01）実測図



出土遺物



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	けーじー９３ごうかまあと
書　　名	K-G-93号窯跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第163集
編著者名	宇佐見守　藤根久　小林克也　伊藤茂　丹生越子　廣田正史　瀬谷薫　小林紘一 Zaur Lomtatidze　Ineza Jorjoliani　竹原弘展
編集機関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2010年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
けーじー９３ごうかまあと K-G-93号窯跡	あいちけんみよしし 愛知県みよし市 うきがいちょう 福谷町	23521	640164	35度 07分 12秒	137度 06分 05秒	2006.09.26～ 2006.12.07	750㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
K-G-93号窯跡	古窯跡	鎌倉時代	窯体	山茶碗・ 陶製羽釜	陶製羽釜の出土

文書番号	発掘届出（18埋セ第25号・2006.7.4）　通知（18教生第906号・2006.7.26） 終了届・保管証・発見届（18埋セ第75号・2006.12.19）　鑑定結果通知（18教生第2303号・2007.1.25）

要約

窯体（ＳＹ０１）は焼成室の半分から上を削平されていたが、焚口から分焔柱にかけての残存状況は良好で、窯内や前庭部から焼成後の選別作業で廃棄された尾張型第6型式の山茶碗・小皿が多数出土した。当初灰原を想定していた谷状地形からは、山茶碗・小皿・羽釜・鍋などが出土したが、第５型式の特徴を残す山茶碗・小皿が含まれ、付近にこれらを焼成した窯体が別に存在した可能性が高い。

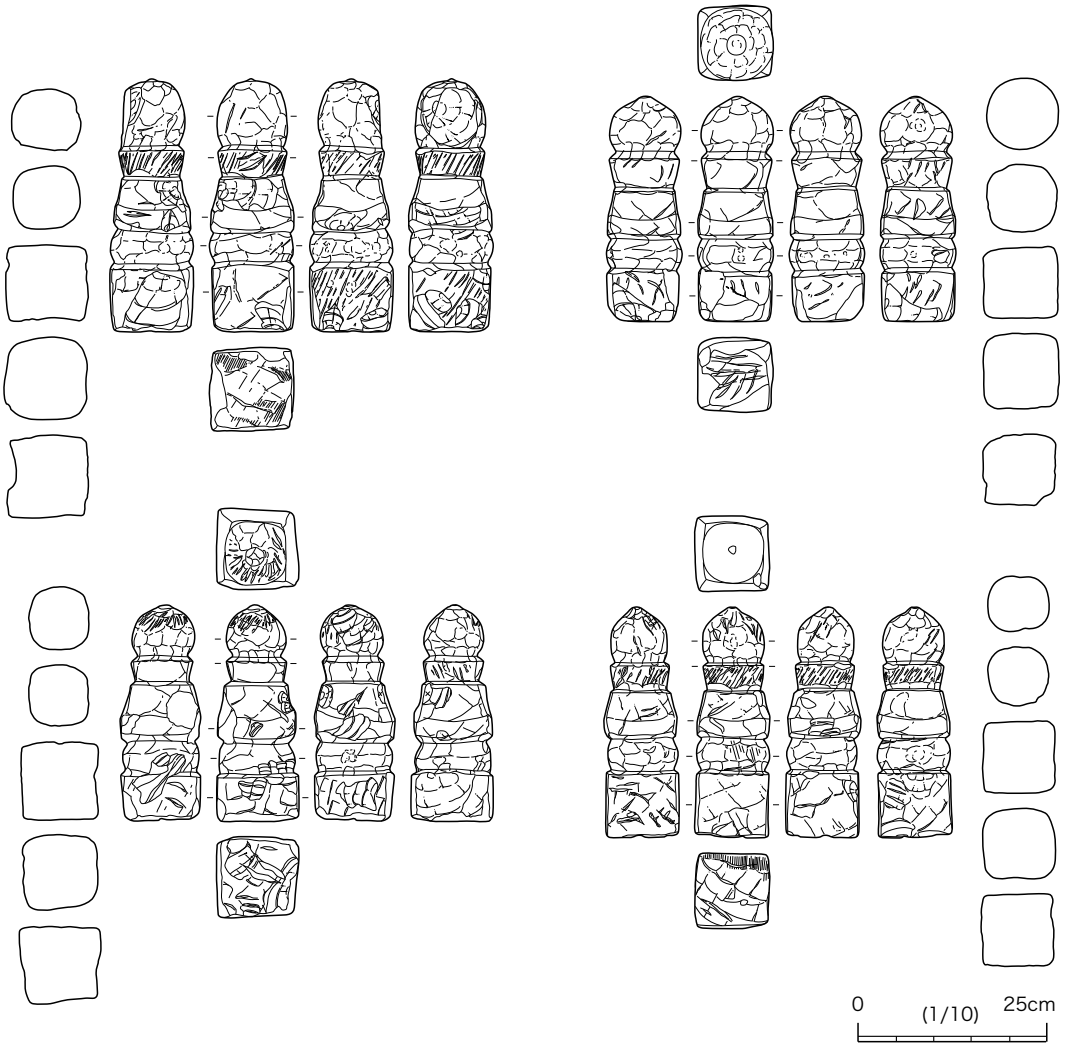
また、知多窯で主に焼成された羽釜が猿投窯で出土したことは、知多窯との技術交流を考える上で参考になるものを一つ加えることとなった。

第166集　羽根遺跡

羽根遺跡の調査は、県道大代音羽線改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じての委託事業として本センターが平成 20 年 4 月から平成 20 年 9 月にかけて実施したもので、調査面積は 4,100 ㎡である。全体を A・B・C・D・E の 5 調査区に分けて調査を行った。遺跡は、豊川市萩町羽根に所在し、山陰川に向かって傾斜をする丘陵北側斜面の裾部に北東から南西に約 200m の範囲で広がり、標高は 70 ～ 80m を測る。

調査の結果、戦国時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が確認された。遺構は屋敷地を区画する溝や井戸・柱穴等が検出されている。遺物では、瀬戸・美濃窯産陶器・土師器・常滑窯産陶器等の他に、15 世紀後半から 16 世紀の墓域に伴うと思われる一石五輪塔等の石塔類が多く出土しており、報告書作成にあたってはこうした石塔類をできる限り図化し掲載した。

（成瀬　友弘）



出土遺物実測図

報告書抄録

ふりがな	はねいせき
書　　名	羽根遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第166集
編著者名	成瀬友弘、川添和暁、鬼頭剛、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ
編集機関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2010年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
はねいせき 羽根遺跡	あいちけん　とよかわし 愛知県豊川市 はぎちょう 萩町	23207	820042	34度 52分 10秒	137度 19分 39秒	2009.04.23～ 2009.09.01	4,100㎡	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
羽根遺跡	集落	戦国時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡、溝、石組み、石垣、井戸、土坑等	土師器（皿・鍋）、瀬戸美濃窯産陶器、石塔・石器、銭貨、金属製品、木製品等	石塔類の集中廃棄

文書番号	発掘届出（19埋セ第117号・第118号・2008.3.12）　通知（19教生第2987号・2008.3.25） 終了届・保管証・発見届（20埋セ第65号・2008.9.1）
要約	本遺跡は、山陰川東岸の丘陵端部に立地している。調査では主に戦国時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が確認された。当該期には墓域や屋敷地などが展開していることが判明した。屋敷地は、斜面に地山の削平と盛り土等で整地して平場を築いており、それぞれを溝で区画している。溝は部分的に石組みや暗渠をもったものも確認されている。今調査で当該地域の近世の集落を考える上で貴重な資料を得ることができたと考えられる。

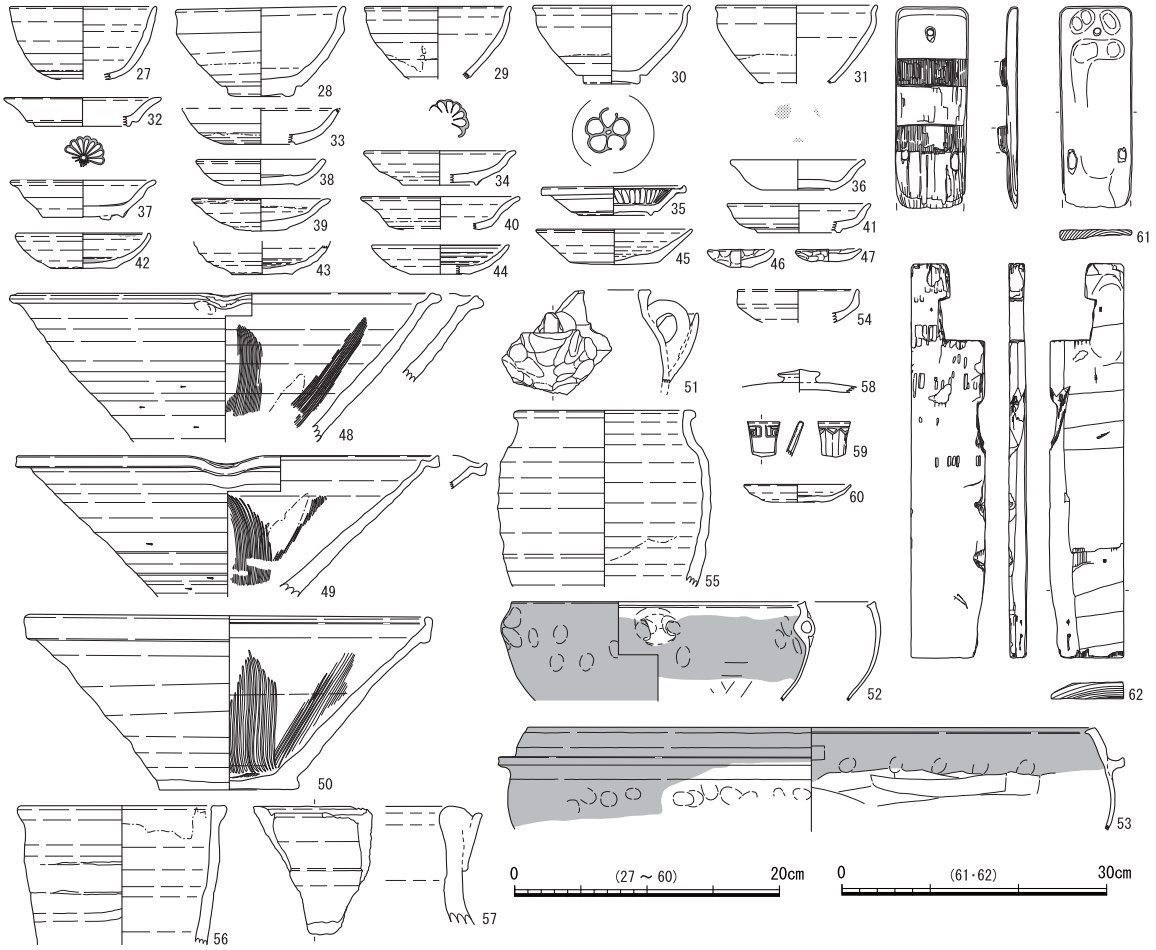
堀尾氏邸宅跡

堀尾氏邸宅跡は、丹羽郡大口町堀尾跡１丁目に位置する。発掘調査は、緊急地方道路整備事業小口岩倉線建設工事に伴い、平成21年６月から11月まで実施された。整理と報告書作成作業および報告書刊行は平成21年度に行った。

今回の調査区東方に堀尾氏の邸宅跡が比定されている。発掘調査の結果、戦国時代から明治時代までを中心とする遺構や遺物が確認された。戦国時代から江戸時代初期の遺構・遺物はちょうど堀尾吉晴・忠氏・忠晴が活躍した時期に符合する。一方、江戸時代後期から明治時代前半の遺構・遺物は現在まで宅地が存在する屋敷地の一角と推定される。

戦国時代は幅５mにおよぶ大溝とその北側に展開する小区画の溝や150基近くの柱穴によって構成されている。堀尾氏邸宅跡は戦国時代の城館跡の可能性が高くなった。江戸後期以降の遺構は『明治17年地籍図』に記載された地割りと一致する箇所が確認された。遺構から出土した資料の多くは、瓦と陶磁器類の特徴から明治時代前半におさまる資料であることがわかった。明治24年10月28日、この地域を襲った濃尾地震で破損して廃棄した資料群と想定される。そのほか、隣接する東屋敷古墳など古墳時代後期に関連する耳環や須恵器、縄文土器、弥生土器なども出土している。

（永井宏幸）



堀尾氏邸宅跡501SD出土遺物実測図

報告書抄録

ふりがな	ほりおしていたくあと
書　　名	堀尾氏邸宅跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	野口哲也　永井宏幸　鬼頭剛　片山博道
編集機関	愛知県教育委員会 財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター 国際文化財株式会社
所在地	〒460-8534 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1-2　TEL052(961)2111　愛知県教育委員会 〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161　財団法人愛知県教育スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 〒452-0901 愛知県清須市阿原神門95-1　TEL052(408)0245　国際文化財株式会社西日本支店
発行年月日	西暦 2010年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
ほりおしていたくあと 堀尾氏邸宅跡	あいちけんにわぐん 愛知県丹羽郡 おおぐちちょうほりおせき 大口町堀尾跡 ちょうめ　ばんち 1丁目88番地ほか	233617	233002	35度 19分 4秒	136度 53分 16秒	2009.07.10～ 2009.12.01	1,950㎡	県道小口 岩倉線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堀尾氏邸宅跡	集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 鎌倉時代 ～室町時代 戦国時代 ～江戸時代 江戸時代 ～明治時代	土坑・溝 掘立柱建物・ 土坑・溝・堀 礎石建物・土坑・ 区画溝	縄文土器 弥生土器・石鏃 須恵器・土師器・耳環 山茶椀・皿 陶器・土師質土器・ 土錘・木製品 陶磁器・土師質土器・ 瓦・石製品・鉄滓・ 鞴の羽口	戦国時代の城館 庄屋屋敷の区画溝 鍛冶関連遺構・遺物

文書番号	発掘届出(21埋セ第128号・2009.6.5)　通知(21教生第527号・2009.6.12) 終了届・保管証・発見届(21埋セ第89号・2009.12.3)　鑑定結果通知(21教生第2173号・2010.1.20)

要約

今回の調査は、戦国時代から江戸時代初期と江戸時代後期から明治時代前半期を中心とする遺構・遺物が確認された。前者については、戦国時代の城館を想起させる大溝と区画溝などを確認した。堀尾氏に関連する時期として注目される。後者については、屋敷地の区画溝から出土した瓦や陶磁器類の時期から、明治 24（1981）年に発生した濃尾地震後、廃棄された資料群と考えられる。

そのほか縄文土器や弥生土器を含め、隣接する後期古墳に関連する耳環なども出土した。

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成21年度　埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について

1　目的

埋蔵文化財に対する理解を深め、郷土に残された先人の歴史を考え、文化財保護意識の向上を図ることを目的に開催する。本展示会では愛知県内の発掘調査成果を基に、平易な歴史展示を実施する。

2　主催

愛知県教育委員会
清須市・清須市教育委員会
春日町・春日町教育委員会
(財)愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

3　埋蔵文化財展

1)会場：愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
愛知県清須市朝日貝塚1 (TEL 052-409-1467)
2)日時：平成21年9月19日(土)～10月25日(日)：午前9時30分～午後4時
休館日
9月24日(木)、9月28日(月)、9月29日(火)、10月5日(月)、10月6日(火)、10月13日(火)、10月19日(月)、10月20日(火)
3)タイトル：「円窓をのぞいてみれば」



ポスター

4　埋蔵文化財講演会

1)会場：清須市清洲市民センターホール
清須市清洲弁天96-1
2)日時：平成21年9月19日(土)
午後2時から午後4時
3)内容：「朝日遺跡を楽しみましょう！」
第1部　考古学落語　落語家：桂九雀
「埴輪盗人（服部哲也作）」
第2部　座談会
パネラー　桂九雀（落語家）、服部哲也）（名古屋市見晴台考古資料館）、赤塚次郎ほか（愛知県埋蔵文化財センター）

5　事業の内容について

◎埋蔵文化財展

1)「円窓をのぞいてみれば」
-朝日遺跡　弥生時代のなぞ発見！-
内容：円窓付土器をはじめとする朝日遺跡の特徴的な遺物の紹介。

2)平成20年度　新出土品展

平成20年度に清須市教育委員会および愛知県埋蔵文化財センターが平成20年度に行った発掘調査成果の展示解説。

遺物展示遺跡：清洲城下町遺跡、松崎遺跡、惣作遺跡、石岸遺跡、石座神社遺跡

◎埋蔵文化財講演会

「朝日遺跡を楽しみましょう！」と題し、第1部で落語、第2部にて考古学解説を実施。第1部では、桂九雀(落語家)による「埴輪盗人」(服部哲也作)の新作落語が発表された。第2部では落語の内容に触れながら、朝日遺跡の独自性をアピールする座談会を開催した。参加者は130名。

◎埋蔵文化財講座

・講座1

日時：日時　9月26日（土）

午前 10 時～午前 11 時 30 分

場所：春日町中央公民館視聴覚室

西春日井郡春日町大字落合字東出8番地2

内容：「近隣の遺跡調査最前線」

清須市　清洲城下町遺跡：柴垣哲彦（清須市教育委員会）、稲沢市　長野北浦・塔の越遺跡：鵜飼雅弘（愛知県埋蔵文化財センター）、北名古屋市　高塚古墳：伊藤明良（北名古屋市教育委員会）

参加者：40 名

・講座２

日時：10 月 24 日（土）

午前 10 時～午前 11 時 30 分

場所：清須市清洲市民センター視聴覚室

清須市清洲弁天 96- 1

内容：「弥生最前線」

清須市　朝日遺跡：永井宏幸（愛知県埋蔵文化財センター）、名古屋市　平手町遺跡：中村　敦（株式会社アコード）、豊田市　栃原遺跡・高橋遺跡：高橋健太郎（豊田市教育委員会）

参加者：56 名



案内チラシ　裏

◎埋文ワークショップ

日時：ア、イは展示期間中常時開催。ウは土日祝日開催。

場所：清須市貝殻山貝塚資料館

ア：ペーパークラフト（常時開催）

ペーパクラフトの作成。パレス壺３種。円窓付土器５種。

イ：考えよう円窓付土器の使い方！（常時開催）

円窓付土器の使い方を考案し、投稿する。

ウ：体験バザール（土日祝日開催）

体験メニュー：拓本実習、黥面体験、鳥形紙ヒコーキ、穿孔体験

	黥面	とり型	拓本	穿孔	合計
9.19　土	2	4	7	-	13
9.20　日	-	5	4	-	9
9.21　月	-	-	-	1	1
9.22　火	5	-	1	5	11
9.23　水	4	-	3	2	9
9.26　土	-	6	-	-	6
9.27　日	2	-	5	2	9
10.03　土	-	1	3	2	6
10.04　日	-	-	-	-	-
10.10　土	-	-	3	2	5
10.11　日	2	-	1	2	5
10.12　月	1	1	2	-	4
10.17　土	-	-	-	-	-
10.18　日	-	-	2	1	3
10.24　土	-	2	4	1	7
10.25　日	3	-	10	2	15
	19	19	45	20	103

体験プログラム参加者数

内　容	数
水、食料の貯蔵	6
飼育箱	5
コンロ	5
ろうそく入れ（明かり取り）	4
虫取り道具（魚、獣を含む）	4
かぶり物	2
蚊遣り	2
花瓶	2
漫瓶	2
貯金箱	1
洗うための道具	1
ドールハウス	1
道具箱	1
樹液を集める壷	1
醗酵壺	1
結界	1
スイヒの道具	1
漬け物壺	1
収納ラック	1
水鏡	1
	43





円窓付土器の使用方法の投稿例と結果



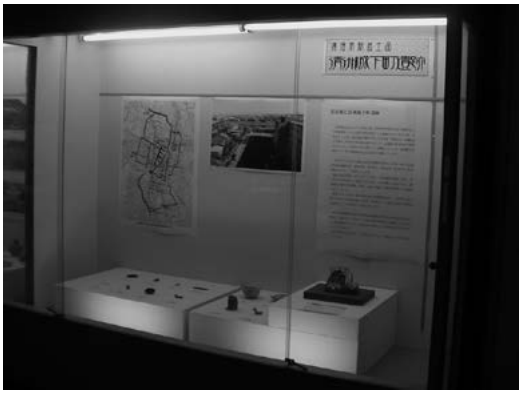
展示会場



展示会場



展示会場



展示会場　新出土品展



展示会場　屋外　窓付き看板



展示会場　円窓付土器の使用方法投稿



講演会



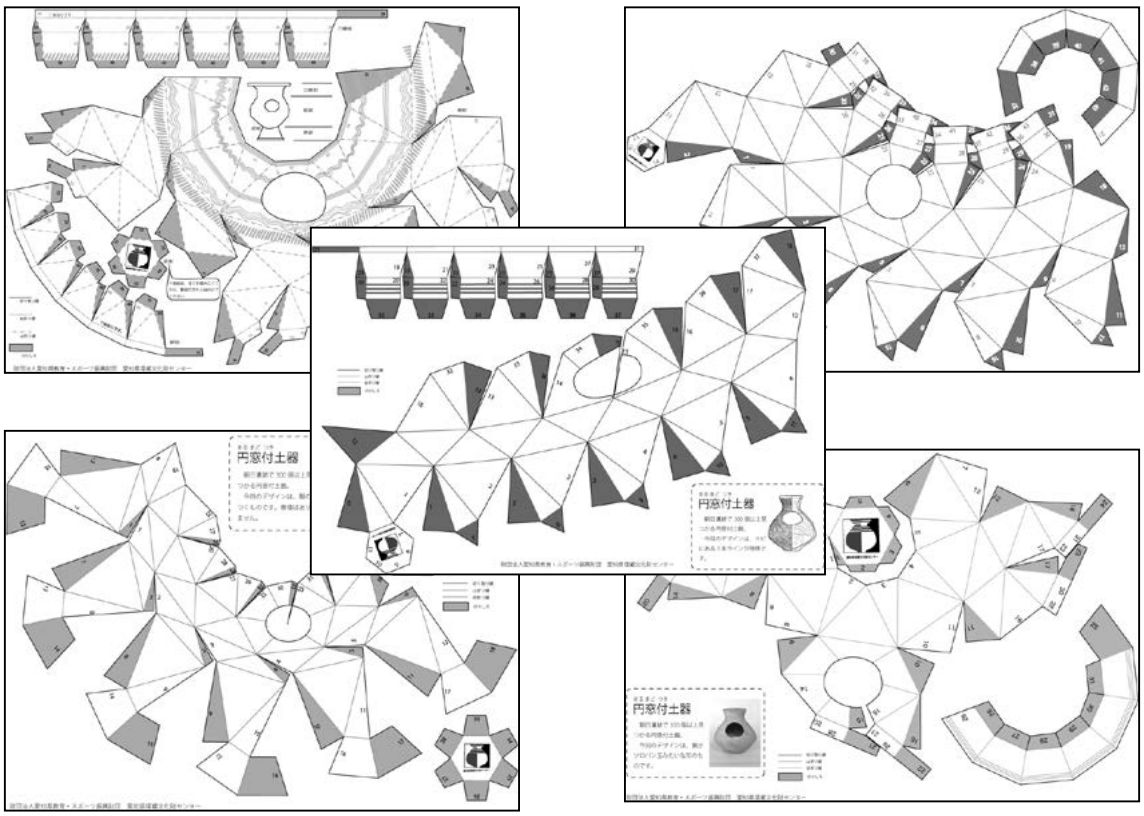
講演会



講座１



講座２



円窓付土器のペーパークラフト5種類

Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録

平成21年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

1. 目的

発掘調査においてどのような安全対策が必要か、愛知県埋蔵文化財センターと民間調査組織等の実施例に即して研修する。

2. タイトル　「発掘調査における安全対策と課題」

3. 主催　　愛知県教育委員会・(財) 愛知県教育・スポーツ振興財団
　主管　　愛知県埋蔵文化財センター

4. 日時　　平成２１年１２月１０日（木）

5. 会場　　愛知県埋蔵文化財センター瀬戸市桑下城跡詰所及び調査現場（瀬戸市上品野町）

6. 内容

(1)「発掘調査現場と安全対策」
　講師　愛知県埋蔵文化財調査センター
　　所長　都築暢也

(2)「愛知県埋蔵文化財センターが実施している安全パトロール等について」
　講師　愛知県埋蔵文化財センター
　　主任専門員　小澤一弘

(3)「国際文化財株式会社における発掘調査現場における安全対策」
　講師（株）国際文化財　野々村光雄

(4)「瀬戸市桑下城跡発掘調査現場での実地研修」
　講師　愛知県埋蔵文化財センター
　　調査研究主事　宇佐見　守

(5)「新しい空撮技術（マイクロドローンズ他）の紹介」
　講師　（株）国際文化財 内田恭司



研修会場



研修会場

発掘調査現場には、一般の土木建設工事現場と類似する危険だけでなく、発掘調査現場固有の危険も存在している。そのため、愛知県埋蔵文化財センターでは独自の安全マニュアルを作成し、また安全パトロールを実施するなどして発掘調査現場における危険回避に努めてきた。

近年では当センターをはじめ、愛知県下の市町村でも民間調査組織の支援を得た発掘調査が増えており、安全対策について再確認する必要があるという認識から、今回の研修会を企画した。開催場所としては、当センターが発掘調査を進めている瀬戸市桑下城跡が最適と判断し、講義・実地研修をあわせて行うこととした。軍事施設である城は、本来、外部からの接近を拒むものであり、そのために設けられた各種施設こそ、発掘調査の上で、まさに危険箇所となる。発掘調査と安全対策が真正面から対立する場所である城跡で本研修を行った意義もそこにある。

講義等の概要は以下のとおりである。

(1)愛知県下のこれまでの発掘調査状況の概観と、安全対策についての考え方の推移。発掘調査はそもそも学術調査として始まっており、当初安全への対応は常識的な範囲にとどまり、明確な対応策は無かったこと、その後、公共事業に伴う緊急発掘調査が増える中で、土木建設工事現場と競合する機会が増えて土木建設業界における安全対策の考え方が埋蔵文化財発掘調査現場にも徐々に浸透していったことが挙げられる。愛知県埋蔵文化財センター版安全マニュアルもその延長にある。そして、民間調査組織の調査技術レベルに大差が無いのであれば、安全への取り組みの違いに目を向ける必要がある。

(2)愛知県埋蔵文化財センターの安全パトロールについて。安全マニュアルだけでは安全意識を高め、安全を確保することはできないので、職員が自ら各現場の安全状況を確認し、また支援業者にも同様のチェックを行ってもらうなかで、安全対策をより確かなものにする必要がある。とはいえ、桑下城跡のような遺跡では安全対策を完全なものにしようとすれば調査に支障が生ずることもある。調査目的と安全対策をどのように折り合いをつけるのか、しばしば苦慮する場面に出会うことも確かである。

(3)民間調査組織の安全対策。企業として仕事をしている以上、安全の確保は一番の重要課題である。ただ、そのためには費用もかかるわけで、調査費の設計段階から安全対策費を組み込む必要がある。そして、安全確保を最優先にすれば調査内容の変更も必要となることが当然予想され、その場合、調査目的との折り合いの付け方が問題になる。これらの点について、発注者の配慮が求められる。

(4)桑下城跡の発掘調査現場で、調査成果の概要説明を受けながら、安全チェックシートにより各自チェックを行う。

(5)「マイクロドローンズ」のデモンストレーション。電動モータで駆動するので無音であり、座標値を入力すれば空中での静止が可能で、多少の風でも位置が自動復元できる。危険な箇所の撮影に対応するだけでなく、住宅街や学校近辺での撮影にも適しており、今後の活用が期待される。

以上のような内容について、質疑応答も活発に行われ、研修を有意義に終えることができた。



「マイクロドローンズ」のデモンストレーション

VI. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出・提供

貸出先	目的	遺跡名	利用許可資料		期　間
愛知県総務部	「愛知県史　別編　自然」に掲載のため。	志賀公園遺跡	イシガメ出土状態写真		
		小田妻古窯	窯体検出状況	デジタルデータ２点	平成 21 年 5 月 7 日
茨城県立歴史館	特別展「かがやきにこめた権威と荘厳	清洲城下町遺跡	金箔三巴文軒丸瓦		
	＿金と銀の考古学＿」に利用のため。		金箔三巴文軒丸瓦		
			金箔木瓜文飾瓦		
			金箔軒平瓦	デジタルデータ４点	平成 21 年 6 月 22 日
朝日弥生の会	冊子「カネツクリのアサヒくん」（平成 21 年 8 月	朝日遺跡 VII	DVD 添付資料「カネツクリのアサヒくん」		
	1 日刊行予定）に利用のため。		巻頭カラー I　清洲 JC 付近航空写真		
			巻頭カラー VI,VII　竪穴住居内の絵		
			巻頭カラー XIII　工房の図		
			アサヒくん		
			99Aa 作業風景		
			99Ab 作業風景	デジタルデータ９点	平成 21 年 7 月 10 日
長野県立歴史館	秋季企画展図録に利用のため。	朝日遺跡 VIII	骨角器写真（196p. 掲載）1222-0002		
			遺物集合写真（194p. 掲載）1222-0007		
			後期・遺物集合写真（197p. 掲載）1222-0010		
			中期・遺物集合写真（199p. 掲載）1222-0011		
			調査風景（157p. 上掲載）P_04Ab-SD01		
			調査風景 (172p. 上掲載）P_06Bd-01		
			朝日遺跡遠景 (156p. 掲載）P_asahi-02		
			石剣（190p. 掲載) P_mono-ken02		
			舌状石製品（190p. 掲載）P_mono-omori		
			加飾盤状高杯 (185p. 掲載) P_mono-tatuki03		
			円窓付土器 (189p. 掲載) P_mono003		
			筒型土器（187p. 掲載）P_mono-sika2		
		朝日遺跡 III	銅鐸写真　032-017.jpg・032-018	デジタルデータ 14 点	平成 21 年 7 月 27 日
株式会社ブックマン社	「古代史　謎めぐりの旅」（関裕二著）に利用のため。	朝日遺跡 VI	95 区第第４面全景（東から）083-068	デジタルデータ１点	平成 21 年 7 月 29 日
下関考古博物館	企画展「木の文化 II －古墳時代の木器－」に利用の	朝日遺跡	木製蓋 VIII-W19		
	ため。		合子形土器		
			鳥形土器		
		本川遺跡	鳥形木製品	デジタルデータ４点	平成 21 年 7 月 31 日
伊勢中世史研究会	伊勢中世史研究会変種『中世史・考古学情報』第８	桑下城跡	192SX 遺構写真 (20 年度年報 12P 掲載)		
	号に利用のため。			デジタルデータ１点	平成 21 年 8 月 7 日
長野県立歴史館	秋季企画展図録に利用のため。	八王子遺跡	銅鐸関連 デジタル画像		
			(092-011,092-012,092-014,092-016)		
			A 期土器　E-0007(092-113)		
			A 期土器　E-0008(092-114)		
		朝日遺跡	鳥形土器（034-078)		
			銅鐸出土状況（030-010）	デジタルデータ８点	平成 21 年 8 月 7 日
鈴鹿市長	特別展『美への誘い～いにしえのアクセサリー～』	朝日遺跡	装身具 (034-013.jpg)		
	に利用のため。		玉＿首飾り (034-015.jpg)		
			ビーズ (034-016.jpg)	デジタルデータ３点	平成 21 年 8 月 14 日
財団法人	企画展『せともの 100 年史』に利用のため。	勝川遺跡	遺構写真		
瀬戸市文化振興財団		名古屋城三の丸遺跡	遺構写真	デジタルデータ 12 点	平成 21 年 8 月 25 日
朝霞市博物館	企画展『邪馬台国時代の朝霞～土器が語る交流の	西上免遺跡	調査区写真 (073-011)		
	時代～』に利用のため。			デジタルデータ１点	平成 21 年 8 月 31 日
安城市歴史博物館	企画展『徳川家康の源流　安城松平一族』	木戸城遺跡	調査区全景 (111a-002.jpg)		
	に利用のため。		SQ01(111a-004.jpg)		
		東端城跡	西土塁 (113a-032.jpg)		
			遺跡遠景 (113a-008.jpg)		
		桑下城跡	遺跡遠景 (kuwa_1.jpg)		
			菊花双鶴鏡 (kuwa_2.jpg)	デジタルデータ６点	平成 21 年 9 月 17 日
株式会社碧水社	デアゴスティーニ社刊『習慣安土城をつくる』48	清洲城下町遺跡	調査区写真 (070-135.jpg)		
	号に利用のため。			デジタルデータ１点	平成 21 年 9 月 28 日
ふじみ野市立上福岡	特別展『権現山古墳群とその周辺』に利用のため。	西上免遺跡	出土遺物写真		
歴史民俗資料館			(073-076,073-078,073-086,073-091,		
			073-098,073-101,073-102,073-107,		
			073-117)	デジタルデータ９点	平成 21 年 9 月 29 日
春日井市教育委員会	文化財特別展『春日井の古代史事始 II』－周溝墓か	勝川遺跡	遺構写真（000-029,000-066,000-068,		
	ら古墳へ・高御堂古墳とその時代－に利用のため。		000-072,019-011,019-019,029-016,		
			029-019,029-043)		
		町田遺跡	遺構写真（009-016)		
		朝日遺跡	遺構・遺物写真		
			(030-094,032-010,083-254)		
		西上免遺跡	遺構・遺物写真		
			(073-009,073-026,073-047,073-048)		
		猫島遺跡	遺構・遺物写真（107-034,107-035,		
			107-139,107-140,107-179)	デジタルデータ 22 点	平成 21 年 10 月 15 日

貸出先	目的	遺跡名	利用許可資料	期　間
豊田市郷土資料館	特別展『塩の歴史と民俗』に利用のため。	松崎遺跡	製塩土器出土状況写真	デジタルデータ 1 点　平成 21 年 10 月 15 日
小坂井町教育委員会	『小坂井町史 通史編』編さんのため。	朝日遺跡	遺構写真（030-099）	
		麻生田大橋遺跡	遺構写真（021-030）	
		西上免遺跡	遺構写真（KU-0992,KU-0993）	デジタルデータ 4 点　平成 21 年 11 月 4 日
有限会社風媒社	単行本『幻の王国・狗奴国を旅する - 卑弥呼に抗った謎の王国へ』に掲載のため。	朝日遺跡	調査風景、出土土器、巴型銅器	
		西上免遺跡	調査区	
			S 字状口縁台付甕	
		八王子遺跡（一宮市）	井泉	
			S 字甕	
			多孔銅鏃	デジタルデータ 8 点　平成 21 年 11 月 12 日
愛知県総務部	『愛知県史　資料編 4　考古 4　飛鳥～平安』に掲載のため。	中之郷北遺跡	遺構写真（図 2　I 区の遺構）	
		上品野蟹川遺跡	遺構写真（図 2　SB01）	
		凪山屋敷遺跡	遺構写真（図 2　SB02）	
		志賀公園遺跡	遺構写真（図 2　NR07）	
			遺構写真（図 3　NR07 古代上層遺物出土状況）	
			遺物写真（図 4　NR07 古代上層出土遺物）	
			遺物写真（図 5　NR07 古代下層出土遺物）	
		名城三の丸遺跡	遺物写真（図 2　せん仏）	
		金萩遺跡	遺構写真（図 3　土器集積遺構出土状況 1）	
			遺構写真（図 3　土器集積遺構出土状況 2）	
			遺構写真（図 5　SK133 ロクロピット東から）	
		薬師ケ根遺跡	遺構全景（図 2）	
		下懸遺跡	遺構全景（図 2　谷地系遺物出土状況）	
		加美遺跡	遺構写真（図 2　調査区）	デジタルデータ 14 点　平成 21 年 12 月 8 日
愛知県総務部	『愛知県史　資料編 4　考古 4　飛鳥～平安』に掲載のため。	志賀公園遺跡	遺物写真（090-114,090-116）	
		水入遺跡	遺物写真（三河型鍋）	デジタルデータ 3 点　平成 22 年 1 月 4 日
東海市教育委員会	東海市広報「とうかい」に掲載のため。	松崎遺跡	21 年度発掘調査風景	デジタルデータ 1 点　平成 22 年 1 月 4 日
長野県立歴史館	館たより 62 号に掲載のため。	朝日遺跡	円窓付土器	デジタルデータ 1 点　平成 22 年 1 月 12 日
日進市教育委員会	企画展「にっしんの窯跡～飛鳥・奈良・平安時代の猿投窯」に利用のため。	金萩遺跡	遺構写真	デジタルデータ 3 点　平成 22 年 1 月 15 日
愛知県総務部	「愛知県史　別編　自然」に利用のため。	清洲城下町遺跡	傷のある人骨	
		志賀公園遺跡	井戸より出土したカメの頭骨など	
			カメの卵の出土状況 遺物写真	
			ニホンイシガメ　透過 X 線写真	デジタルデータ 4 点　平成 22 年 1 月 19 日

<<平成21年4月1日～平成22年2月6日>>

ホームページ

今年度は、11 月 24 日の「石座神社遺跡　調査速報　その２」において、調査成果を解説する動画の公開を行った。ファイル形式は MPEG-4 とし、容量は 5.2Mb であった。この動画の公開日以降、アクセス数が３割程度増加した。

Web 更新データ

●エントリー数 (平成 22.1.13 現在)

調査速報	13 件
説明会	6 件
展示・講演会など	6 件

●公開ファイル (総数)

報告書 PDF	103 件
説明会資料	28 件
年報 PDF	166 件
研究紀要 PDF	69 件
その他チラシ類	5 件
まいぶん愛知 PDF	32 件
遺跡位置登録	202 件
遺跡アルバム	19,048 点

CDコピーサービス (H21.4.1～H22.2.6)

1	018 大渕	015 三の丸 1	012 月縄手		
2	019 勝川 3	029 勝川 4	003 勝川	004 大渕	009 町田
3	000 勝川	003 勝川	019 勝川 3	029 勝川 4	045 山中 2
4	010 廻間	012 月縄手／貴生町	040 山中	048 松河戸	
5	028 朝日西	030 朝日 1	031 朝日 2	032 朝日 3	
6	033 朝日 4	034 朝日 5	083 朝日 6		
7	015 三の丸 1	016 三の丸 2	037 三の丸 3	044 三の丸 4	060 三の丸 5
8	021 麻生田	039 上万場	062 川地	087 三ツ井	
9	009 町田	042 東光寺	048 松河戸	077 東苅安賀道	
10	092 八王子				
11	073 西上免	107 猫島			
12	033 朝日 4	083 朝日 6	138 朝日 7		
13	030 朝日 1	031 朝日 2	032 朝日 3	034 朝日 5	
14	154 朝日 8				
15	049 室	047 三斗目・三本松			
16	010 廻間	073 西上免			
17	010 廻間	033 朝日 4	034 朝日 5	040 山中	073 西上免
18	010 廻間	073 西上免			
19	154 朝日 8				
20	000 勝川	010 廻間	048 松河戸	073 西上免	079 一色青海
21	066 大毛沖	072 大毛池田	073 西上免	080 門間沼	087 三ツ井
22	104 寄元	134 惣作鐘場	138 朝日 7	150 惣作鐘場 2	161 三の丸 8
23	121 志賀公園	154 朝日 8			
24	111 木戸城	122 城山城	127 三の丸 7	131 清洲 9	161 三の丸 8
25	010 廻間	040 山中	045 山中 2	048 松河戸	

現地説明会・地元説明会

地元説明会

遺跡名	開催日	所在地	参加者
モリ下遺跡	平成 21 年 10 月 17 日（土）	新城市須長	38 名
石座神社遺跡	平成 21 年 10 月 17 日（土）	新城市大宮	20 名
西牧野遺跡	平成 21 年 10 月 24 日（土）	岡崎市樫山町	165 名
桑下城跡	平成 21 年 11 月 21 日（土）	瀬戸市上品野町	81 名
多り畑遺跡	平成 21 年 12 月 26 日（土）	豊橋市石巻町	160 名
一色青海遺跡	平成 22 年 1 月 30 日（土）	稲沢市一色青海町	154 名
日置本郷 B 遺跡	平成 22 年 1 月 30 日（土）	愛西市日置町	90 名
車塚遺跡	平成 21 年 2 月 6 日（土）	岡崎市岩津町	130 名
下懸遺跡	平成 21 年 2 月 27 日（土）	安城市小川町	50 名

センターでは、発掘調査遺跡周辺の住民の方々を対象にした地元説明会を実施している。また今年度は、こうした説明会以外にも、新城市黄柳野小学校５・６年生（7 名）を始めとする自主的な遺跡見学にも対応した。



桑下城跡地元説明会（瀬戸市上品野町）▶

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所属
西牧野遺跡	平成 21 年 10 月 16 日（金）	白石浩之	愛知学院大学
一色青海遺跡	平成 21 年 10 月 23 日（金）	渡辺　誠	名古屋大学名誉教授
桑下城跡	平成 21 年 12 月 14 日（月）	千田嘉博	奈良大学
多り畑遺跡	平成 21 年 12 月 16 日（水）	鈴木昭彦	豊田市史編さん室
桑下城跡	平成 22 年 1 月 8 日（金）	丸山　宏	名城大学
下懸遺跡	平成 22 年 1 月 26 日（火）	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授

報告書作成のための指導

堀尾氏邸宅跡	平成 21 年 12 月 11 日（金）	藤澤良祐	愛知学院大学
桑下東窯跡	平成 21 年 12 月 25 日（金）	藤澤良祐	愛知学院大学

その他普及事業

家族の絆づくり事業『家族で歴史を体感』

日時：平成 21 年 10 月 17 日（土）午前 9:30 ～午後 4:30
会場：稲沢市一色青海遺跡、清須市貝殻山貝塚資料館、愛知県埋蔵文化財センター
内容：遺跡に触れる体験型イベント。

稲沢市一色青海遺跡で発掘調査を体験後、貝殻山貝塚資料館にて埋蔵文化財展を見学。

展示では、朝日遺跡出土の弥生時代の丸窓付土器や巴型銅器など、不思議な遺物に触れる。発掘作業体験では、弥生土器の取り上げ作業などを行う。また、愛知県埋蔵文化材センターへ移動して行った体験コーナーでは、弥生人の黥面のように顔に絵の具で模様を施し、弥生風の衣装をまとって記念撮影。石器で石に孔をあけ首飾りに。土器の模様を拓本したカードや鳥形木製品をイメージした紙飛行機、クイズの賞品のバッジなどのプレゼントもあった。

（日程）
10:20 ～ 11:20　一色青海遺跡にて、発掘調査体験
11:20 ～ 12:10　移動・車中アトラクション
12:10 ～ 13:20　貝殻山貝塚資料館にて、埋蔵文化財展の見学、昼食
13:20 ～ 14:20　移動・車中アトラクション
14:20 ～ 16:00　埋蔵文化財センターにて、鯨面ペインティング（弥生の服を着て記念撮影）、拓本、穿孔、鳥形紙ヒコーキ、朝日遺跡マップ、ペーパークラフト
16:00 ～ 16:30　クイズ＆プレゼント、アンケート

参加人数：16 家族、44 名

参加者アンケート

●子供
・掘れば掘るほど楽しくなりました。またやってみたくなりました。
・発掘は大きなかけらがとれて楽しかったです。
・丸い穴があいている土器がとっても不思議。
・朝日遺跡の不思議な丸窓を何に使うか考えて、七輪みたいなものかと思いました。
・いろいろな発見や疑問に思ったこともいろいろわかって楽しかった。

●保護者
・すべてのことが初めて行うことばかり。子どもより親の方が真剣。
・子どもにもわかりやすい内容で、たいへん楽しかったです。スタッフの方も親切でした。
・発掘作業の体験は他のところではなかなか参加することができません。考古学に触れることができ有意義な 1 日となりました。





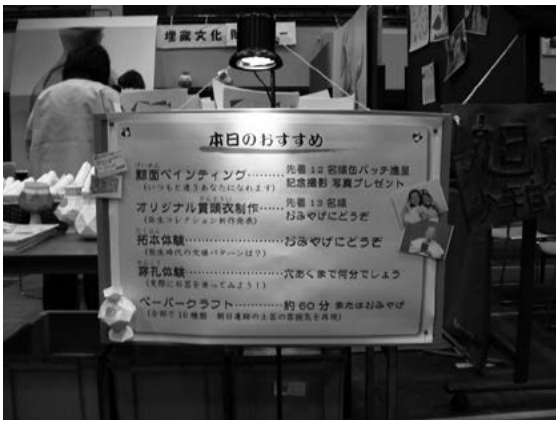
▲発掘調査体験（一色青海遺跡にて）

県民交流事業　スポーツフェスタ 2010『弥生時代を体感しよう！』

日時：平成22年１月９日（土）　11：15～15：30
会場：愛知県体育館　第１競技場
内容：
（１）展示
・朝日遺跡出土遺物
（円窓付土器、パレス・スタイル土器など４点）
・銅鐸レプリカ
・朝日遺跡の解説パネル
・布パネル（円窓付土器、銅鐸、筒鹿）
・ペーパークラフト完成見本
（２）体験プログラム
・貫頭衣、拓本、黥面ペイント、穿孔体験
・ペーパークラフト作成
（パレス壷、脚付パレス壷、ワイングラス、
筒形土器、高杯、円窓）
＊参加者に缶バッジのプレゼント
参加人数：175名

写真スタジオでは、黥面ペイントなどの体験プログラムを親子で完成させた喜びの表情を写真に収め、その場でプレゼント。





▲スポーツフェスタ 2010 会場（愛知県体育館）

愛知県埋蔵文化財センター・中日文化センター共同企画
新しい愛知の中世・近世文化に触れる，考古学講座 no.3
「戦国から江戸の尾張」

講師　：愛知県埋蔵文化財センター調査課　研究員
開講日：毎月第三水曜日（7月から）　午前10時から12時
受講者：28名
内容　：遺跡の発掘調査の説明と解説。最新の研究情報の紹介。
第１回（7/15）「室町時代の瀬戸窯」 小澤一弘
第２回（8/19）「江戸時代の茶陶生産（瀬戸・瓶子窯の茶入）」 武部真木
第３回（9/16）「中世の下津宿を考える」 蔭山誠一
第４回（10/21）「信長の町づくりの源流」鈴木正貴
第５回（11/18）「なごや城の残影」 松田　訓

平成21年度　愛知県埋蔵文化財センター　組織一覧

運営協議会委員（五十音順）

足立　守	名古屋大学教授
上村喜久子	名古屋短期大学名誉教授
大澤義洋	愛知県都市教育長協議会会長 瀬戸市教育委員会教育長
加藤安信	大同大学大同高等学校校長
柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
藤澤良祐	愛知学院大学教授
松井　章	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター長
村山　勝	愛知県教育委員会生涯学習監

専門委員

考古学	楢崎彰一	名古屋大学名誉教授
考古学	伊藤秋男	南山大学名誉教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授
地理学	海津正倫	名古屋大学教授
建築史学	窪寺　茂	財団法人文化財建造物保存技術協会 事業部次長
考古学 **動物学** **植物学**	渡辺　誠	名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷　昭	長野県看護大学教授
保存科学	肥塚隆保	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所副所長
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

所　長

平松栄一

管理課

課長補佐	伊藤義幸
主　査	大野典子
主　査	松澤　実
主　任	山本謙一郎
主　事	垂澤由美子

調査課

課　長	赤塚次郎	
統括専門員	石黒立人	
主任専門員	小澤一弘	
調査研究専門員	松田　訓	宮腰健司
	酒井俊彦	池本正明
	鈴木正貴	樋上　昇
調査研究主事	宇佐見守	石原真吾
	鵜飼雅弘	伊奈和彦
	成瀬友弘	亀甲真史
	榊原清人	小川　淳
	白井克尚	本田英貴
調査研究主任	堀木真美子	永井宏幸
	鬼頭　剛	武部真木
	蔭山誠一	川添和暁
	永井邦仁	早野浩二

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書

朝日遺跡

2010

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

朝日遺跡発掘調査報告

調査の経過　朝日遺跡は、清須市と名古屋市西区が接する都市部北西に位置する。調査は清洲ＪＣＴ内水路切廻しに伴う事前調査として、国土交通省愛知国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査面積は130㎡である。調査区は平成11年度から採用している４分割（南北方向は国道22号、東西方向は国道302号を基準とする）に準拠し、09Ａ区とした。

調査区の現況は水路であった。まず水路を撤去し、その後調査を進めることになった。ところが、水路を撤去する作業が進行するにつれ、現況の水路に伴う基盤整備のため、遺跡の大部分が削平されていることが判明した。

調査の成果　発掘調査は、11月２日～12日まで行い、引き続き水路の設置工事が進められた。したがって、調査は水路撤去工事の立ち会いを含めて２週間程度であった。

調査の成果は、隣接する既調査区の成果より、あらかじめ予想されていた。99Ae区が北接した調査区として最も近く、ここからほぼ東西方向に延びる溝SD03が確認されている（蔭山ほか2007）。また、今回の調査区に東接する愛知県教育委員会による第２次調査（加藤ほか1982）第77区がある。第77区は溝が東西方向に数条が確認されている。これらのうち、今回の09Ａ区につながる溝は位置関係からSD375を予想した。このように周辺の既調査区の成果から、北区画（北居住域）の中期第２環濠（中期外環濠）が09A区を東西に縦断すると想定した。

調査の結果、さきに示した通り既設の水路が、遺跡の基盤層である朝日Ｂ層（赤塚ほか2009）を削平していたので、湧水がおびただしく遺構の確認は期待できなかった。ところが、調査区を囲むシートパイル付近を精査すると、北側に遺物を含む黒色土が確認された。確認した範囲は幅50㎝前後長さ15m前後であった。調査の所見から、北側への落ち込みが認められたので、溝001SDである可能性を指摘しておく。出土遺物は、弥生時代中期の土器、朝日式から貝田町式と高蔵式を中心に、一部後期の土器を含む。土器以外にイノシシの下顎骨を含む動物骨が出土した。石器は数点の剥片のみであった。

総　　括　09Ａ区は調査区を東西方向に縦走する001SDが１条確認された。隣接する既調査区の成果から北区画中期第２環濠であることはほぼまちがいない。001SDはさらに西方へ続くと考えられ、61A区SX01につながる可能性が高い。SX01は逆茂木を含む溝で、総延長60m以上になる逆茂木列SX02と並行する溝となる。残念ながら、今回の001SDから逆茂木を確定できる木質の出土はなかった。ただし、001SDの存在によって東西にのびる溝をほぼ確定できたといえよう。

（永井宏幸）

（参考文献）
赤塚次郎ほか　2009 『朝日遺跡Ⅷ』
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
第 154 集



朝日遺跡の位置（１/2.5万「清洲」）



朝日遺跡09A 調査区全体図（1:200）



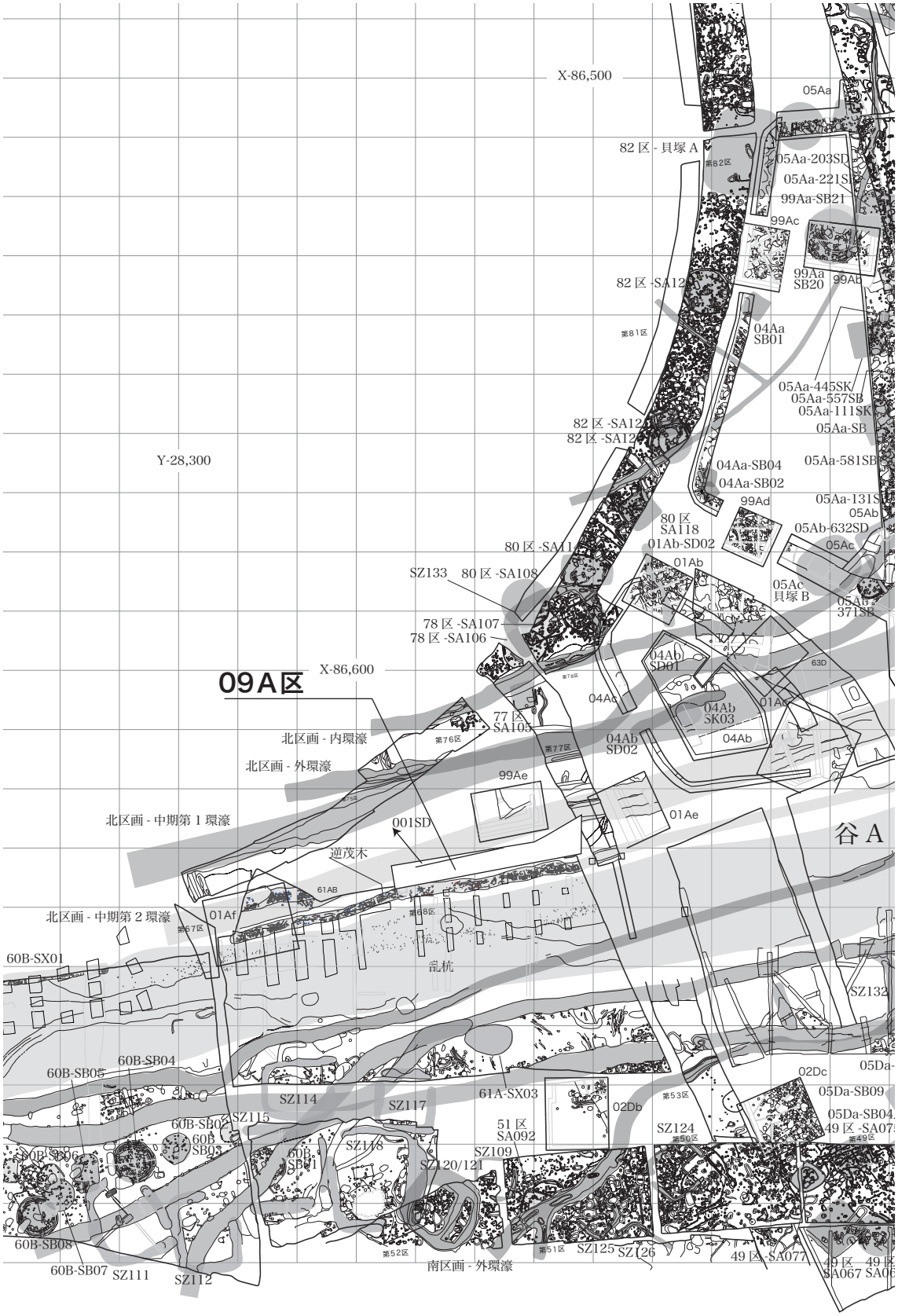
調査区全景（東から）



09A001SD完掘状況（南東から）



発掘作業の状況



朝日遺跡1AS09A調査区位置図 (1:1000)

抄　録

ふりがな	あさひいせき
書　　名	朝日遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	永井宏幸
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802番24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2010年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あさひいせき 朝日遺跡	あいちけんきよすし 愛知県清須市 あさひ 朝日	23233	210001	35度 13分 16秒	136度 51分 16秒	2009.11.	130	清洲ＪＴＣ内 水路切廻し

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝日遺跡	集落跡	弥生時代	溝	土器・動物骨	北区画を囲む中期第２環濠の一部を確認。

文書番号	発掘届出(21埋セ第65号 2009.9.18) 通知(21教生第1398号 2009.9.30) 終了届・保管証・発見届(21埋セ第86号 2009.11.26) 鑑査結果通知(21教生第2171号 2010.1.20)

要　　約	今回の調査は、朝日遺跡北区画を囲む中期第２環濠の一部を確認したことにある。中期第２環濠は、南にある逆茂木を有する溝が並行する位置関係にある。今回の調査区では既設の水路による削平が著しかったが、西方向にのびる溝がほぼ確定できた。したがって、西方に存在する逆茂木を有する溝につながる可能性が高くなった。そうすると、北区画の逆茂木は２条並行して総延長60m以上続く景観が想定される。